

# 令和4年度第1回文京区地域福祉推進本部 次第

日時：令和4年5月23日（月）9時30分～

場所：シビックセンター24階 区議会第一委員会室

## 1 開会

## 2 議題

(1) 令和4年度の分野別検討体制及びスケジュールについて

(2) 分野別計画の策定に向けた実態調査の概要について

ア 高齢者等実態調査の概要について

イ 障害者（児）実態・意向調査の概要について

ウ 健康に関するニーズ調査の概要について

(3) 子ども・子育て支援事業計画の見直し等について

## 3 その他

## 4 閉会

### 《配付資料》

【資料第1号】 令和4年度の分野別検討体制及びスケジュールについて

（別紙） 令和4年度 地域福祉推進協議会等 年間スケジュール（案）

【資料第2号】 高齢者等実態調査の概要について

【資料第3号】 障害者（児）実態・意向調査の概要について

【資料第4号】 健康に関するニーズ調査の概要について

【資料第5号】 子ども・子育て支援事業計画の見直し等について

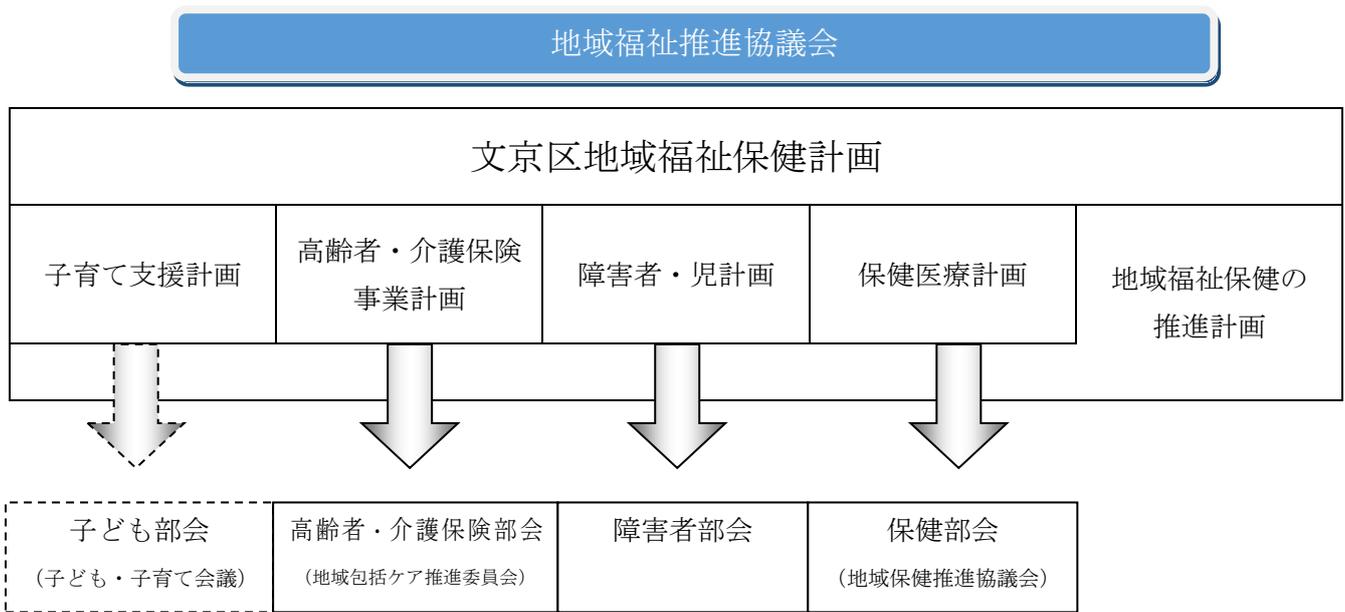
（別紙） 文京区子ども生活状況調査報告書

【参考資料1】 文京区地域福祉推進協議会委員名簿

【参考資料2】 文京区地域福祉推進本部幹事会名簿

## 令和4年度の分野別検討体制及びスケジュールについて

高齢者・介護保険事業計画、障害者・児計画及び保健医療計画の実態調査の実施に当たり、各実態調査の検討を行うため、地域福祉推進協議会の下に設置する、分野別検討部会（以下「部会」という。）を開催する。



※子ども部会については、子ども・子育て支援事業計画の見直し等について検討を行う。

<参考：計画の期間について> \*網掛けは次期計画期間

平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
			地域福祉保健の推進計画			地域福祉保健の推進計画					
		子育て支援計画					子育て支援計画				
			高齢者・介護保険事業計画			高齢者・介護保険事業計画					
			障害者・児計画			障害者・児計画					
		保健医療計画				保健医療計画					



		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
議会				6月議会			9月議会		11月議会			2月議会	
協議会													
推進本部			・実態調査概要 ・子ども・子育て支援 事業計画の見直し等			・令和3年度実績報 告 ・実態調査項目報告 ・子ども・子育て支援 事業計画の検討状 況等					・実態調査結果報告 ・子ども・子育て支援 事業計画の計画案 等		
幹事会													
高齢者・介 護保険部会	部会		・実態調査概要検討			・令和3年度実績報告 ・実態調査項目検討		・実態調査項目報告			・実態調査結果概要 報告		・実態調査結果報告
	事務局	・実態調査概要検討 ・質問項目検討		・委託業者決定				・9/25 区報掲載	・調査票発送・回収	・調査票集計・分析	・調査票集計・分析		・報告書印刷 ・報告書納品
	議会			・実態調査概要報告			・調査項目報告					・実態調査結果報告	
障害者部会	部会		・実態調査概要検討 ・実態調査項目検討			・令和3年度実績報告 ・実態調査項目報告					・実態調査結果報告		
	事務局	・実態調査概要検討 ・質問項目検討	・委託業者決定		・インタビュー調査	・インタビュー調査	・9/25 区報掲載	・調査票発送・回収	・調査票集計・分析	・調査票集計・分析			・報告書印刷 ・報告書納品
	議会			・実態調査概要報告			・調査項目報告					・実態調査結果報告	
保健部会	部会		・実態調査概要検討 ・質問項目検討			・令和3年度実績報告 ・実態調査項目報告					・実態調査結果報告		
	事務局	・実態調査概要検討 ・質問項目検討	・委託業者決定				・9/25 区報掲載	・調査票発送・回収	・調査票集計・分析	・調査票集計・分析			・報告書印刷 ・報告書納品
	議会			・実態調査概要報告			・調査項目報告					・実態調査結果報告	
子ども部会	部会					・令和3年度実績報告 ・子ども・子育て支援事 業計画の検討状況等			(開催予定)		・計画案報告		
	事務局	・取組内容検討	・人口推計等	・人口推計 ・ニーズ量再算定 ・確保方策検討 等	・人口推計 ・ニーズ量再算定 ・確保方策検討 等		・9/25 区報掲載	・パブリックコメント実 施等	・パブリックコメント集 計等				・追補版納品
	議会 ※			・取組内容報告			・検討結果等報告					・計画案報告	

※「子ども・子育て支援調査特別委員会」へ報告

## 高齢者等実態調査の概要について

### 1 目的

文京区の65歳以上の高齢者及びその家族の生活実態や意識、介護保険サービスの利用状況等に加え、様々な分野の地域活動の主体として期待される50歳以上の現役世代の意識や意向及び介護サービスを提供する事業者の実情等を把握することによって、高齢者・介護保険事業計画（令和6年度～令和8年度）の策定に必要な基礎資料を得ることを目的として実施する。

### 2 調査の種類、対象者及び調査項目等

#### (1) 区民向け調査

調査名	対象者	調査項目（予定）	調査実施数	対象者数
① 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査（要介護1～5以外の高齢者）	第1号被保険者 ※1 要介護等の認定を受けていない被保険者	日常生活圏域ごとに被保険者の身体及び生活状況、地域活動、生きがい等	約3,000人 無作為抽出	約35,000人
	要支援認定者 ※2 在宅の要支援認定者			約2,200人
② 50歳以上の現役世代調査	50歳以上の現役世代 ※3 要介護等の認定を受けていない50～64歳の第2号被保険者	日常生活圏域ごとに被保険者の地域活動、生きがい等	約3,000人 無作為抽出	約43,000人
③ 在宅介護実態調査（郵送）	要介護認定者 ※4 在宅の要介護認定者及びその家族	被保険者本人の心身の状態、サービスの利用実態及びニーズ、介護者の就労状況等	約3,000人 無作為抽出	約6,000人
④ 在宅介護実態調査（聞き取り）			約100人 抽出	

#### (2) 事業者向け調査

調査名	対象者	調査項目（予定）	調査実施数	対象者数
⑤ 介護サービス事業者調査	介護サービス事業者 区内で介護サービス事業所を運営する事業者	事業者概要、今後の事業展開、人材確保策、研修、危機管理、サービスの質の向上への取組等	約200事業者 事業者全数	約200事業者
⑥ 介護事業従事者調査	介護事業従事者 区内の介護サービス事業所に勤務する介護事業従事者等	本人の労働状況や仕事に対する思い等	約1,000人 事業者による抽出	不明

※1 「第1号被保険者」…要介護・要支援認定を受けていない65歳以上の被保険者

※2 「要支援認定者」…在宅で要支援認定を受けている65歳以上の被保険者

※3 「50歳以上の現役世代」…要介護・要支援認定を受けていない50～64歳の被保険者

※4 「要介護認定者」…在宅で要介護認定を受けている被保険者及びその家族

### 3 調査方法

- (1) ①、②、③、⑤、⑥は、アンケート（郵送配布・郵送又はインターネットによる回収）方式
- (2) ④は、介護支援専門員（ケアマネジャー）による聞き取り方式（③と④の対象者が重複しないよう調整する。）

### 4 調査項目

素案を作成の上、地域包括ケア推進委員会（高齢者・介護保険部会）で協議し、地域福祉推進協議会にて決定する。

### 5 業務委託

調査会社に委託して実施

- ・調査票等の作成
- ・発送
- ・回収
- ・集計
- ・分析
- ・コールセンター運営
- ・報告書（概要版）作成
- ・聞き取り調査（訪問調査を除く。）
- ・会議等の運営支援等

### 6 調査時期

令和4年10月実施予定

### 7 今後のスケジュール（案）

令和4年	5月18日	第1回地域福祉推進本部幹事会
	5月23日	第1回地域福祉推進本部
		第1回地域包括ケア推進委員会（調査概要の検討）
	5月30日	第1回地域福祉推進協議会
	6月	6月議会（調査概要の報告）
	7月	第2回地域包括ケア推進委員会（調査項目の検討）
	8月	第2回地域福祉推進本部
		第2回地域福祉推進協議会
	9月	9月議会（調査項目の報告）
		第3回地域包括ケア推進委員会（調査項目の報告）
		区報9/25号
10月	調査票発送・回収	
11月	集計・分析	
令和5年	1月	第4回地域包括ケア推進委員会（調査結果概要の報告）
		第3回地域福祉推進本部
		第3回地域福祉推進協議会
2月	2月議会（調査結果の報告）	
3月	調査報告書納品	
	第5回地域包括ケア推進委員会（調査結果の報告）	

## 障害者（児）実態・意向調査の概要について

### 1 目的

令和5年度に予定している障害者・児計画の策定に向け、計画の基礎資料となる障害者（児）の生活実態、サービス事業者の状況を調査するとともに、障害福祉施策への意向を把握するため、実態・意向調査を行う。

### 2 調査の種類、対象者等

本調査では、身体障害者、知的障害者、精神障害者、難病患者、障害児、サービス事業者及び長期入院施設を対象とした量的調査（アンケート調査）並びに区内施設等を利用する知的障害者、精神障害者を対象とした質的調査（グループインタビュー調査）を実施する。

#### (1) 量的調査（アンケート調査）

##### ① 調査種類

- ア 在宅の方
- イ 施設に入所している方
- ウ 障害児の方
- エ サービス事業者
- オ 長期入院施設

##### ② 調査対象者

###### ア 身体障害者

区内に居住又は区外施設等に入所している18歳以上の身体障害者手帳所持者  
約1,880人（全体約4,430人）

（肢体・内部疾患については無作為抽出、その他の障害については悉皆）

<内訳>

視覚：約380人（悉皆）

聴覚：約300人（悉皆）

音声・言語：約50人（悉皆）

肢体：約600人（約2,000人から無作為抽出）

内部：約550人（約1,700人から無作為抽出）

###### イ 知的障害者

区内に居住又は区外施設等に入所している18歳以上の愛の手帳所持者  
約700人（悉皆）

###### ウ 精神障害者

区内に居住している18歳以上の精神障害者保健福祉手帳所持者  
約1,700人（悉皆）

###### エ 難病患者

区内に居住している18歳以上の難病患者（医療券所持者）  
約1,900人（悉皆）

オ 障害児

18歳未満の障害児通所給付等受給者証所持者及び各手帳所持者  
約700人（悉皆）

カ 区内事業者

区内にある障害福祉サービス、障害児通所支援サービスを行う事業者  
約100施設

キ 長期入院施設

区民が長期入院している都内の精神科病院 約70施設

(2) 質的調査（グループインタビュー調査）

① 調査種類

施設訪問等による聞き取り調査

② 調査対象者

区内施設・都外施設を利用する18歳以上の愛の手帳所持者、精神障害者保健福祉手帳所持者

### 3 調査項目

(1) 量的調査

対象者の属性（年齢、障害状況等）、居住環境、介護状況、外出環境、就労状況、防災、相談・情報提供等

(2) 質的調査

日中及び施設での過ごし方、今後希望する生活、余暇、相談、就労状況、防災等

### 4 調査方法

(1) 量的調査

原則、アンケート（郵送配布・郵送又はインターネットによる回収）方式。ただし、視覚障害者へは、希望により訪問又は電話での聞き取り調査を実施する。

(2) 質的調査

区内施設等での訪問又はオンラインによる聞き取りを中心に行う。東洋大学との協働で実施予定。

### 5 調査時期

(1) 量的調査

令和4年10月 調査票配付・回収

(2) 質的調査

令和4年7月～9月 グループインタビュー調査実施

## 6 今後のスケジュール（案）

令和4年	5月13日	第1回障害者部会（実態調査の概要）
	5月23日	第1回地域福祉推進本部
	5月30日	第1回地域福祉推進協議会
	6月	6月議会（調査概要の報告）
	7月	第2回障害者部会（調査項目の報告等） 【質的調査】グループインタビュー実施（～9月）
	8月	第2回地域福祉推進本部 第2回地域福祉推進協議会
	9月	9月議会（調査項目の報告等） 区報 9/25号（調査実施の周知）
	10月	【量的調査】調査票配付・回収 【質的調査】グループインタビュー集計・分析
	11月	【量的調査】集計・分析
令和5年	1月	第3回障害者部会（調査結果の報告） 第3回地域福祉推進本部 第3回地域福祉推進協議会
	2月	2月議会（調査結果の報告）
	3月	調査報告書納品

## 健康に関するニーズ調査の概要について

### 1 目的

ニーズ調査の実施により、区民の健康状態や健康管理の方法、健康づくりに関する要望等を把握し、現行の保健医療計画の最終評価資料及び次期保健医療計画（令和6年度～令和11年度）の基礎資料とする。

### 2 調査対象者及び調査項目

#### (1) 調査対象者

18歳以上89歳以下の文京区在住者 4,800人（住民基本台帳から無作為抽出）

#### (2) 調査項目

対象者の属性、健康意識、健康管理、体重管理、運動、食生活・食育、睡眠・ストレス、こころの健康、たばこ、アルコール、歯と口腔、受療行動、地域とのつながり、新型コロナウイルス感染症、公衆浴場、区の施策等

### 3 調査方法

アンケート（郵送配布・郵送又はインターネットによる回収）方式

### 4 調査時期

令和4年10月実施予定

### 5 今後のスケジュール（案）

令和4年	5月23日	第1回地域福祉推進本部
	5月30日	第1回地域福祉推進協議会
	6月	6月議会（調査概要の報告）
	7月	第2回保健部会・第1回地域保健推進協議会（調査項目の検討）
	8月	第2回地域福祉推進本部 第2回地域福祉推進協議会
	9月	9月議会（調査項目の報告） 区報9/25号
	10月	調査票発送・回収
	11月～12月	集計・分析
令和5年	1月	第3回保健部会（調査結果の報告） 第3回地域福祉推進本部 第3回地域福祉推進協議会
	2月	2月議会（調査結果の報告）
	3月	調査報告書納品

## 子ども・子育て支援事業計画の見直し等について

### 1 概要

地域福祉保健計画の分野別計画である子育て支援計画（令和2年度～令和6年度）に内包される子ども・子育て支援事業計画（以下「子ども・子育て支援事業計画」という。）について、令和4年度が計画期間の中間年度に当たることから、見直しの検討を行う。

また、子どもの貧困対策の推進に関する法律（平成25年法律第64号）第9条第2項に規定する市町村計画（以下「子どもの貧困対策計画」という。）について、子どもの生活状況調査（令和3年度実施）等を踏まえ、子育て支援計画に追補する。

### 2 基本的な考え方

#### (1) 子ども・子育て支援事業計画

最新の人口統計等により人口推計を更新し、ニーズ量の算定を行い、計画に定める量の見込みが大きく変動する場合は、計画の見直しを行う。ただし、新型コロナウイルス感染症等の影響により、今後のニーズ量の想定が困難であり、計画の見直しの必要性を判断できない場合は、その限りではない。

#### (2) 子どもの貧困対策計画

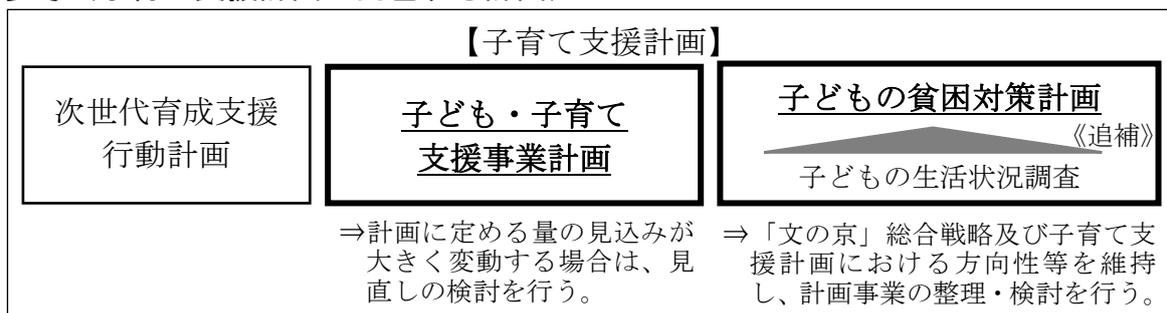
「文の京」総合戦略及び子育て支援計画に基づき、これまでも子どもの貧困対策を総合的に推進してきたことから、これらの計画における方向性等を維持し、子育て支援計画が子どもの貧困対策計画を内包するものとして、計画事業の整理・検討を行う。

なお、計画事業の整理・検討に当たっては、子どもの生活状況調査の結果（別紙「文京区子どもの生活状況調査報告書」のとおり）を踏まえることとする。

### 3 今後のスケジュール（案）

令和4年	5月	第1回地域福祉推進本部、第1回地域福祉推進協議会
	6月	議会報告（子ども・子育て支援調査特別委員会）
	7～8月	第1回子ども・子育て会議兼地域福祉推進協議会子ども部会 第2回地域福祉推進本部、第2回地域福祉推進協議会
	9月	議会報告（子ども・子育て支援調査特別委員会） 第2回子ども・子育て会議兼地域福祉推進協議会子ども部会
	9～10月	パブリックコメント
令和5年	1月	第3回子ども・子育て会議兼地域福祉推進協議会子ども部会 第3回地域福祉推進本部、地域福祉推進協議会
	2月	議会報告（子ども・子育て支援調査特別委員会）
	3月	追補版納品

### 4 参考（子育て支援計画が内包する計画）



# 文京区子ども生活状況調査

## 報 告 書

令和4年3月

文 京 区

# 目次

<b>第1章 調査の概要</b> .....	<b>1</b>
1. 調査の目的 .....	3
2. 調査の概要 .....	3
(1) 0歳から高校生世代までの子どもを養育する家庭への調査 .....	3
(2) 事業利用者調査 .....	3
3. 調査時期 .....	3
4. 報告書の見方 .....	4
5. 調査項目 .....	5
<b>第2章 調査結果の詳細（保護者調査）</b> .....	<b>9</b>
(1) 回答者の属性 .....	11
(2) 区実施事業の利用状況 .....	12
(3) 新型コロナウイルス感染症による自身への影響 .....	19
(4) 家庭での体験の状況 .....	22
(5) 子どもの体験の状況 .....	26
(6) 家庭の家計状況 .....	29
(7) 経済的理由で諦めた経験 .....	31
(8) 子育てについての相談先の有無 .....	37
(9) 子育てについて相談できる人（相談したい人） .....	38
<b>第3章 調査結果の詳細（子ども調査）</b> .....	<b>39</b>
(1) 世帯タイプ .....	41
(2) 区実施事業の認知状況 .....	42
(3) 不安や悩みの有無 .....	45
(4) 悩みごとや心配ごとの相談先 .....	47
(5) 相談窓口について .....	48
<b>第4章 資料（自由記載）</b> .....	<b>51</b>
<b>第5章 資料（調査票）</b> .....	<b>69</b>

# 第1章 調査の概要



## 1. 調査の目的

子どもの貧困対策の推進に関する法律(平成25年法律第64号)第9条第2項に規定する市町村計画(以下「子どもの貧困対策計画」という。)の策定にあたり、その基礎資料を得るため、昨今の新型コロナウイルス感染症の影響を捉えつつ、0歳から高校生世代までの子どもを養育する家庭の支援ニーズを把握するため、調査を実施する。

## 2. 調査の概要

### (1) 0歳から高校生世代までの子どもを養育する家庭への調査(以下、「全体」という)

調査対象者を住民基本台帳から無作為に抽出し、郵送配布及びインターネット回収にて実施。

調査対象		配布数	回答数	回答率	対象人口(令和3年4月1日現在)
保護者	未就学児	1,500人	628人	41.9%	0~5歳 約12,300人
	小学生	1,500人	594人	39.6%	6~11歳 約11,800人
	中学生	900人	311人	34.6%	12~14歳 約5,000人
	高校生世代	900人	310人	34.4%	15~17歳 約4,300人
本人	中学生	900人	218人	24.2%	12~14歳 約5,000人
	高校生	900人	216人	24.0%	15~17歳 約4,300人

### (2) 事業利用者調査(以下、「事業利用者」という)

事業利用者に対し、事業アンケートと共に任意のアンケートを郵送配付及びインターネット回収にて実施。

調査対象	配布数	回答数	回答率	対象となる子どもの年齢・年代
児童扶養手当受給者 (保護者)	490世帯	72世帯	14.7%	18歳に到達した最初の3月31日までの児童
就学援助受給者(保護者)	635人	219人	34.5%	小・中学生
就学援助受給者 (中学生本人)	353人	71人	20.1%	中学生

## 3. 調査時期

全体調査……………令和3年9月10日(金)~令和3年10月5日(火)

事業利用者調査……令和3年10月22日(金)~令和3年11月15日(月)

## 4. 報告書の見方

○図中の調査対象の記載は、以下の通り定義します。

- ①0歳から高校生世代までの子どもを養育する家庭の保護者……………全体調査保護者
- ②0歳から高校生世代までの子どもを養育する家庭の子ども本人…全体調査子ども本人
- ③児童扶養手当又は就学援助受給者の保護者……………事業利用者調査保護者
- ④児童扶養手当又は就学援助受給者の子ども本人……………事業利用者調査子ども本人

○本文、表、グラフなどに使われる「n」は、各設問に対する回答者数です。

○百分率(%)の計算は、小数第2位を四捨五入し、小数第1位まで表示しました。したがって、単数回答(1つだけ選ぶ問)においても、四捨五入の影響で、%を足し合わせて100%にならない場合があります。

○複数回答(2つ以上選んでよい問)においては、%の合計が100%を超える場合があります。

○本文、グラフは、表示の都合上、調査票の選択肢等の文言を一部簡略化している場合があります。

○本文中では、調査結果の数値は「%」、比較によるパーセントの差は「ポイント」という単位で表記をしています。

○回答者数が30未満の場合、比率が上下しやすいため、傾向を見るにとどめ、本文中では触れていない場合があります。

○平成30年度に実施した文京区子育て支援に関するニーズ調査(以下、「H30 ニーズ調査」という)と同様の調査項目については、時系列の変化について特徴等を記述しています。

## 5. 設問項目

### <保護者調査>

設問番号※	設問内容	備考
問1	児童扶養手当又は就学援助 利用状況・利用のきっかけ、利用意向・該当しない（該当しなかった）理由・利用したくない理由	事業利用者調査のみ
問2	児童扶養手当又は就学援助の満足度	事業利用者調査のみ
問2-1	満足又は不満足の原因	事業利用者調査のみ
問3	本調査の回答者	共通設問
問4	子どもの人数	共通設問
問5	子どもの年齢	共通設問
問6	家族構成	共通設問
問7【1】	区の事業について 児童育成手当 利用状況・利用のきっかけ、利用意向・該当しない（該当しなかった）理由・利用したくない理由	共通設問
問7【2】	区の事業について 入学支度資金融資あっせん制度 利用状況・利用のきっかけ、利用意向・該当しない（該当しなかった）理由・利用したくない理由	共通設問
問7【3】	区の事業について 奨学資金の給付 利用状況・利用のきっかけ、利用意向・該当しない（該当しなかった）理由・利用したくない理由	共通設問
問7【4】	区の事業について 受験生チャレンジ支援貸付事業 利用状況・利用のきっかけ、利用意向・該当しない（該当しなかった）理由・利用したくない理由	共通設問
問7【5】	区の事業について 中学生学校外学習費用の助成 利用状況・利用のきっかけ、利用意向・該当しない（該当しなかった）理由・利用したくない理由	共通設問
問7【6】	区の事業について 学習支援 利用状況・利用のきっかけ、利用意向・該当しない（該当しなかった）理由・利用したくない理由	共通設問
問7【7】	区の事業について 子育て支援サービスの利用負担軽減 利用状況・利用のきっかけ、利用意向・該当しない（該当しなかった）理由・利用したくない理由	共通設問
問7【8】	区の事業について 母子家庭及び父子家庭自立支援事業 利用状況・利用のきっかけ、利用意向・該当しない（該当しなかった）理由・利用したくない理由	共通設問
問7【9】	区の事業について 母子および父子福祉資金 利用状況・利用のきっかけ、利用意向・該当しない（該当しなかった）理由・利用したくない理由	共通設問
問7【10】	区の事業について 子ども宅食 利用状況・利用のきっかけ、利用意向・該当しない（該当しなかった）理由・利用したくない理由	共通設問
問7【11】	区の事業について 子ども食堂 利用状況・利用のきっかけ、利用意向・利用したくない理由	共通設問
問8【A】	家庭での体験の状況 海水浴やプールに行く（コロナ前後）	共通設問
問8【B】	家庭での体験の状況 博物館・科学館・美術館などに行く（コロナ前後）	共通設問
問8【C】	家庭での体験の状況 キャンプやバーベキューに行く（コロナ前後）	共通設問
問8【D】	家庭での体験の状況 スポーツ観戦や劇場や映画館に行く（コロナ前後）	共通設問

設問番号※	設問内容	備考
問8【E】	家庭での体験の状況 遊園地やテーマパークに行く（コロナ前後）	共通設問
問8【F】	家庭での体験の状況 ファミリーレストラン等で外食をする（コロナ前後）	共通設問
問9 A	子どもの体験の状況 毎月お小遣いを渡す	共通設問
問9 B	子どもの体験の状況 毎年新しい洋服・靴を買う	共通設問
問9 C	子どもの体験の状況 習い事（音楽、スポーツ、習字等）に通わせる	共通設問
問9 D	子どもの体験の状況 学習塾に通わせる（または家庭教師に来てもらう）	共通設問
問9 E	子どもの体験の状況 お誕生日のお祝いをする	共通設問
問9 F	子どもの体験の状況 1年に1回程度家族旅行に行く	共通設問
問9 G	子どもの体験の状況 クリスマスのプレゼントや正月のお年玉をあげる	共通設問
問9 H	子どもの体験の状況 子どもの学校行事などに親が参加する	共通設問
問9 I	子どもの体験の状況 本や電子機器（タブレットやスマートフォン等）を買う	共通設問
問9 J	子どもの体験の状況 オンライン型の学習支援を受けさせる	共通設問
問10【1】	新型コロナウイルス感染症による自身への影響 収入が減った（減る見込みになった）	共通設問
問10【2】	新型コロナウイルス感染症による自身への影響 支出が増えた（増える見込みになった）	共通設問
問10【3】	新型コロナウイルス感染症による自身への影響 精神的に不安になることが増えた、イライラすることが増えた	共通設問
問10【4】	新型コロナウイルス感染症による自身への影響 夫婦・パートナーとの関係が悪化した	共通設問
問10【5】	新型コロナウイルス感染症による自身への影響 子どもに厳しく怒ったり叱った	共通設問
問10【6】	新型コロナウイルス感染症による自身への影響 子どもから強い反抗的な態度をされた	共通設問
問10【7】	新型コロナウイルス感染症による自身への影響 現在の就業状況	共通設問
問11	家庭の家計状況（コロナ前後）	共通設問
問12【1】	経済的理由で諦めた経験 衣類の購入（コロナ前後）	共通設問
問12【2】	経済的理由で諦めた経験 食料の購入（コロナ前後）	共通設問
問12【3】	経済的理由で諦めた経験 家賃の支払い（コロナ前後）	共通設問
問12【4】	経済的理由で諦めた経験 住宅ローンの支払い（コロナ前後）	共通設問
問12【5】	経済的理由で諦めた経験 電気料金の支払い（コロナ前後）	共通設問
問12【6】	経済的理由で諦めた経験 ガス料金の支払い（コロナ前後）	共通設問
問12【7】	経済的理由で諦めた経験 水道料金の支払い（コロナ前後）	共通設問
問12【8】	経済的理由で諦めた経験 電話料金の支払い（コロナ前後）	共通設問
問12【9】	経済的理由で諦めた経験 学習教材の支払い（コロナ前後）	共通設問
問12【10】	経済的理由で諦めた経験 遊びのための費用の支払い（コロナ前後）	共通設問
問12【11】	経済的理由で諦めた経験 その他経費の支払い（コロナ前後）	共通設問
問13	子育てについての相談先の有無	共通設問
問13-1	子育てについて相談できる人（相談したい人）	共通設問
	自由意見	共通設問

※事業利用者調査の設問番号

<子ども調査>

設問番号	設問内容	備考
問1	本調査の回答者	共通設問
問2	家族構成	共通設問
問3【1】	区の事業について 学習支援 認知状況・認知のきっかけ・利用意向	共通設問
問3【2】	区の事業について 中学生学校外学習費用の助成 認知状況・認知のきっかけ・利用意向	共通設問
問3【3】	区の事業について 受験生チャレンジ支援貸付事業 認知状況・認知のきっかけ・利用意向	共通設問
問3【4】	区の事業について 奨学金資金高等学校等の給付 認知状況・認知のきっかけ・利用意向	共通設問
問3【5】	区の事業について 入学支度資金融資あっせん 認知状況・認知のきっかけ・利用意向	共通設問
問3【6】	区の事業について こども食堂 認知状況・認知のきっかけ・利用意向	共通設問
問3【7】	区の事業について こども宅食 認知状況・認知のきっかけ・利用意向	共通設問
問4	不安や悩みの有無	共通設問
問5	悩みごとや心配ごとの相談先	共通設問
問6【1】	相談窓口について 教育センター「総合相談室」 認知状況・認知のきっかけ・利用意向・利用したくない理由	共通設問
問6【2】	相談窓口について 青少年プラザb-lab 教育センター 認知状況・認知のきっかけ・利用意向・利用したくない理由	共通設問
問6【3】	相談窓口について 自立相談支援窓口 認知状況・認知のきっかけ・利用意向・利用したくない理由	共通設問
問6【4】	相談窓口について 保健サービスセンター 認知状況・認知のきっかけ・利用意向・利用したくない理由	共通設問
問6【5】	相談窓口について 子ども家庭支援センター 認知状況・認知のきっかけ・利用意向・利用したくない理由	共通設問
問6【6】	相談窓口について 東京都児童相談センター 認知状況・認知のきっかけ・利用意向・利用したくない理由	共通設問
	自由意見	共通設問



## 第2章 調査結果の詳細（保護者調査）



## (1) 回答者の属性 (調査回答者、子どもの人数、世帯タイプ)

本調査の回答者は、全体調査では「父」が62.5%と最も多く、次いで「母」が36.5%となっている。事業利用者調査は「母」が77.7%と最も多く、次いで「父」が18.9%となっている。

<図表 調査回答者 (全体調査・事業利用者調査比較) >



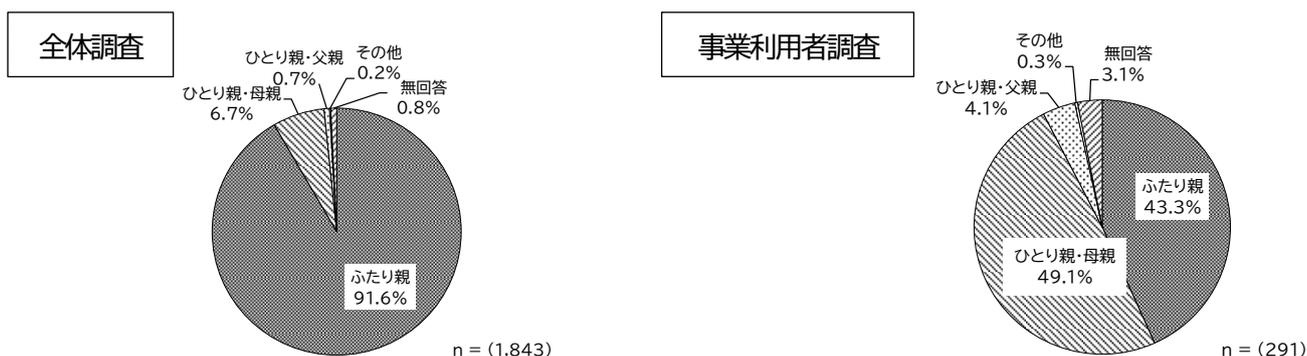
子どもの人数については、全体調査では「2人」が48.8%と最も多く約半数を占めており、次いで「1人」が35.3%となっている。事業利用者調査は「1人」が41.9%と最も多く、次いで「2人」が38.1%となっている。

<図表 子どもの人数 (全体調査・事業利用者調査比較) >



家族構成については、全体調査では「ふたり親」が91.6%と最も多くなっており、「ひとり親・母親」(6.7%)と「ひとり親・父親」(0.7%)をあわせた『ひとり親』は7.4%となっている。事業利用者調査は「ひとり親・母親」が49.1%と最も多くなっており、「ひとり親・父親」(4.1%)をあわせた『ひとり親』は53.2%と半数を超え、「ふたり親」は43.3%となっている。

<図表 世帯タイプ (全体調査・事業利用者調査比較) >

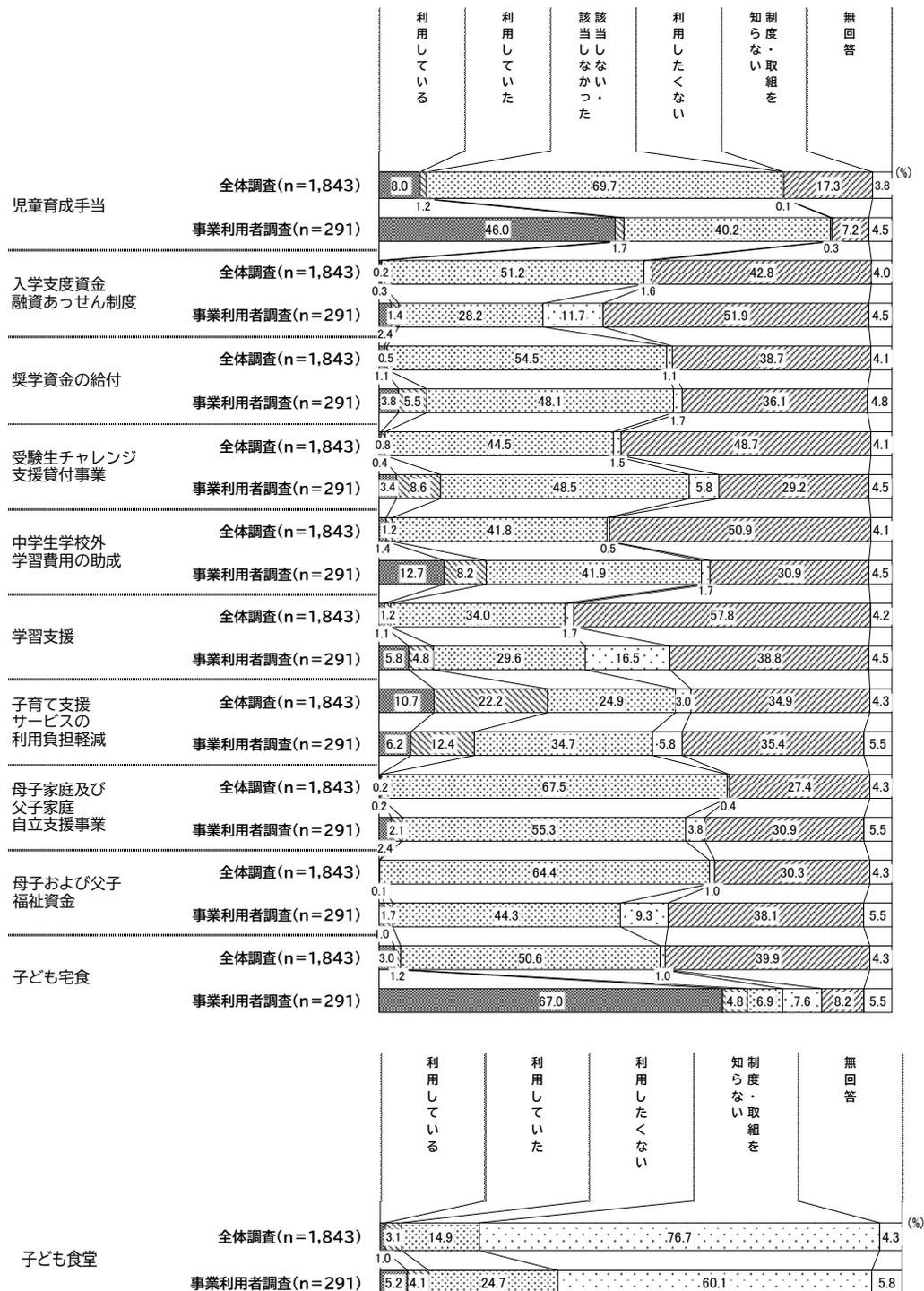


## (2) 区実施事業の利用状況

【問】以下の取り組みについて、「利用状況」はそれぞれ1つずつ、「利用のきっかけ、利用意向」はそれぞれあてはまるものすべてに○を付けてください。

区実施事業の利用状況を尋ねたところ、「利用している」と「利用していた」をあわせた『利用者』は、全体調査では「子育て支援サービスの利用負担軽減」が32.9%と最も多く、次いで「児童育成手当」が9.2%となっている。事業利用者調査は「こども宅食」が71.8%と最も多く、「児童育成手当」が47.7%、「中学生学校外学習費用の助成」が20.9%、「子育て支援サービスの利用負担軽減」が18.6%と続いている。

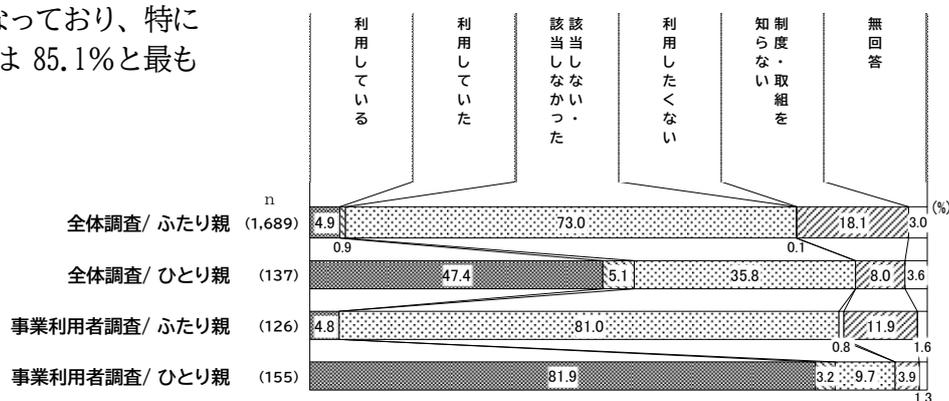
<図表 区実施事業の利用状況（全体調査・事業利用者調査比較）>



## 【1】児童育成手当 利用状況

児童育成手当の利用状況を世帯タイプ別にみると、『利用者』は、全体調査、事業利用者調査ともにひとり親の利用が高くなっており、特に事業利用者調査のひとり親では 85.1%と最も多くなっている。

<図表 児童育成手当の利用状況（世帯タイプ別）>

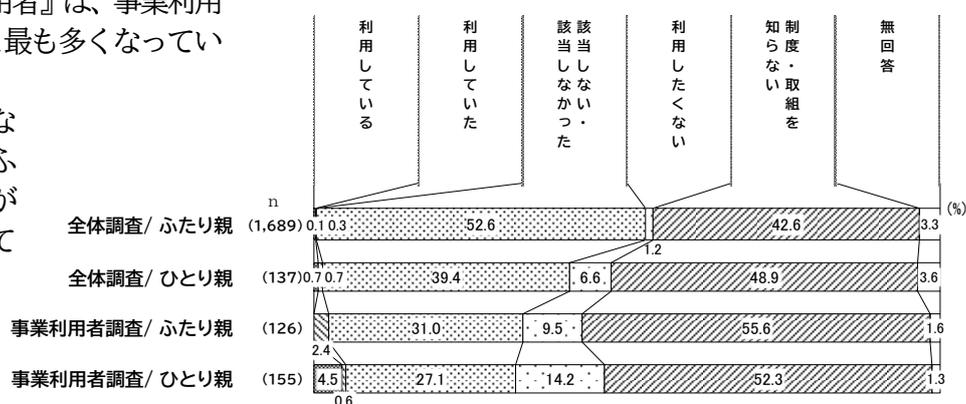


## 【2】入学支度資金融資あっせん制度 利用状況

入学支度資金融資あっせん制度の利用状況を世帯タイプ別にみると、『利用者』は、事業利用者調査のひとり親が 5.1%と最も多くなっている。

一方、「制度・取組を知らない」では、事業利用者調査のふたり親が 55.6%、ひとり親が 52.3%とともに半数を超えている。

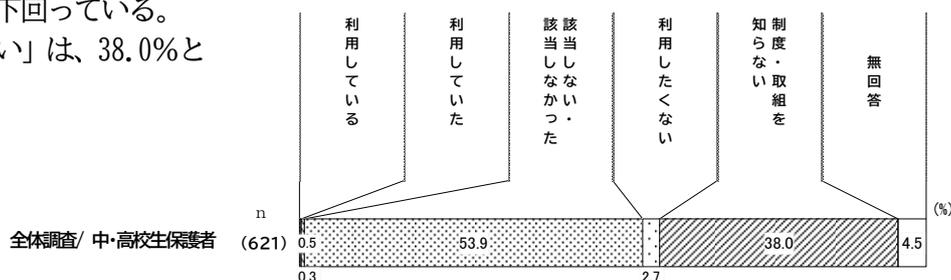
<図表 入学支度資金融資あっせん制度 利用状況（世帯タイプ別）>



全体調査について事業の対象者に絞って集計すると、『利用者』は 1.0%を下回っている。

一方、「制度・取組を知らない」は、38.0%となっている。

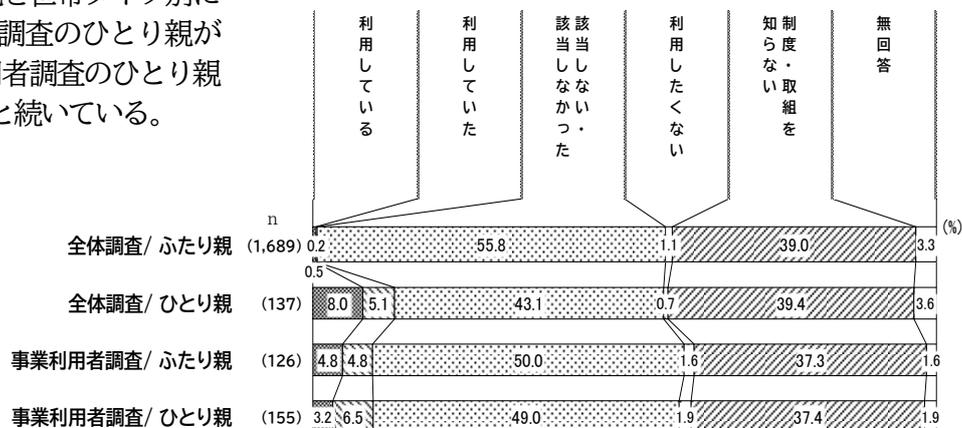
<図表 入学支度資金融資あっせん制度 利用状況（全体調査の対象者）>



### 【3】奨学資金の給付 利用状況

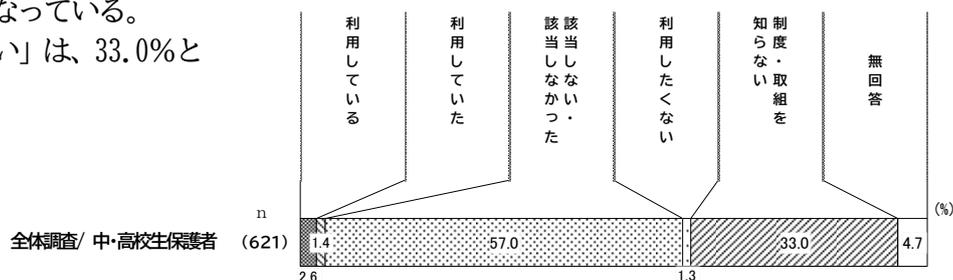
奨学資金の給付の利用状況を世帯タイプ別にみると、『利用者』は、全体調査のひとり親が13.1%と最も多く、事業利用者調査のひとり親が9.7%、ふたり親が9.6%と続いている。

<図表 奨学資金の給付 利用状況（世帯タイプ別）>



全体調査について事業の対象者に絞って集計すると、『利用者』は4.0%となっている。一方、「制度・取組を知らない」は、33.0%となっている。

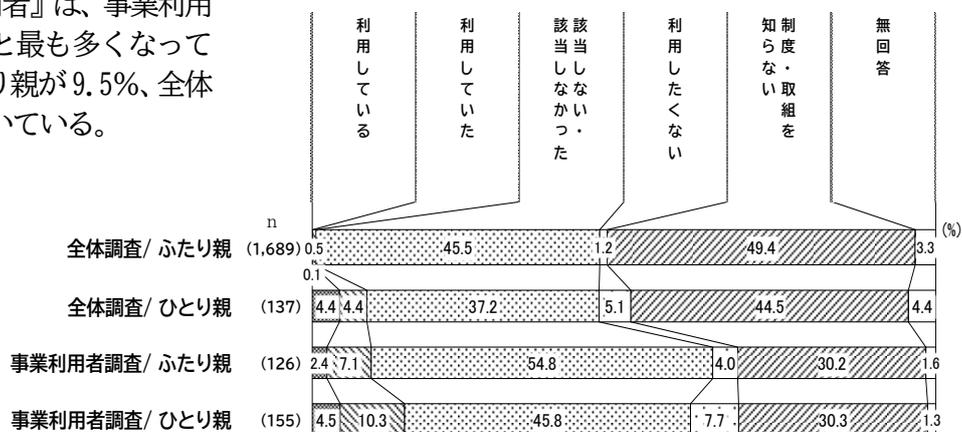
<図表 奨学資金の給付 利用状況（全体調査の対象者）>



### 【4】受験生チャレンジ支援貸付事業 利用状況

受験生チャレンジ支援貸付事業の利用状況を世帯タイプ別にみると、『利用者』は、事業利用者調査のひとり親が14.8%と最も多くなっており、事業利用者調査のふたり親が9.5%、全体調査のひとり親が8.8%と続いている。

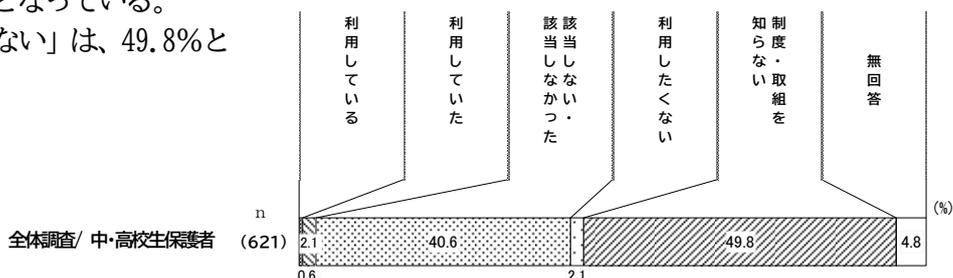
<図表 受験生チャレンジ支援貸付事業 利用状況（世帯タイプ別）>



全体調査について事業の対象者に絞って集計すると、『利用者』は2.7%となっている。

一方、「制度・取組を知らない」は、49.8%と約半数となっている。

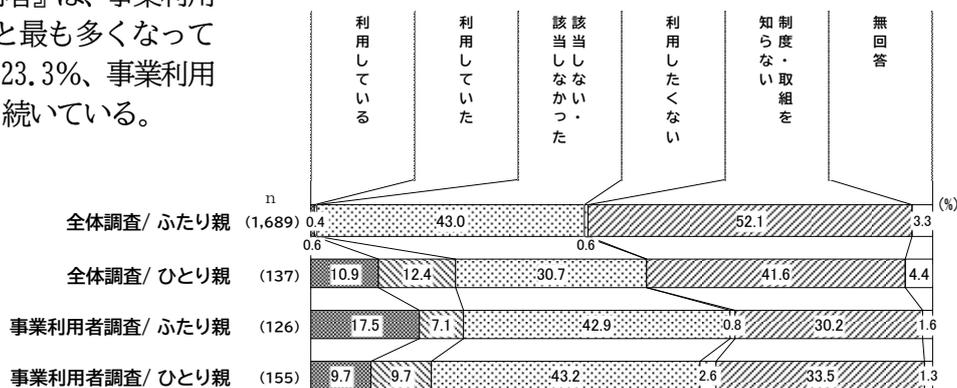
<図表 受験生チャレンジ支援貸付事業 利用状況（全体調査の対象別）>



**【5】中学生学校外学習費用の助成 利用状況**

中学生学校外学習費用の助成の利用状況を世帯タイプ別にみると、『利用者』は、事業利用者調査のふたり親が24.6%と最も多くなっており、全体調査のひとり親が23.3%、事業利用者調査のひとり親が19.4%と続いている。

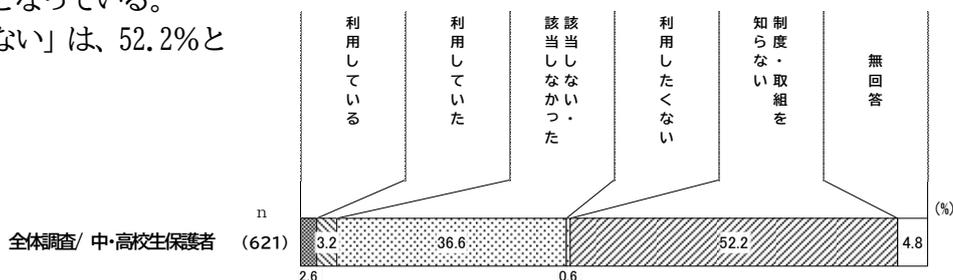
<図表 中学生学校外学習費用の助成 利用状況（世帯タイプ別）>



全体調査について事業の対象者に絞って集計すると、『利用者』は5.8%となっている。

一方、「制度・取組を知らない」は、52.2%と半数を超えている。

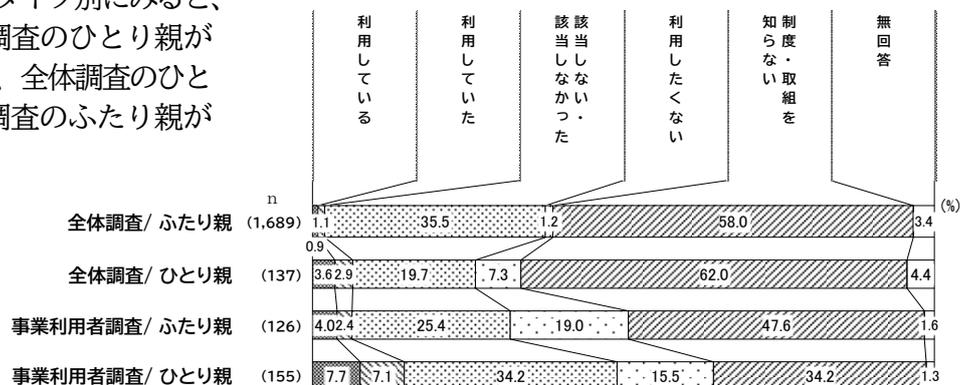
<図表 中学生学校外学習費用の助成 利用状況（全体調査の対象者）>



## 【6】学習支援 利用状況

学習支援の利用状況を世帯タイプ別にみると、『利用者』は、事業利用者調査のひとり親が14.8%と最も多くなっており、全体調査のひとり親が6.5%、事業利用者調査のふたり親が6.4%と続いている。

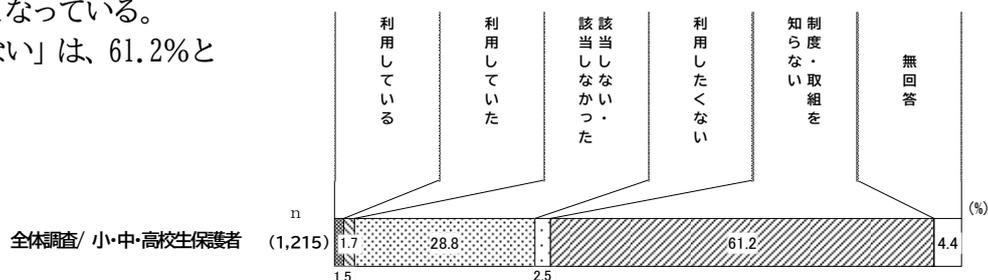
<図表 学習支援 利用状況 (世帯タイプ別)>



全体調査について事業の対象者に絞って集計すると、『利用者』は3.2%となっている。

一方、「制度・取組を知らない」は、61.2%と半数を超えている。

<図表 学習支援 利用状況 (全体調査の対象者別)>

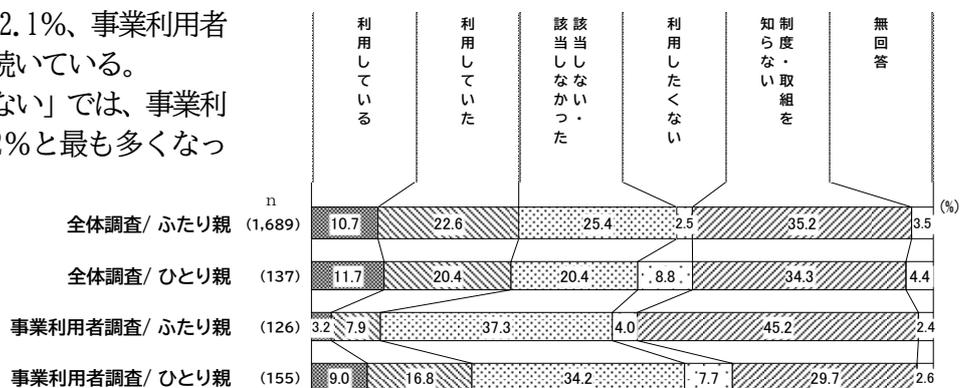


## 【7】子育て支援サービスの利用負担軽減 利用状況

子育て支援サービスの利用負担軽減の利用状況を世帯タイプ別にみると、『利用者』は、全体調査のふたり親が33.3%と最も多くなっており、全体調査のひとり親が32.1%、事業利用者調査のひとり親が25.8%と続いている。

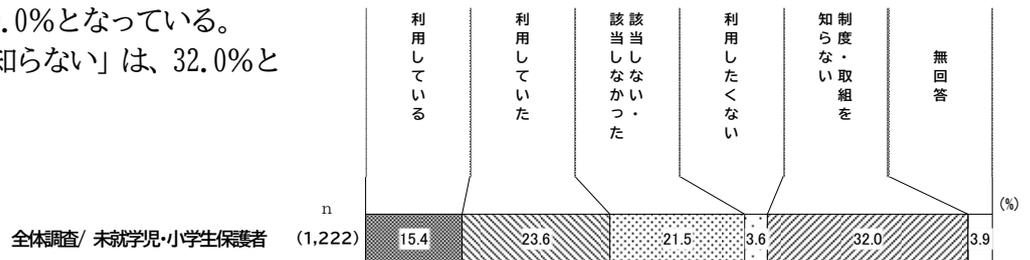
一方、「制度・取組を知らない」では、事業利用者調査のふたり親が45.2%と最も多くなっている。

<図表 子育て支援サービスの利用負担軽減 利用状況 (世帯タイプ別)>



全体調査について事業の対象者に絞って集計すると、『利用者』は39.0%となっている。  
一方、「制度・取組を知らない」は、32.0%と半数を超えている。

<図表 子育て支援サービスの利用負担軽減 利用状況（全体調査の対象者別）>

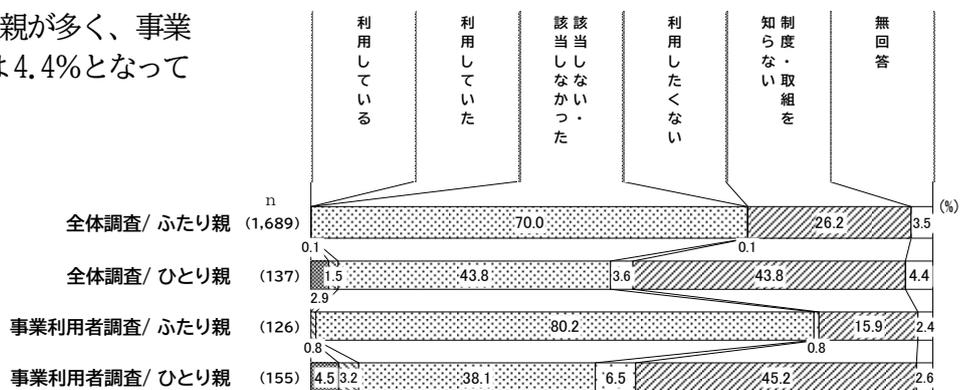


**【8】母子家庭及び父子家庭自立支援事業 利用状況**

母子家庭及び父子家庭自立支援事業の利用負担軽減の利用状況を世帯タイプ別にみると、『利用者』は、両調査ともにひとり親が多く、事業利用者調査は7.7%、全体調査は4.4%となっている。

一方、「制度・取組を知らない」についても両調査ともにひとり親が多く、事業利用者調査は45.2%、全体調査は43.8%となっている。

<図表 母子家庭及び父子家庭自立支援事業 利用状況（世帯タイプ別）>

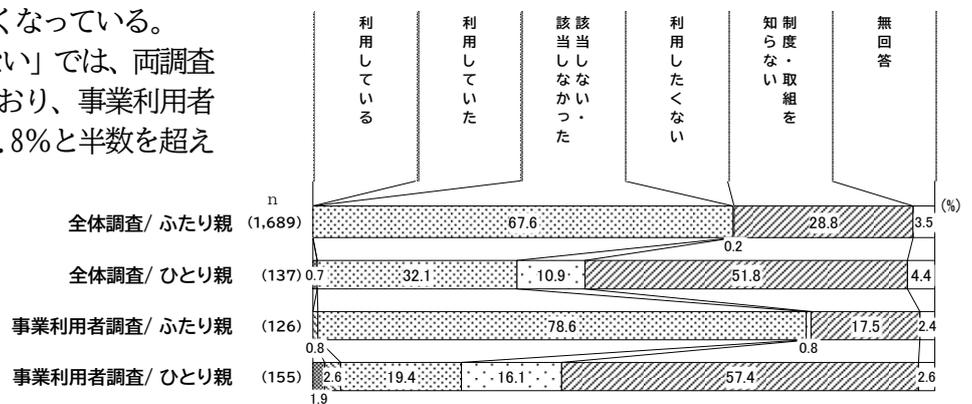


**【9】母子および父子福祉資金 利用状況**

母子および父子福祉資金の利用状況を世帯タイプ別にみると、『利用者』は、事業利用者調査のひとり親が4.5%と最も多くなっている。

一方、「制度・取組を知らない」では、両調査ともにひとり親が多くなっており、事業利用者調査は57.4%、全体調査は51.8%と半数を超えている。

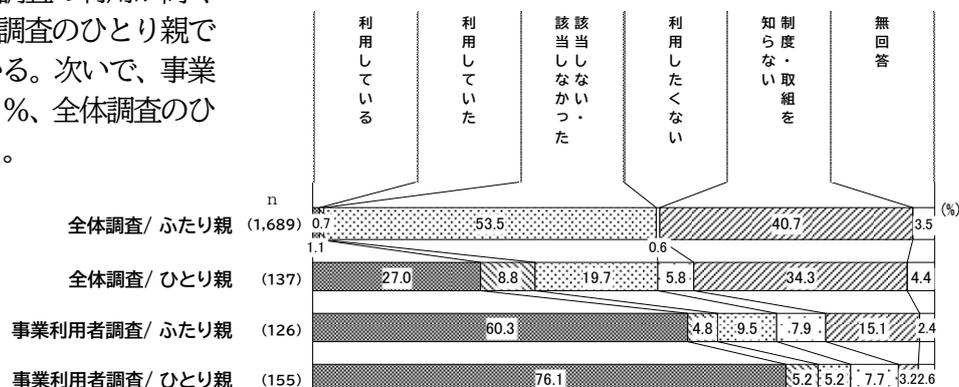
<図表 母子および父子福祉資金 利用状況（世帯タイプ別）>



## 【10】子ども宅食 利用状況

子ども宅食の利用状況を世帯タイプ別にみると、『利用者』は、事業利用者調査の利用が高くなっており、特に事業利用者調査のひとり親では81.3%と最も多くなっている。次いで、事業利用者調査のふたり親が65.1%、全体調査のひとり親が35.8%となっている。

<図表 子ども宅食 利用状況（世帯タイプ別）>

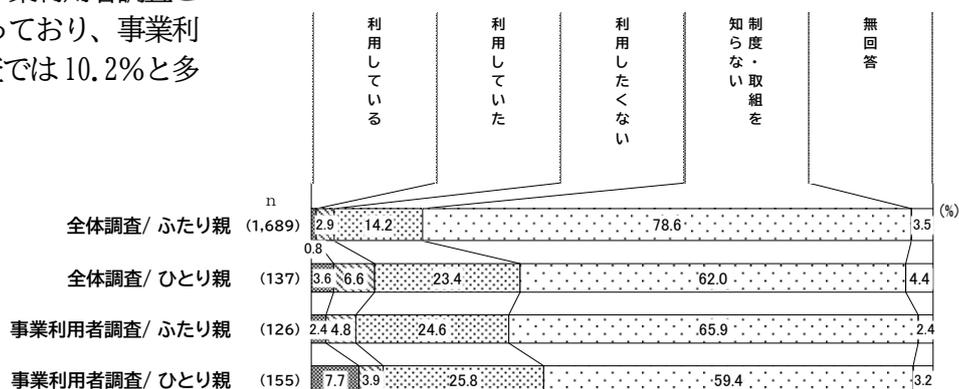


## 【11】子ども食堂 利用状況

子ども食堂の利用状況を世帯タイプ別にみると、『利用者』は、全体調査、事業利用者調査ともにひとり親の利用が高くなっており、事業利用者調査では11.6%、全体調査では10.2%と多くなっている。

一方、「制度・取組を知らない」では、全世帯タイプで半数を超えており、特に全体調査のふたり親が78.6%と最も多くなっている。

<図表 子ども食堂 利用状況（世帯タイプ別）>

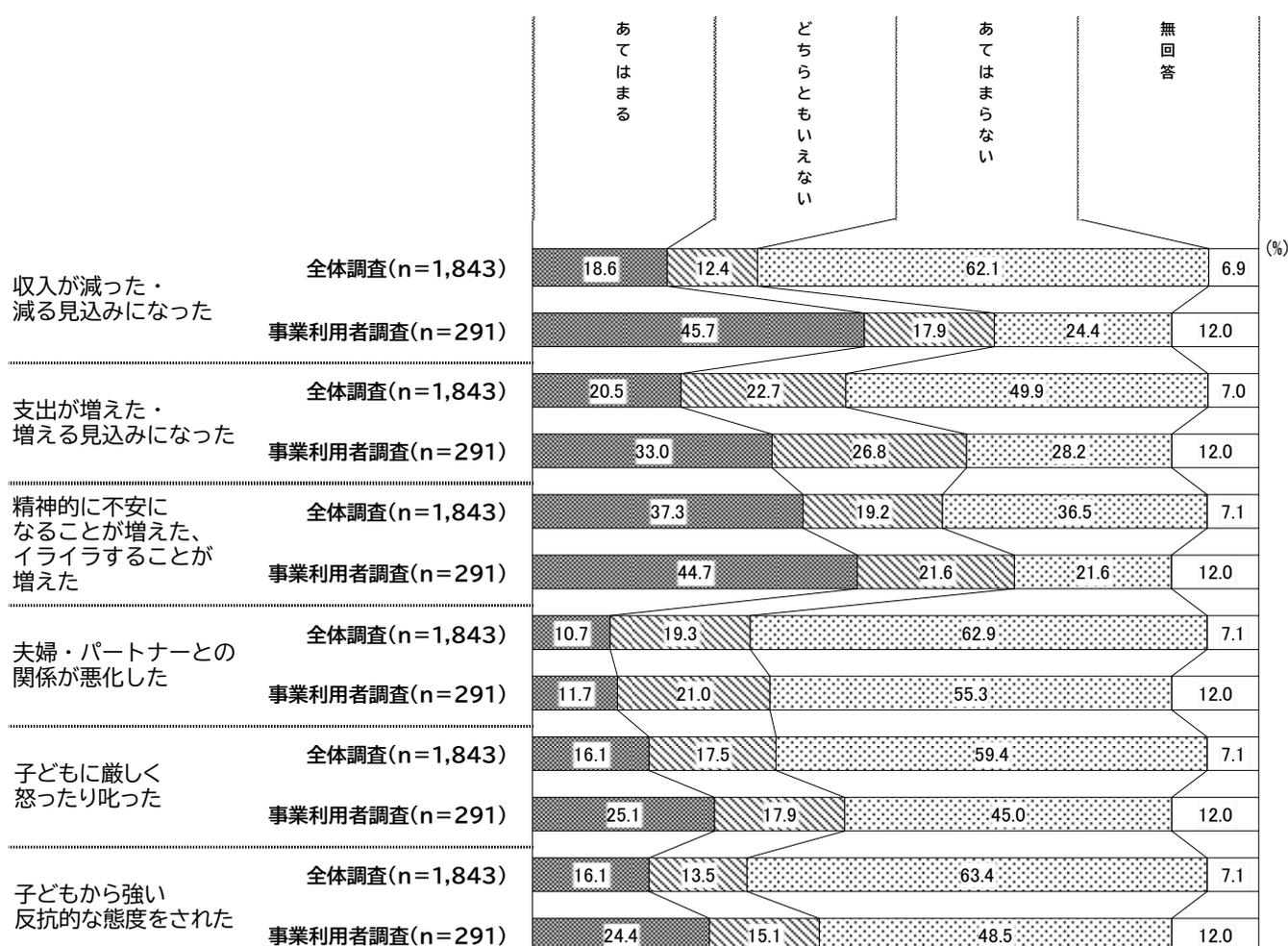


### (3) 新型コロナウイルス感染症による自身への影響

【問】新型コロナウイルス感染症による影響について、それぞれあてはまるもの1つずつに○をつけてください。

新型コロナウイルス感染症による自身への影響を尋ねたところ、「あてはまる」は、全ての項目で事業利用者調査が上回っており、特に「収入が減った・減る見込みになった」では全体調査 18.6%、事業利用者調査 45.7%と 27.1 ポイント差が見られる。次いで「支出が増えた・増える見込みになった」が 12.5 ポイント、「子どもに厳しく怒ったり叱った」が 9.0 ポイント、「子どもから強い反抗的な態度をされた」が 8.3 ポイント事業利用者調査の方が全体調査よりも多くなっている。

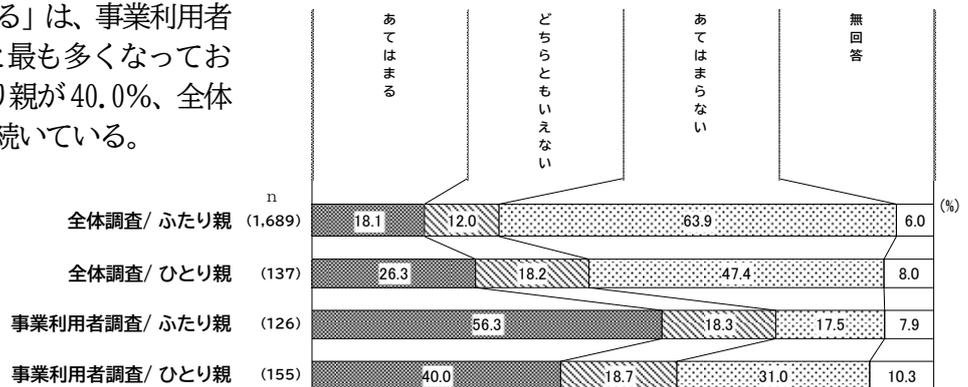
<図表 新型コロナウイルス感染症による自身への影響（全体調査・事業利用者調査比較）>



## 【1】収入が減った・減る見込みになった

収入が減った・減る見込みになったを世帯タイプ別にみると、「あてはまる」は、事業利用者調査のふたり親が56.3%と最も多くなっており、事業利用者調査のひとり親が40.0%、全体調査のひとり親が26.3%と続いている。

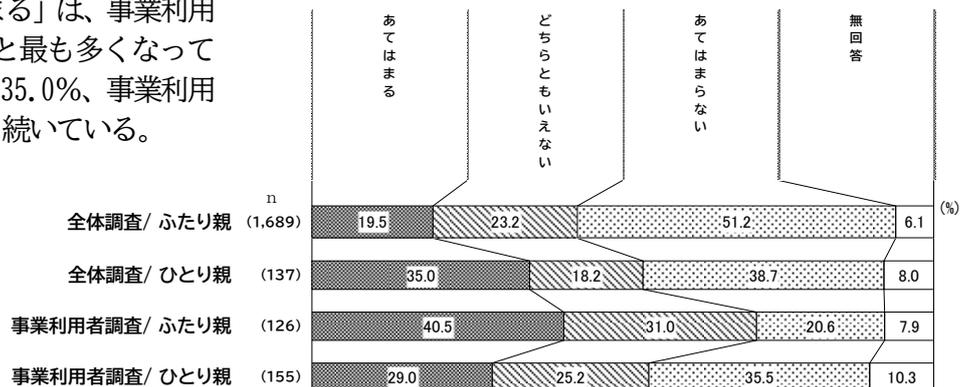
<図表 収入が減った（減る見込みになった）（世帯タイプ別）>



## 【2】支出が増えた・増える見込みになった

支出が増えた・増える見込みになったを世帯タイプ別にみると、「あてはまる」は、事業利用者調査のふたり親が40.5%と最も多くなっており、全体調査のひとり親が35.0%、事業利用者調査のひとり親が29.0%と続いている。

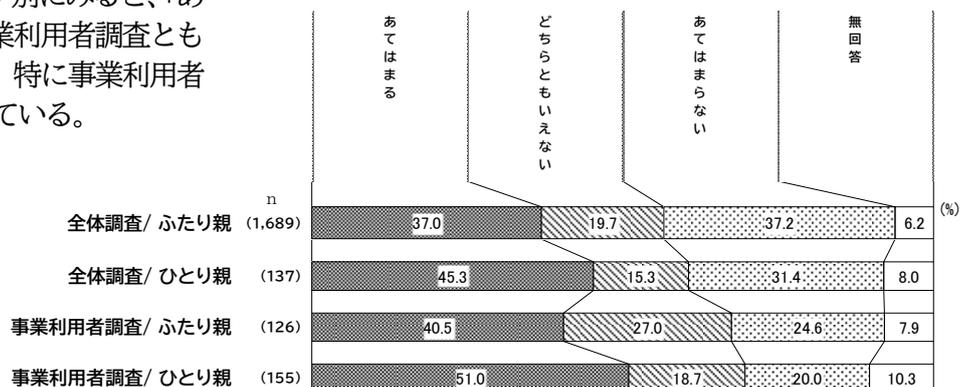
<図表 支出が増えた（増える見込みになった）（世帯タイプ別）>



## 【3】精神的に不安になることが増えた、イライラすることが増えた

精神的に不安になることが増えた、イライラすることが増えたを世帯タイプ別にみると、「あてはまる」は、全体調査、事業利用者調査ともにひとり親が多くなっており、特に事業利用者調査では51.0%と半数を超えている。

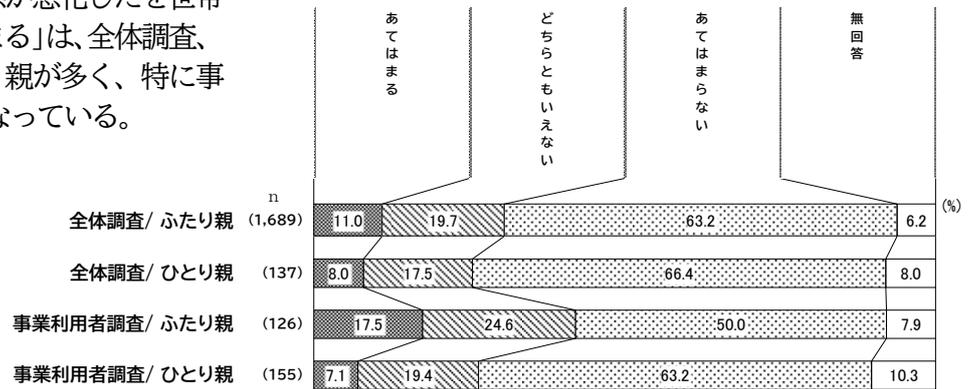
<図表 精神的に不安になることが増えた、イライラすることが増えた（世帯タイプ別）>



#### 【4】夫婦・パートナーとの関係が悪化した

夫婦・パートナーとの関係が悪化したを世帯タイプ別にみると、「あてはまる」は、全体調査、事業利用者調査ともにふたり親が多く、特に事業利用者調査では17.5%となっている。

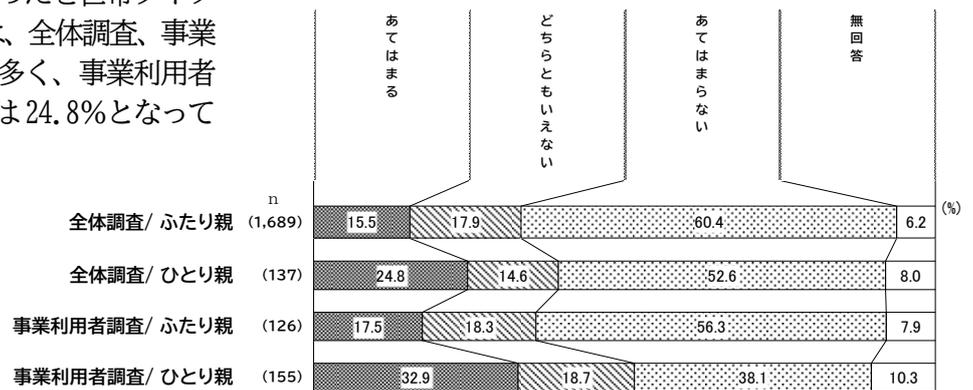
<図表 夫婦・パートナーとの関係が悪化した（世帯タイプ別）>



#### 【5】子どもに厳しく怒ったり叱った

子どもに厳しく怒ったり叱ったを世帯タイプ別にみると、「あてはまる」は、全体調査、事業利用者調査ともにひとり親が多く、事業利用者調査では32.9%、全体調査では24.8%となっている。

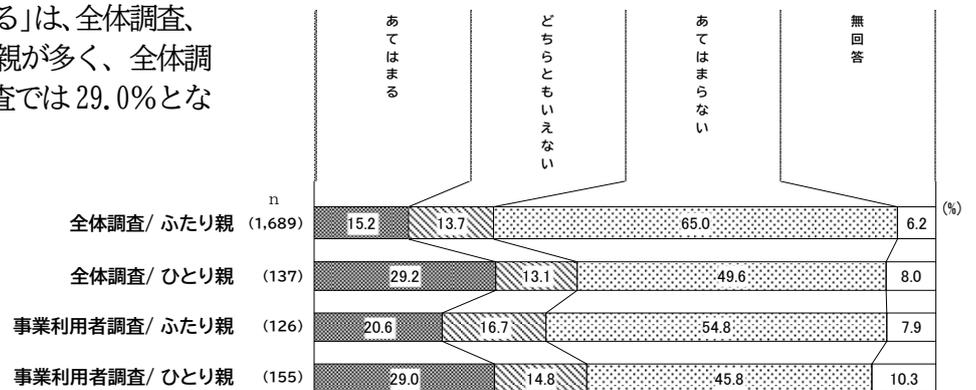
<図表 子どもに厳しく怒ったり叱った（世帯タイプ別）>



#### 【6】子どもから強い反抗的な態度をされた

子どもから強い反抗的な態度をされたを世帯タイプ別にみると、「あてはまる」は、全体調査、事業利用者調査ともにひとり親が多く、全体調査では29.2%、事業利用者調査では29.0%となっている。

<図表 子どもから強い反抗的な態度をされた（世帯タイプ別）>



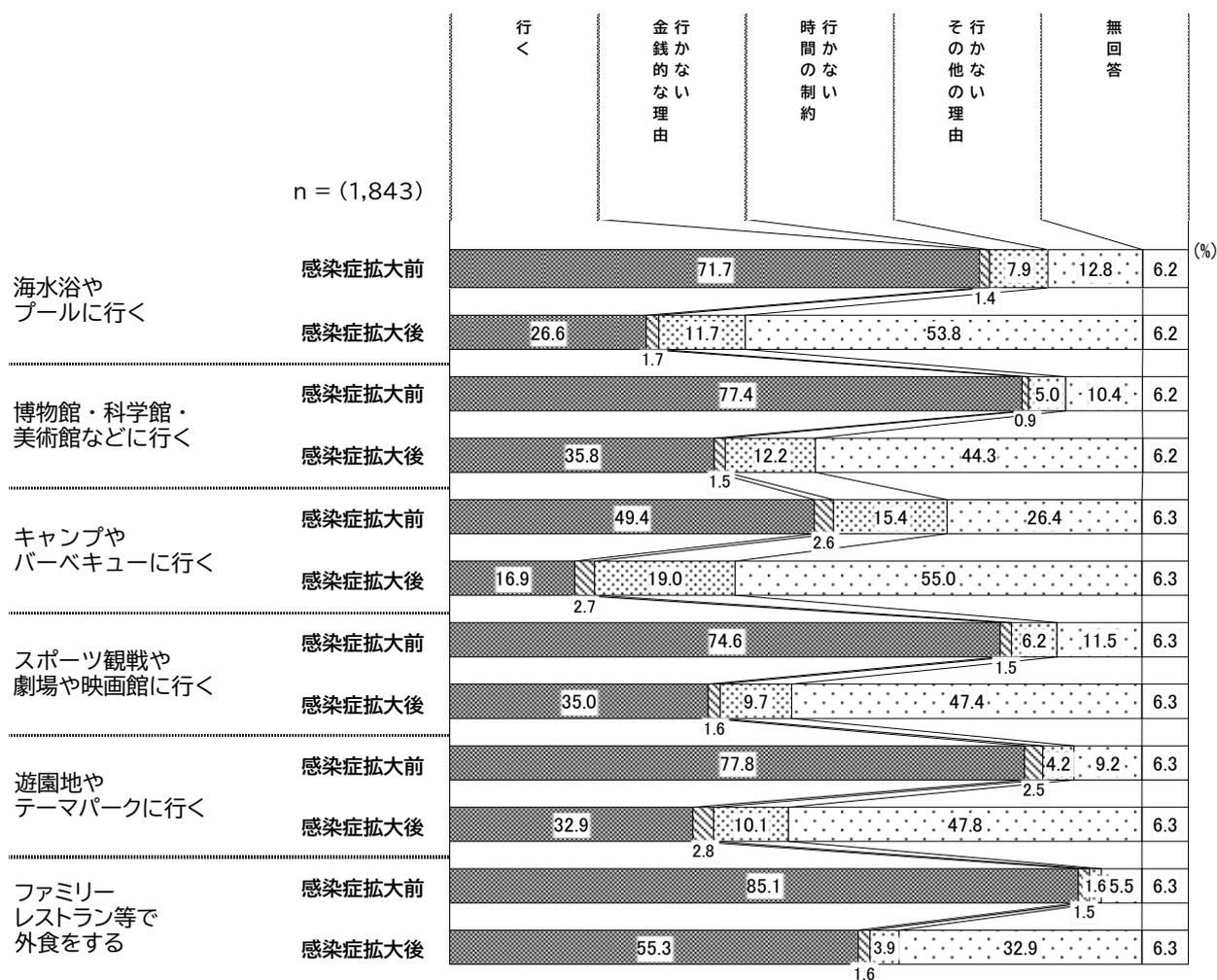
## (4) 家庭での体験の状況

【問】あなたのご家庭では、お子さんと次のような体験をしましたか。A～Fそれぞれについて、ある場合は「1」に○を、ない場合はあてはまる理由を「2」～「4」からそれぞれ1つずつに○をつけてください。

家庭での体験の状況について新型コロナウイルス感染症拡大前後で比較すると、全体調査では、全ての項目で「行く」の割合が感染症拡大後に下がっている。特に「海水浴やプールに行く」では感染症拡大前は71.7%、感染症拡大後は26.6%で45.1ポイントともっとも減少しており、次いで「遊園地やテーマパークに行く」が感染症拡大前は77.8%、感染症拡大後は32.9%と44.9ポイント減少している。

<図表 家庭での体験の状況（新型コロナウイルス感染症拡大前後比較①）>

全体調査

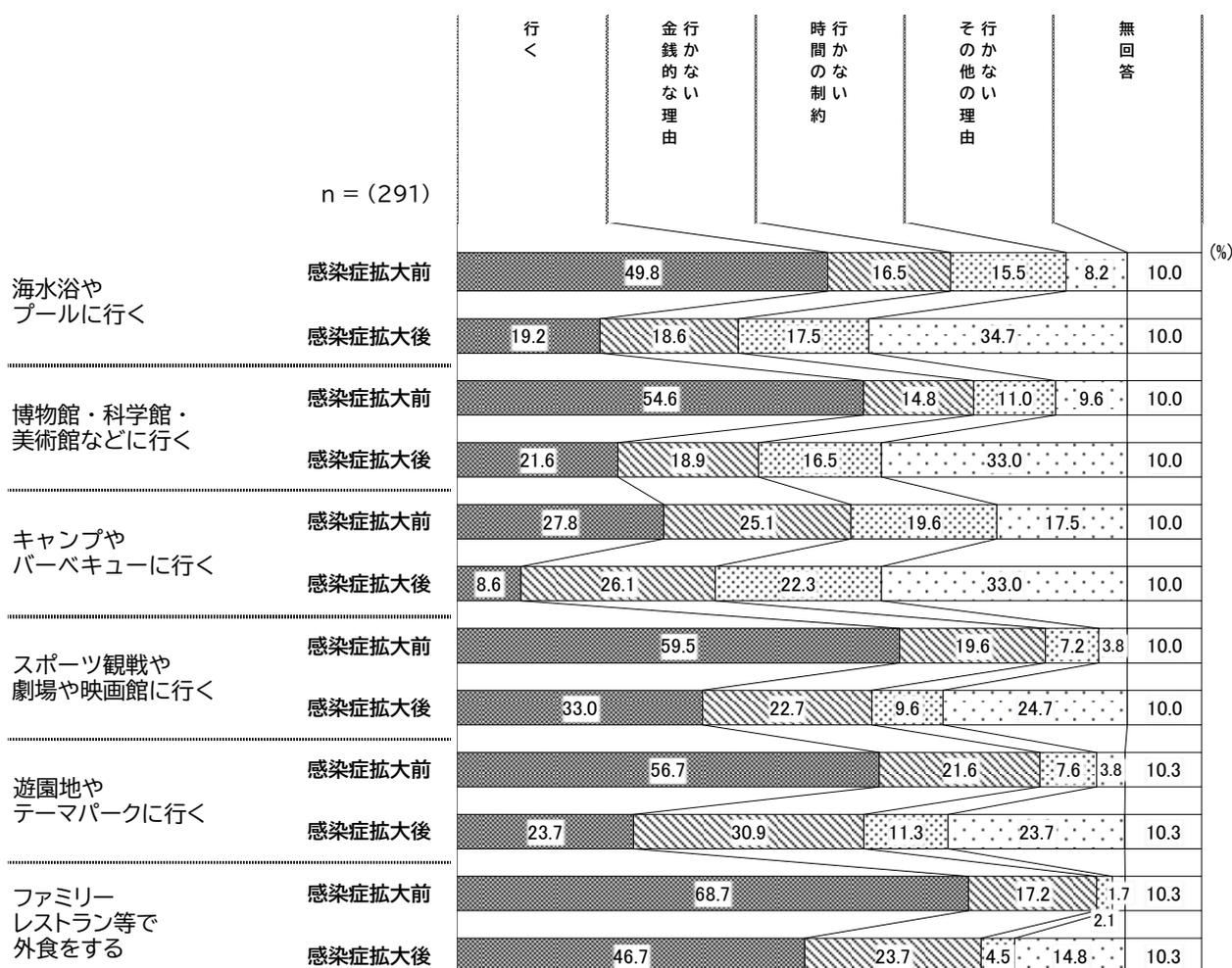


事業利用者調査についても、新型コロナウイルス感染症拡大前後で比較すると、全ての項目で「行く」の割合が感染症拡大後に下がっている。

また、「行かない（金銭的な理由）」の割合は感染症拡大後に全ての項目で上がっており、特に「遊園地やテーマパークに行く」では感染症拡大前 21.6%、感染症拡大後 30.9%と 9.3 ポイント増加しており、「ファミリーレストラン等で外食をする」では感染症拡大前 17.2%、感染症拡大後 23.7%と 6.5 ポイント増加している。

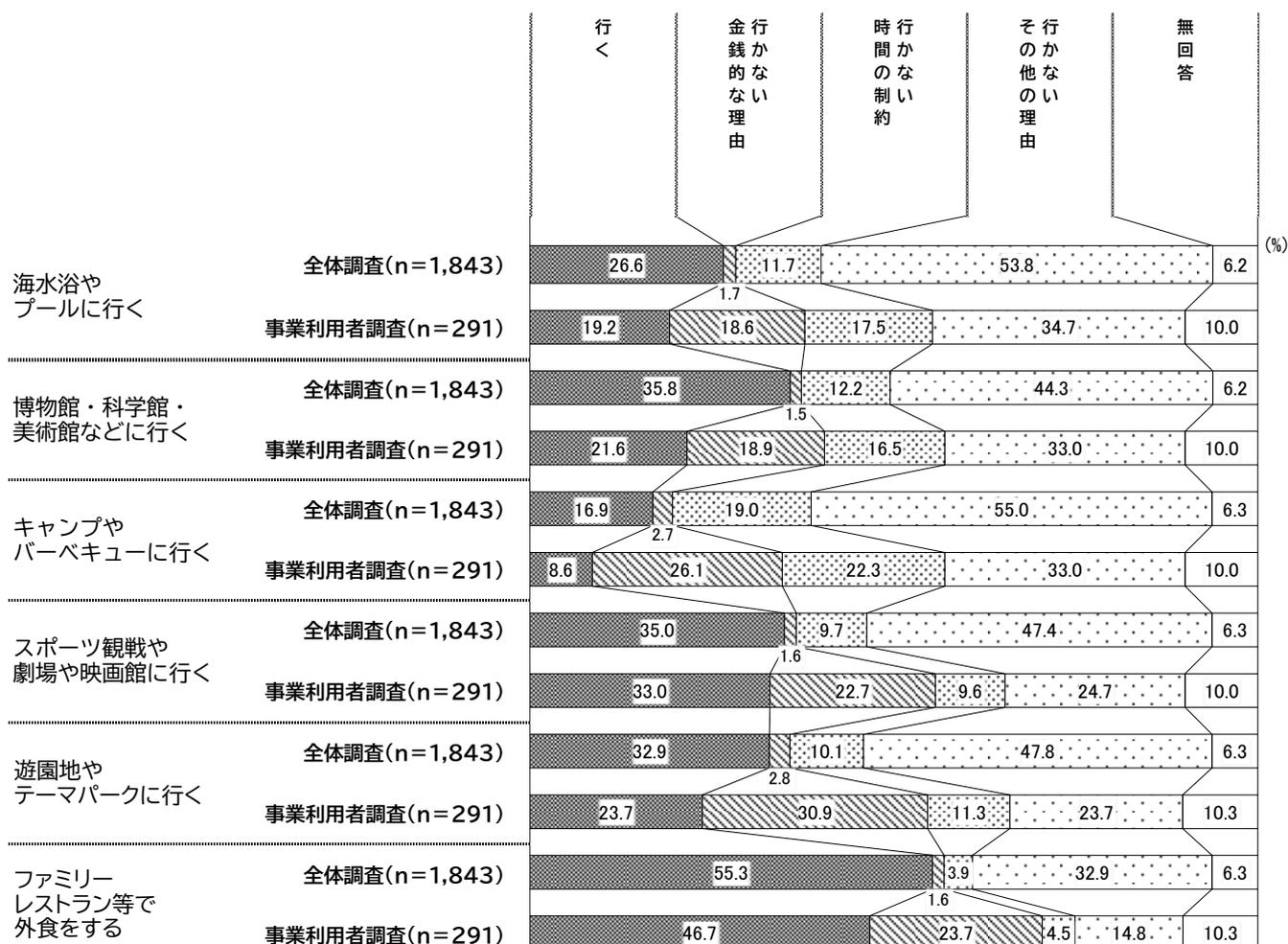
<図表 家庭での体験の状況（新型コロナウイルス感染症拡大前後比較②）>

事業利用者調査



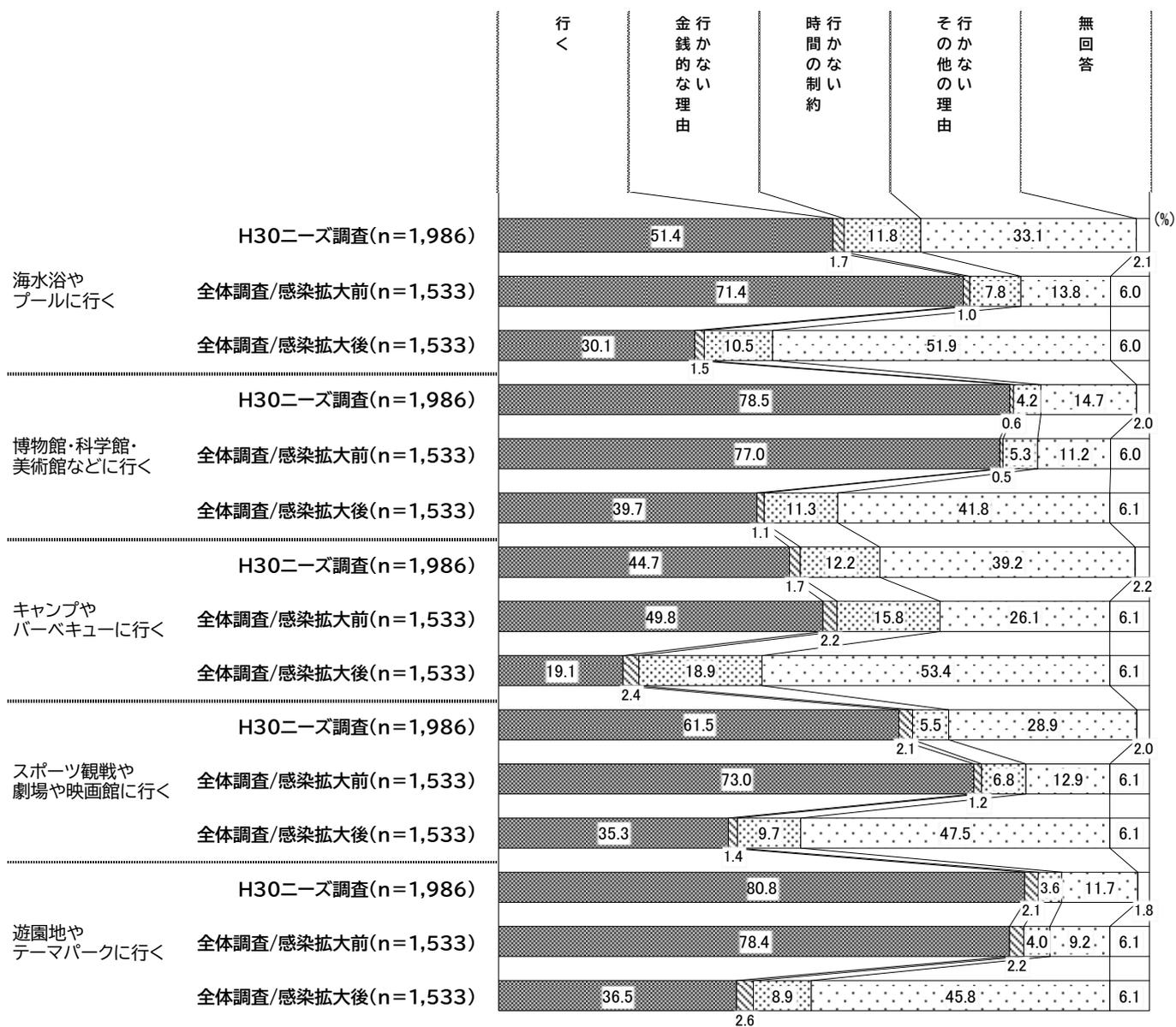
感染症拡大後の家庭での体験の状況について尋ねたところ、「行かない（金銭的な理由）」の割合は全ての項目で事業利用者調査が上回っており、特に「遊園地やテーマパークに行く」では全体調査2.8%、事業利用者調査30.9%と28.1ポイントの差が見られる。次いで「キャンプやバーベキューに行く」が23.4ポイント、「ファミリーレストラン等で外食をする」が22.1ポイント、「スポーツ観戦や劇場や映画館に行く」が21.1ポイントの差が見られる。

<図表 家庭での体験の状況・感染症拡大後（全体調査・事業利用者調査比較）>



家庭での体験の状況について平成30年度実施のニーズ調査と感染拡大前後を比較したところ、感染拡大後は全ての項目で「行く」の割合が下がっている。

<図表 家庭での体験の状況 (H30 ニーズ調査・全体調査比較) >



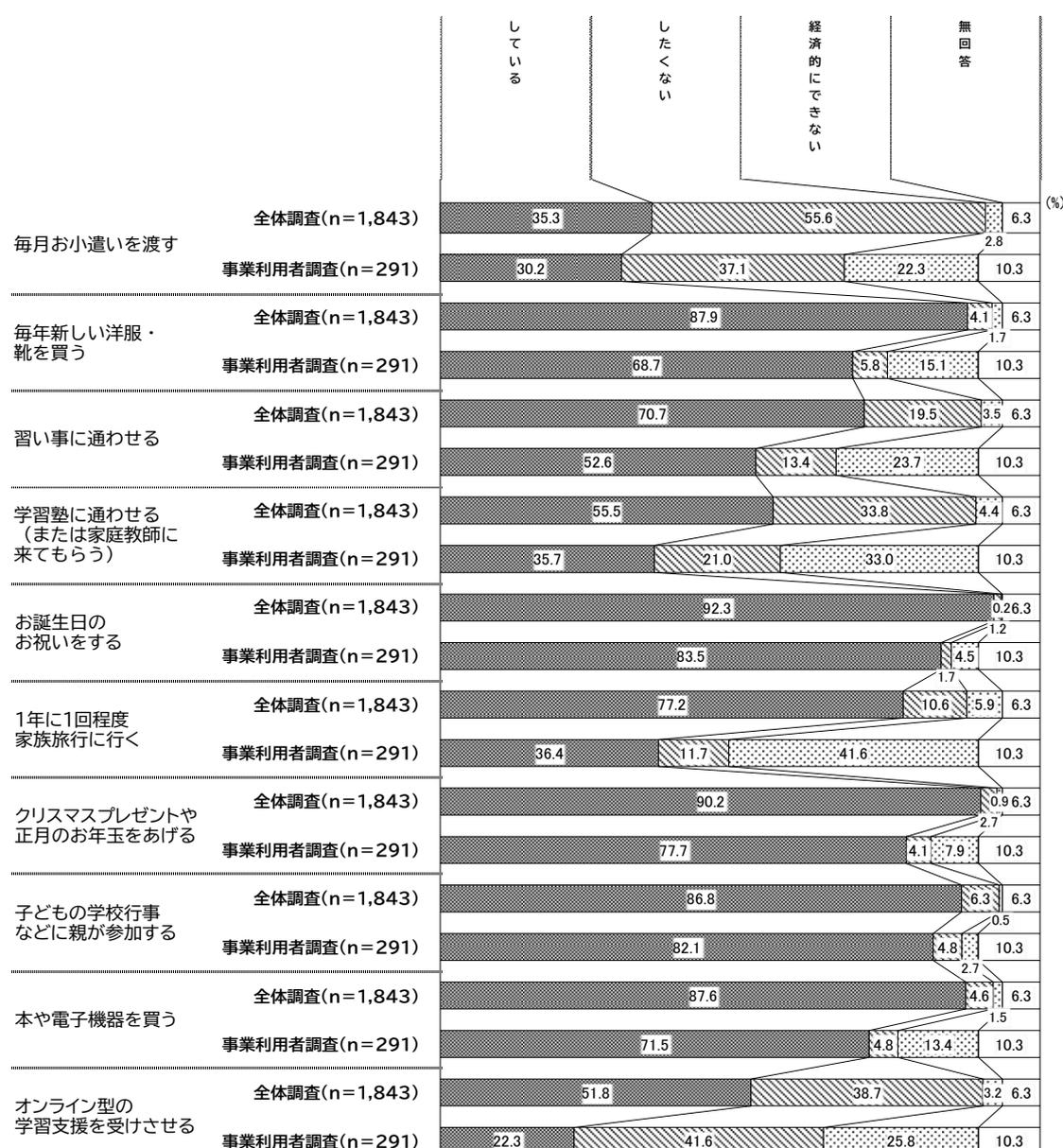
## (5) 子どもの体験の状況

【問】あなたのご家庭では、お子さんに次のことをしていますか。A～Jそれぞれについて、している場合は「1」に○を、していない場合はあてはまる理由を「2」又は「3」からそれぞれ1つずつに○を付けてください。

子どもの体験の状況について尋ねたところ、「している」の割合は、全ての項目で事業利用者調査が下回っており、特に「1年に1回程度家族旅行に行く」では全体調査77.2%、事業利用者調査36.4%で40.8ポイントと最も差がある。次に差があるものとして「オンライン型の学習支援を受けさせる」が29.5ポイント、そのほか「学習塾に通わせる（または家庭教師に来てもらう）」が19.8ポイント、「毎年新しい洋服・靴を買う」が19.2ポイント、「習い事に通わせる」が18.1ポイントと続いている。

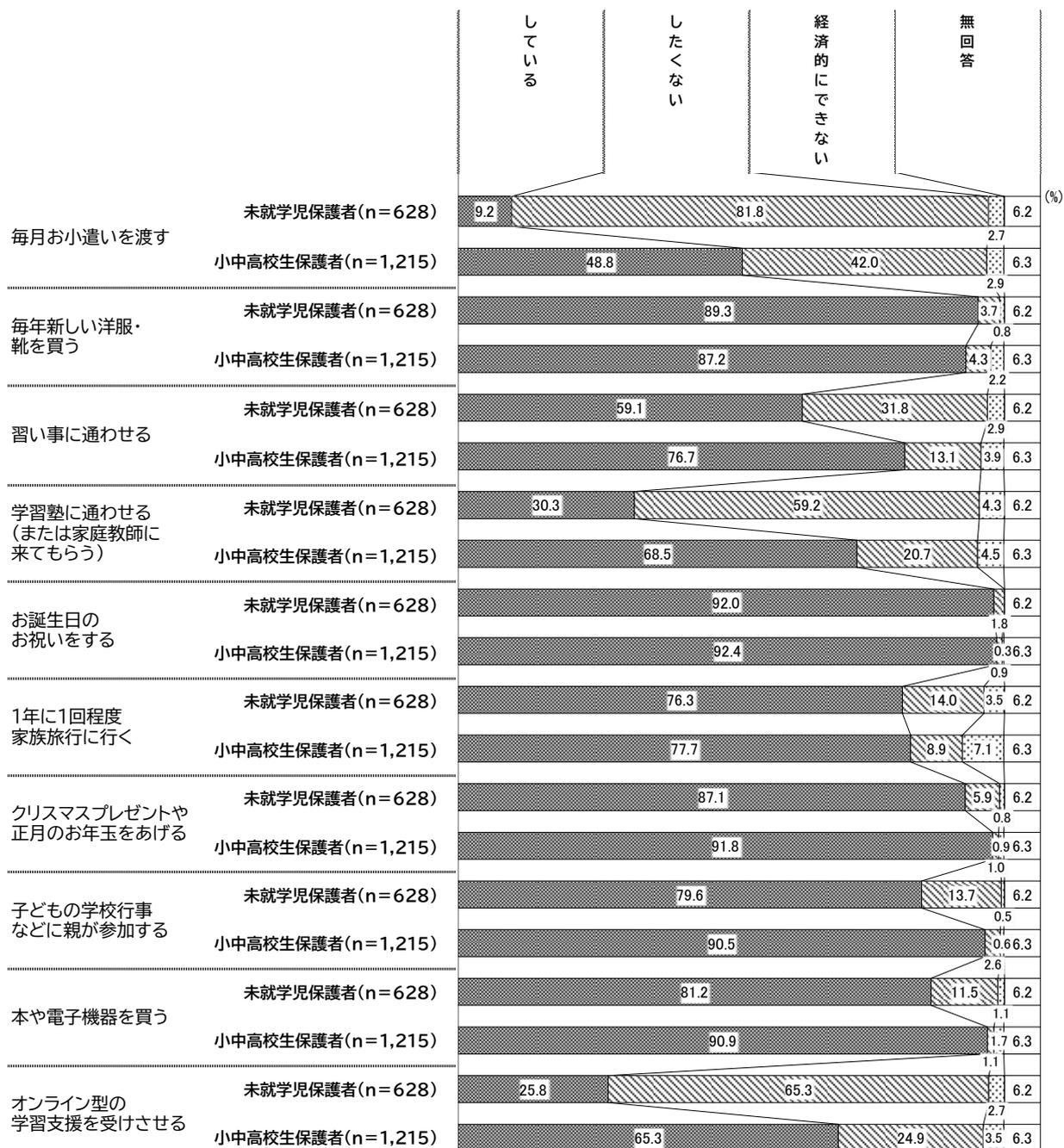
「経済的にできない」では、全ての項目で事業利用者調査が上回り、上記項目に加えて「毎月お小遣いを渡す」も事業利用者調査の方が全体調査よりも19.5ポイントと多くなっている。

<図表 子どもの体験の状況（全体調査・事業利用者調査比較）>



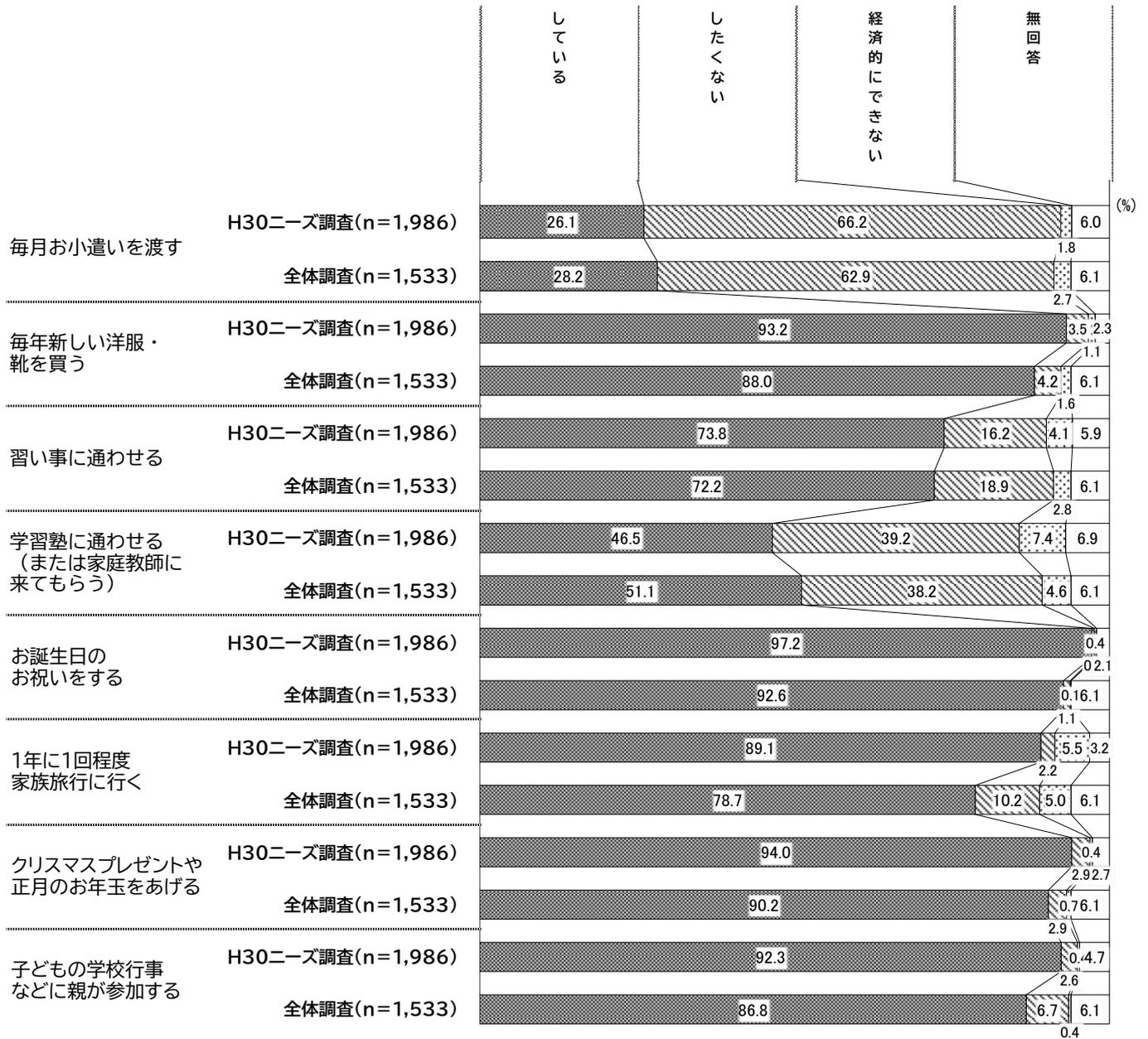
全体調査における子どもの体験の状況について対象者別で比較したところ、「している」の割合は、「毎年新しい洋服・靴を買う」以外の全ての項目で小中高校生保護者の方が未就学児保護者よりも多くなっている。特に差があるものとして「毎月お小遣いを渡す」が39.6ポイント、「オンライン型の学習支援を受けさせる」が39.5ポイント、「学習塾に通わせる（または家庭教師に来てもらう）」が38.2ポイントと続いている。

<図表 子どもの体験の状況（全体調査の対象者別比較）>



子どもの体験の状況について平成30年度実施のニーズ調査と比較したところ、全体調査の方がH30ニーズ調査よりも「1年に1回程度家族旅行に行く」で10.4ポイント、「子どもの学校行事などに親が参加する」で5.5ポイント、「毎年新しい洋服・靴を買う」で5.2ポイント少なくなっている。

<図表 子どもの体験の状況 (H30 ニーズ調査・全体調査比較) >



## (6) 家庭の家計状況

【問】あなたのご家庭の家計について、それぞれあてはまるものに1つに○を付けてください。

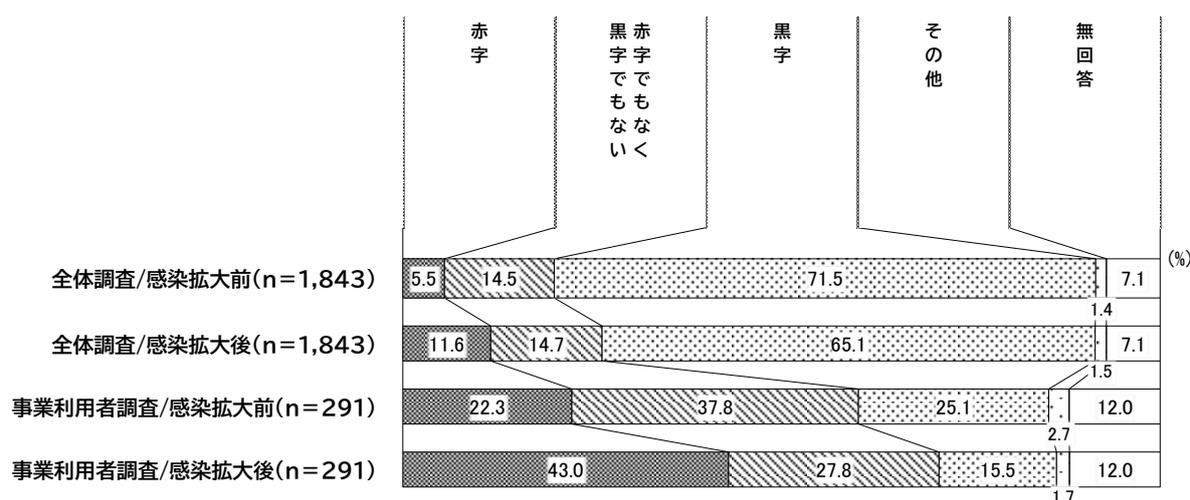
家庭の家計状況について尋ねたところ、感染症拡大前では「黒字」が全体調査が71.5%、事業利用者調査が25.1%と全体調査の方が46.4ポイント多くなっている。「赤字」は全体調査が5.5%、事業利用者調査が22.3%と事業利用者調査の方が16.8ポイント多くなっている。

感染症拡大後では「黒字」は全体調査が65.1%、事業利用者調査が15.5%と全体調査の方が49.6ポイント多くなっている。「赤字」は全体調査が11.6%、事業利用者調査が43.0%と事業利用者調査の方が31.4ポイント多くなっている。

また、「赤字」を感染症拡大前後で比較すると、全体調査は6.1ポイント微増している一方で、事業利用者調査は20.7ポイントと大きく増加している。

今回調査の結果から、感染症拡大後に生活が苦しいと感じている世帯は、全体調査では11.6%、事業利用者調査では43.0%存在していると類推される。

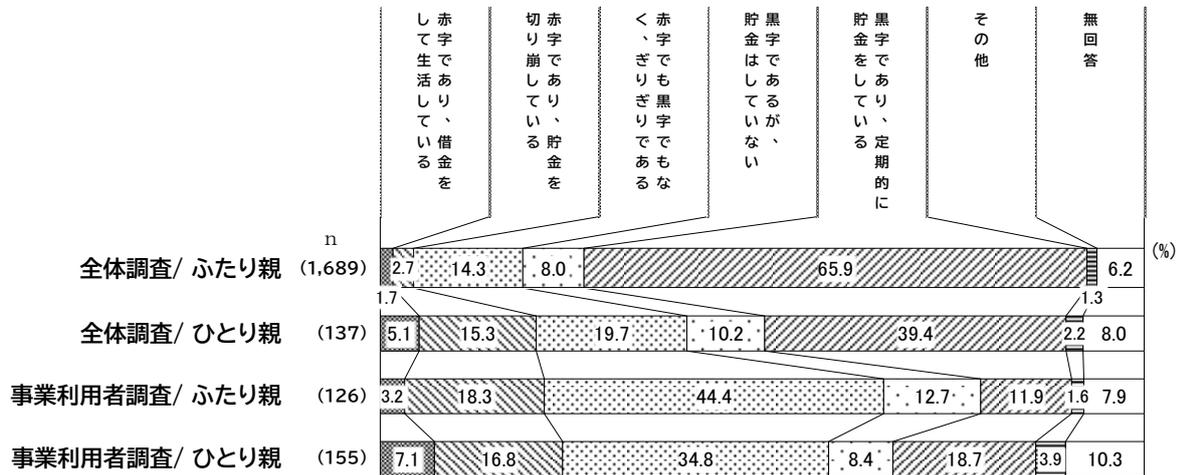
<図表 家庭の家計状況（全体調査・事業利用者調査比較）>



## 家庭の家計状況（新型コロナウイルス感染症拡大前）

感染症拡大前の家庭の家計状況を世帯タイプ別にみると、「赤字であり、貯金を切り崩している」は事業利用者調査のふたり親が18.3%、ひとり親が16.8%と高くなっている。「黒字であり、定期的に貯金をしている」は、全体調査のふたり親が65.9%と最も多く、次いで全体調査のひとり親が39.4%となっている。

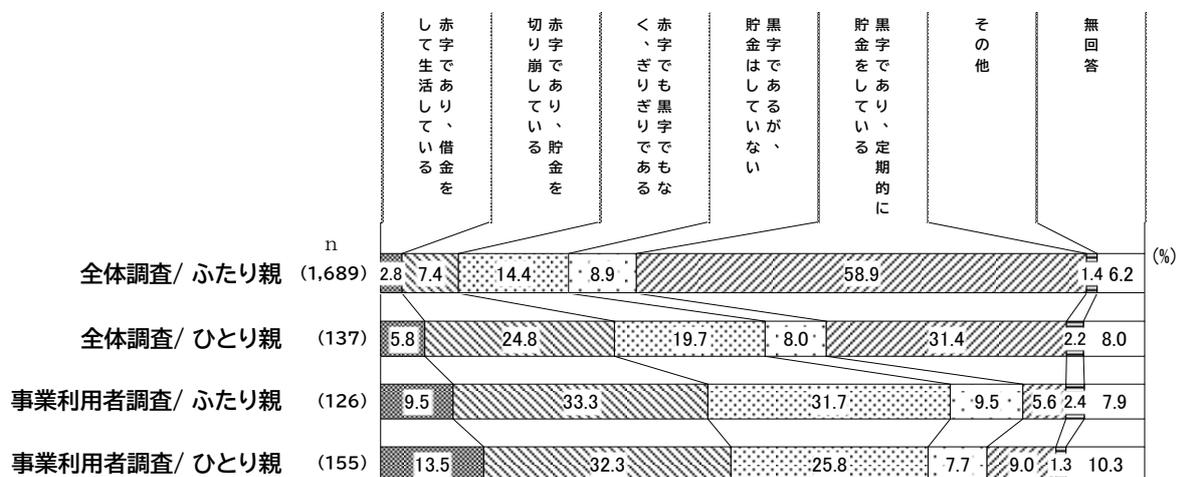
<図表 家庭の家計状況（世帯タイプ別）>



## 家庭の家計状況（新型コロナウイルス感染症拡大後）

感染症拡大後の家庭の家計状況を世帯タイプ別にみると、「赤字であり、借金をして生活している」は事業利用者調査のひとり親が13.5%と最も多くなっている。「赤字であり、貯金を切り崩している」は事業利用者調査のふたり親が33.3%、ひとり親が32.3%と多くなっている。「黒字であり、定期的に貯金をしている」は、全体調査のふたり親が58.9%と最も多く、次いで全体調査のひとり親が31.4%となっている。

<図表 家庭の家計状況（世帯タイプ別）>



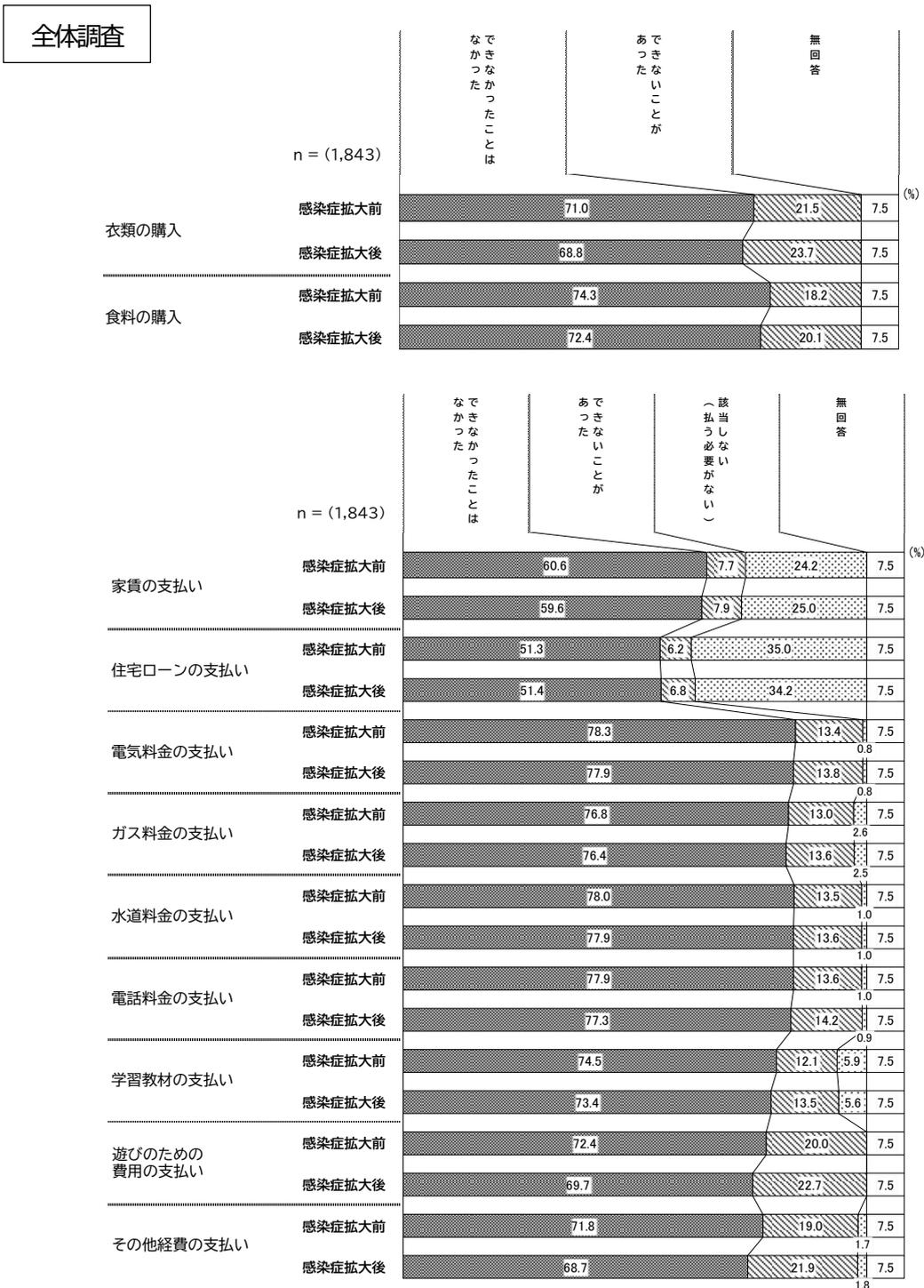
## (7) 経済的理由で諦めた経験

【問】あなたのご家庭で経済的な理由で以下のことができなかったことがありますか。それぞれあてはまるものに1つに○を付けてください。

経済的理由で諦めた経験について新型コロナウイルス感染症拡大前後で比較すると、全体調査、事業利用者調査ともに全ての項目で「できないことがあった」の割合が感染症拡大後に増加している。

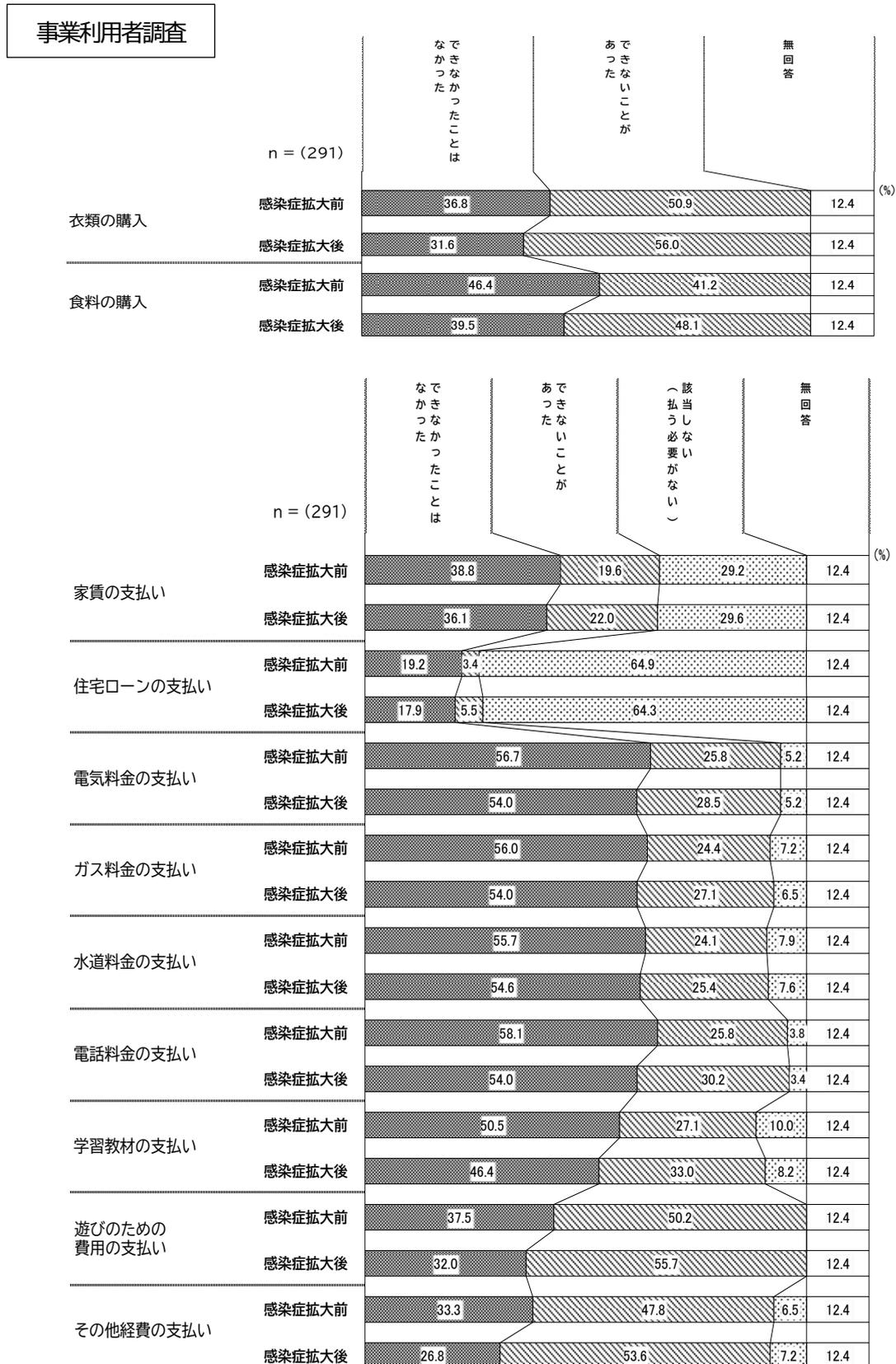
全体調査では、感染症拡大後に「その他経費の支払い」が2.9ポイント増加しており、「遊びのための費用の支払い」が2.7ポイント増と続いている。

<図表 経済的理由で諦めた経験（新型コロナウイルス感染症拡大前後比較①）>



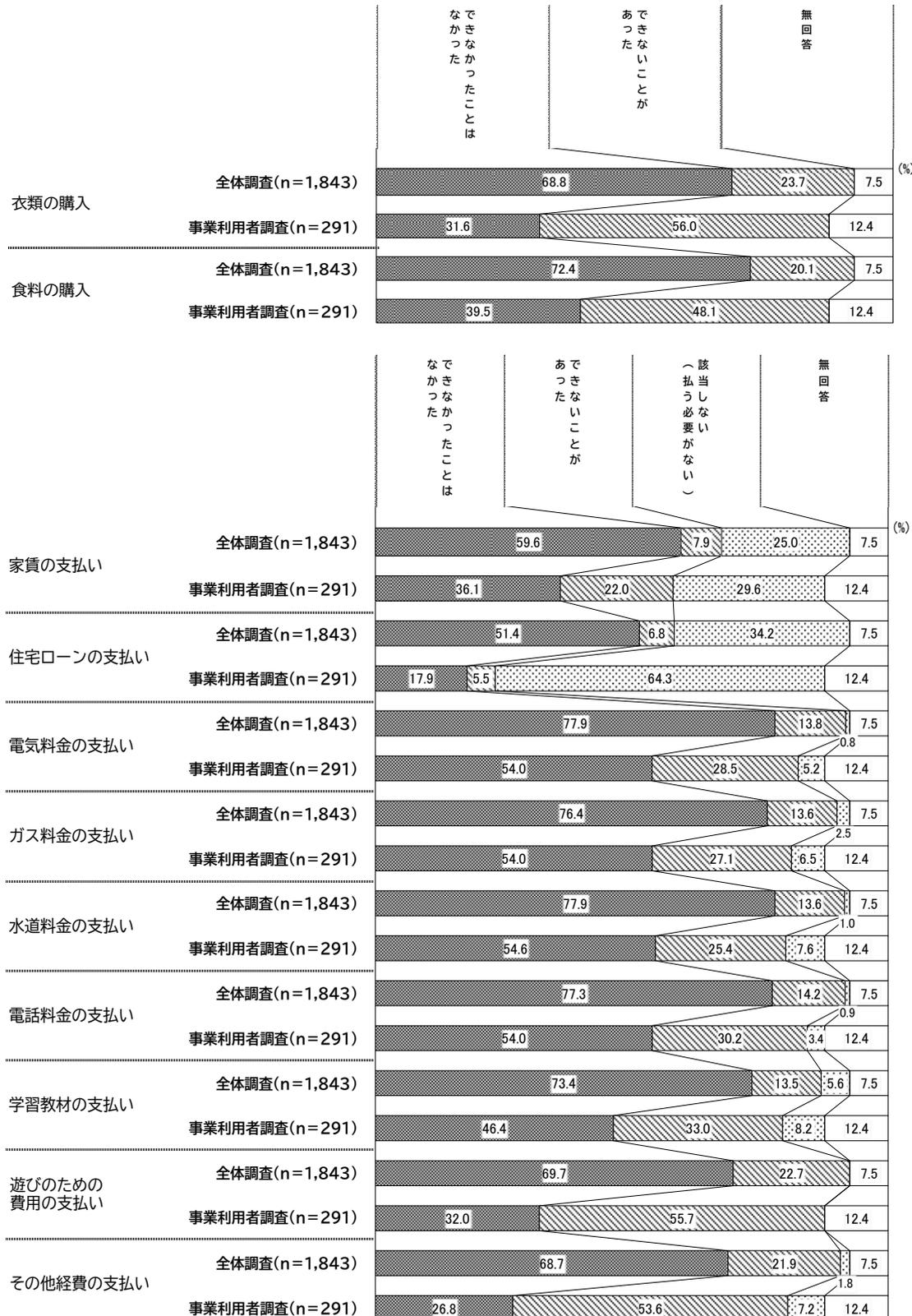
事業利用者調査では、感染症拡大後に「食料の購入」が6.9ポイント増加しており、「学習教材の支払い」が5.9ポイント増、「その他経費の支払い」が5.8ポイント増、「遊びのための費用の支払い」が5.5ポイント増、「衣類の購入」が5.1ポイント増と続いている。

<図表 経済的理由で諦めた経験（新型コロナウイルス感染症拡大前後比較②）>



感染症拡大後の経済的理由で諦めた経験について尋ねたところ、「できないことがあった」の割合は「住宅ローンの支払い」を除いた全ての項目で事業利用者調査が上回っており、特に「遊びのための費用の支払い」では全体調査22.7%、事業利用者調査55.7%と33.0ポイント差が見られる。次いで「衣類の購入」が32.3ポイント、「その他経費の支払い」が31.7ポイント、「食料の購入」が28.0ポイント差が見られる。

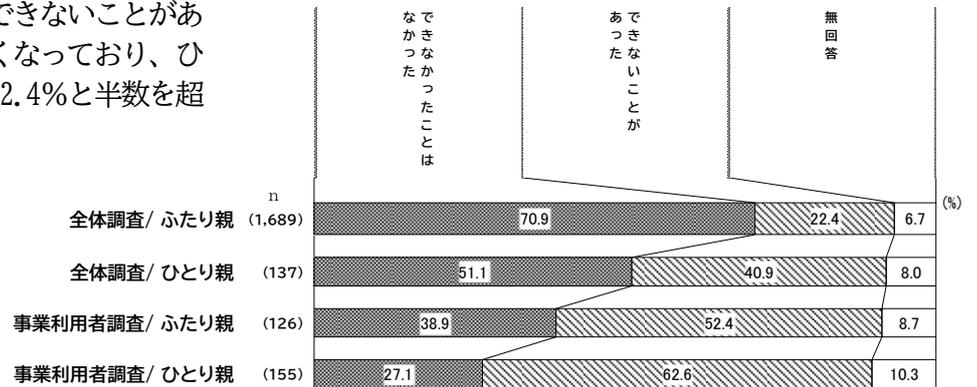
<図表 経済的理由で諦めた経験・感染症拡大後（全体調査・事業利用者調査比較）>



## 【1】衣類の購入

新型コロナウイルス感染症拡大後の衣類の購入を世帯タイプ別にみると、「できないことがあった」は事業利用者調査で多くなっており、ひとり親が62.6%、ふたり親が52.4%と半数を超えている。

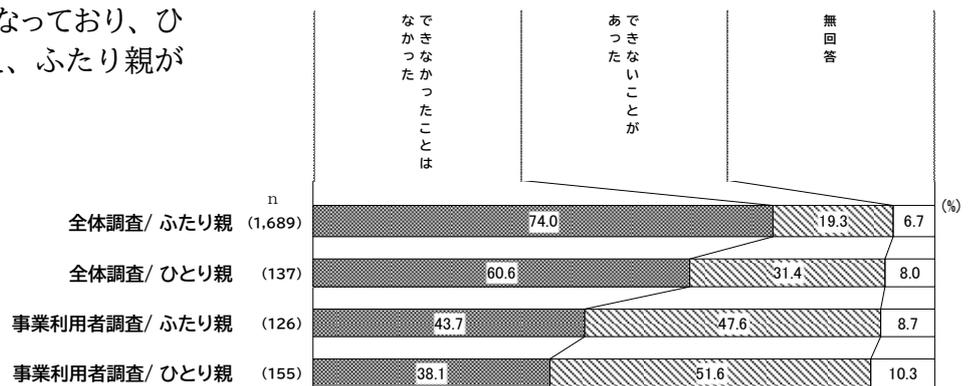
<図表 衣類の購入・感染症拡大後（世帯タイプ別）>



## 【2】食料の購入

新型コロナウイルス感染症拡大後の食料の購入を世帯タイプ別にみると、「できないことがあった」は事業利用者調査で多くなっており、ひとり親が51.6%と半数を超え、ふたり親が47.6%と続いている。

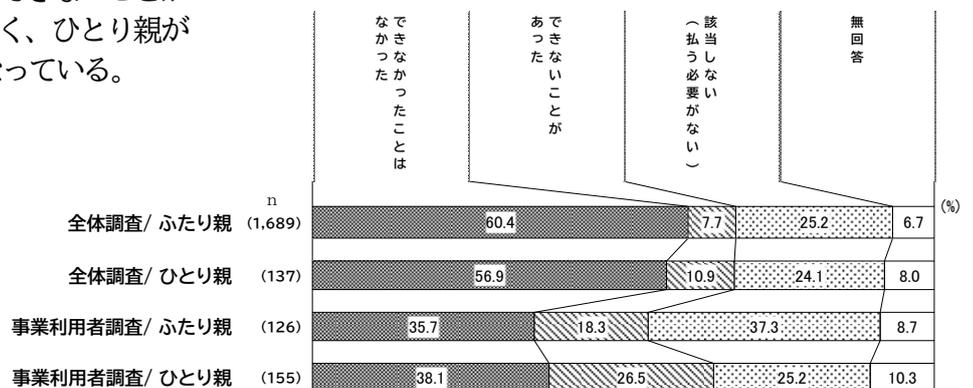
<図表 食料の購入・感染症拡大後（世帯タイプ別）>



## 【3】家賃の支払い

新型コロナウイルス感染症拡大後の家賃の支払いを世帯タイプ別にみると、「できないことがあった」は事業利用者調査で多く、ひとり親が26.5%、ふたり親が18.3%となっている。

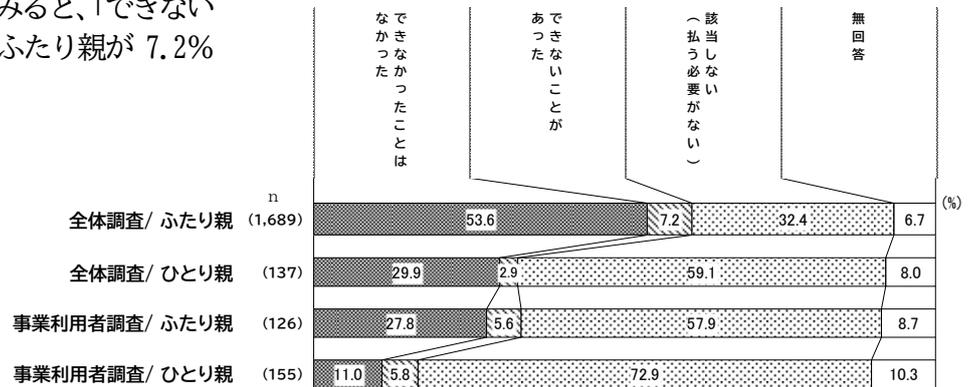
<図表 家賃の支払い・感染症拡大後（世帯タイプ別）>



#### 【4】住宅ローンの支払い

新型コロナウイルス感染症拡大後の住宅ローンの支払いを世帯タイプ別にみると、「できないことがあった」は全体調査のふたり親が7.2%と最も多くなっている。

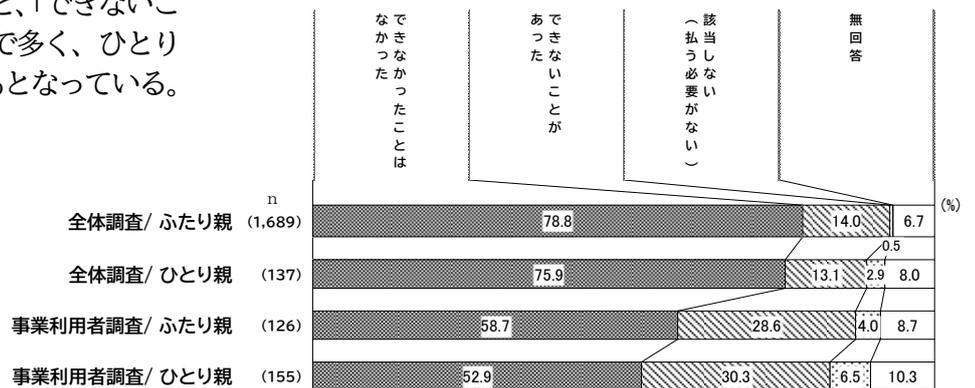
<図表 住宅ローンの支払い・感染症拡大後（世帯タイプ別）>



#### 【5】電気料金の支払い

新型コロナウイルス感染症拡大後の電気料金の支払いを世帯タイプ別にみると、「できないことがあった」は事業利用者調査で多く、ひとり親が30.3%、ふたり親が28.6%となっている。

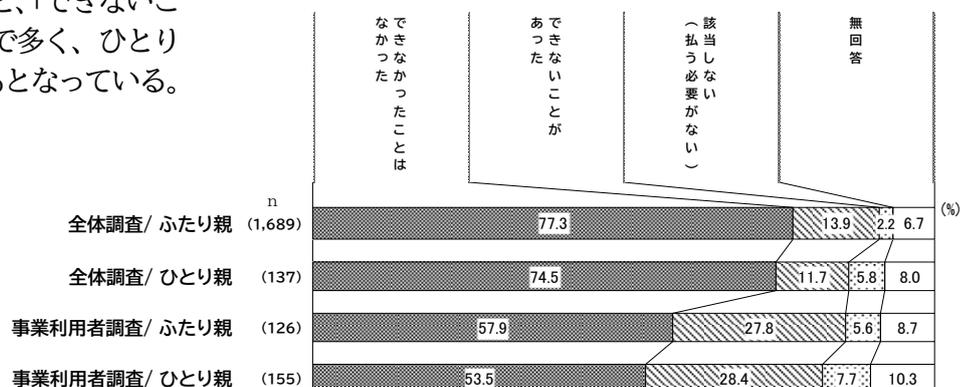
<図表 電気料金の支払い・感染症拡大後（世帯タイプ別）>



#### 【6】ガス料金の支払い

新型コロナウイルス感染症拡大後のガス料金の支払いを世帯タイプ別にみると、「できないことがあった」は事業利用者調査で多く、ひとり親が28.4%、ふたり親が27.8%となっている。

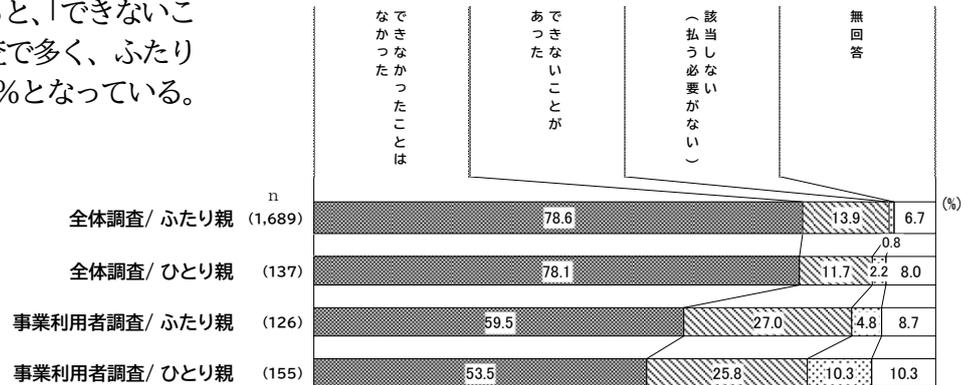
<図表 ガス料金の支払い・感染症拡大後（世帯タイプ別）>



## 【7】水道料金の支払い

新型コロナウイルス感染症拡大後の水道料金の支払いを世帯タイプ別にみると、「できないことがあった」は事業利用者調査で多く、ふたり親が27.0%、ひとり親が25.8%となっている。

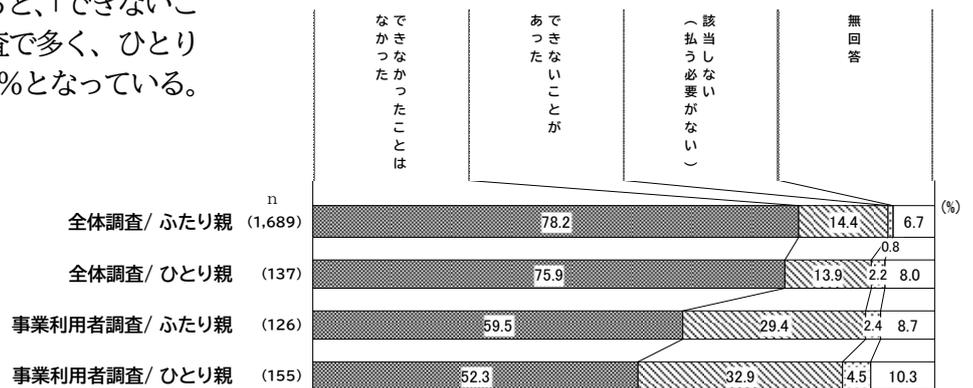
<図表 水道料金の支払い・感染症拡大後（世帯タイプ別）>



## 【8】電話料金の支払い

新型コロナウイルス感染症拡大後の電話料金の支払いを世帯タイプ別にみると、「できないことがあった」は事業利用者調査で多く、ひとり親が32.9%、ふたり親が29.4%となっている。

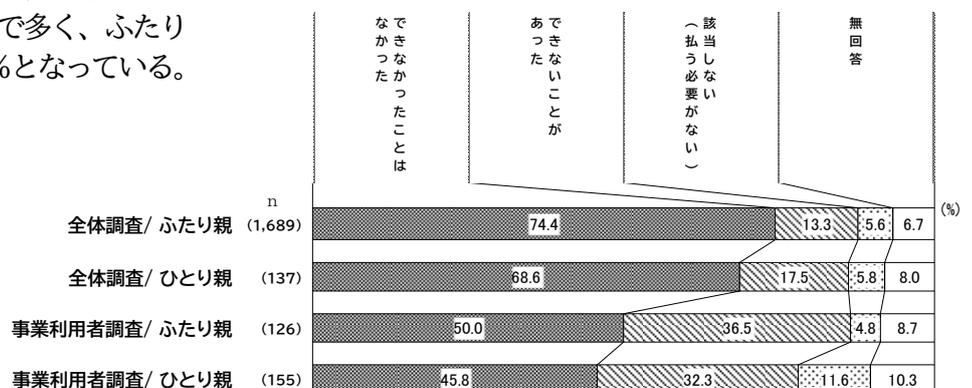
<図表 電話料金の支払い・感染症拡大後（世帯タイプ別）>



## 【9】学習教材の支払い

新型コロナウイルス感染症拡大後の学習教材の支払いを世帯タイプ別にみると、「できないことがあった」は事業利用者調査で多く、ふたり親が36.5%、ひとり親が32.3%となっている。

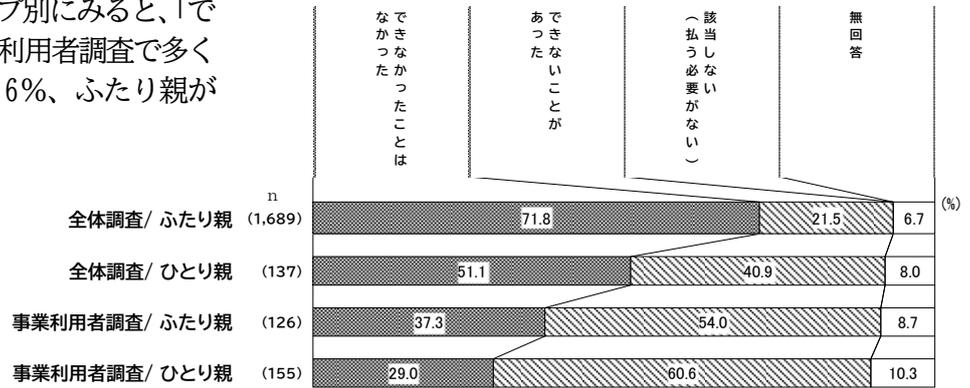
<図表 学習教材の支払い・感染症拡大後（世帯タイプ別）>



## 【10】遊びのための費用の支払い

新型コロナウイルス感染症拡大後の遊びのための費用の支払いを世帯タイプ別にみると、「できないことがあった」は事業利用者調査で多くなっており、ひとり親が60.6%、ふたり親が54.0%と半数を超えている。

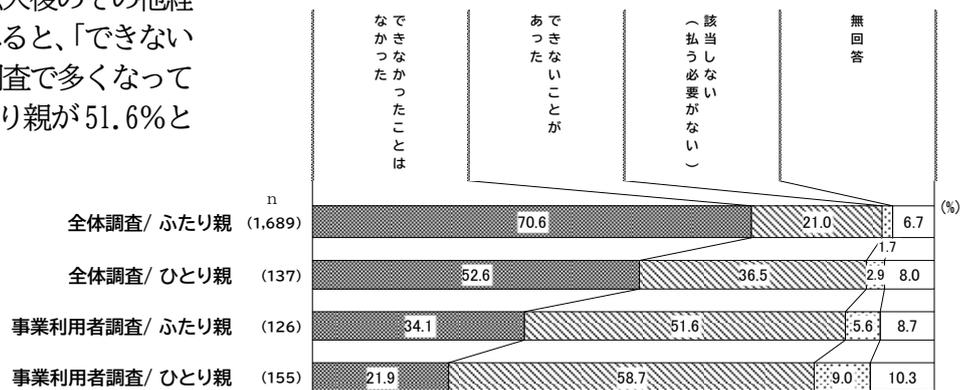
<図表 遊びのための費用の支払い・感染症拡大後（世帯タイプ別）>



## 【11】その他経費の支払い

新型コロナウイルス感染症拡大後のその他経費の支払いを世帯タイプ別にみると、「できないことがあった」は事業利用者調査で多くなっており、ひとり親が58.7%、ふたり親が51.6%と半数を超えている。

<図表 その他経費の支払い・感染症拡大後（世帯タイプ別）>



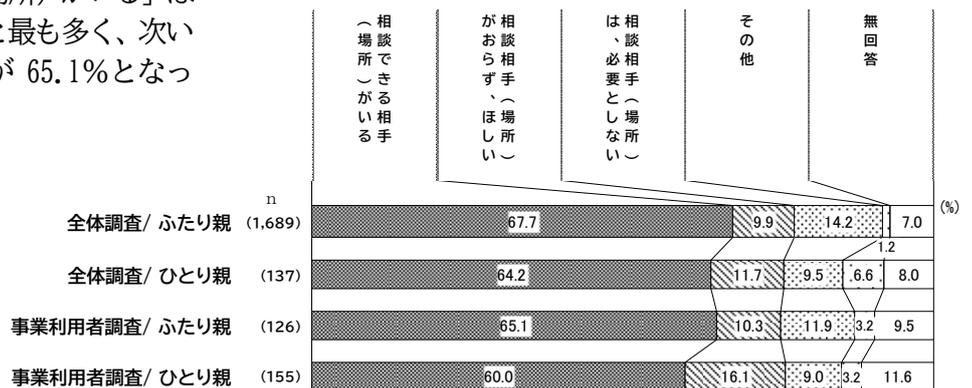
## (8) 子育てについての相談先の有無

【問】あて名のお子さんの子育て（教育含む）をする上で、気軽に相談できる人はいますか。また、相談できる場所がありますか。あてはまる答えの番号1つに○を付けてください。

子育てについての相談先の有無について尋ねたところ、「相談できる相手（場所）がいる」は全体調査のふたり親が67.7%と最も多く、次いで事業利用者調査のふたり親が65.1%となっている。

「相談相手（場所）がおらず、ほしい」は事業利用者調査のひとり親が16.1%と最も多くなっている。

<図表 子育てについての相談先の有無（全体調査・事業利用者調査比較）>



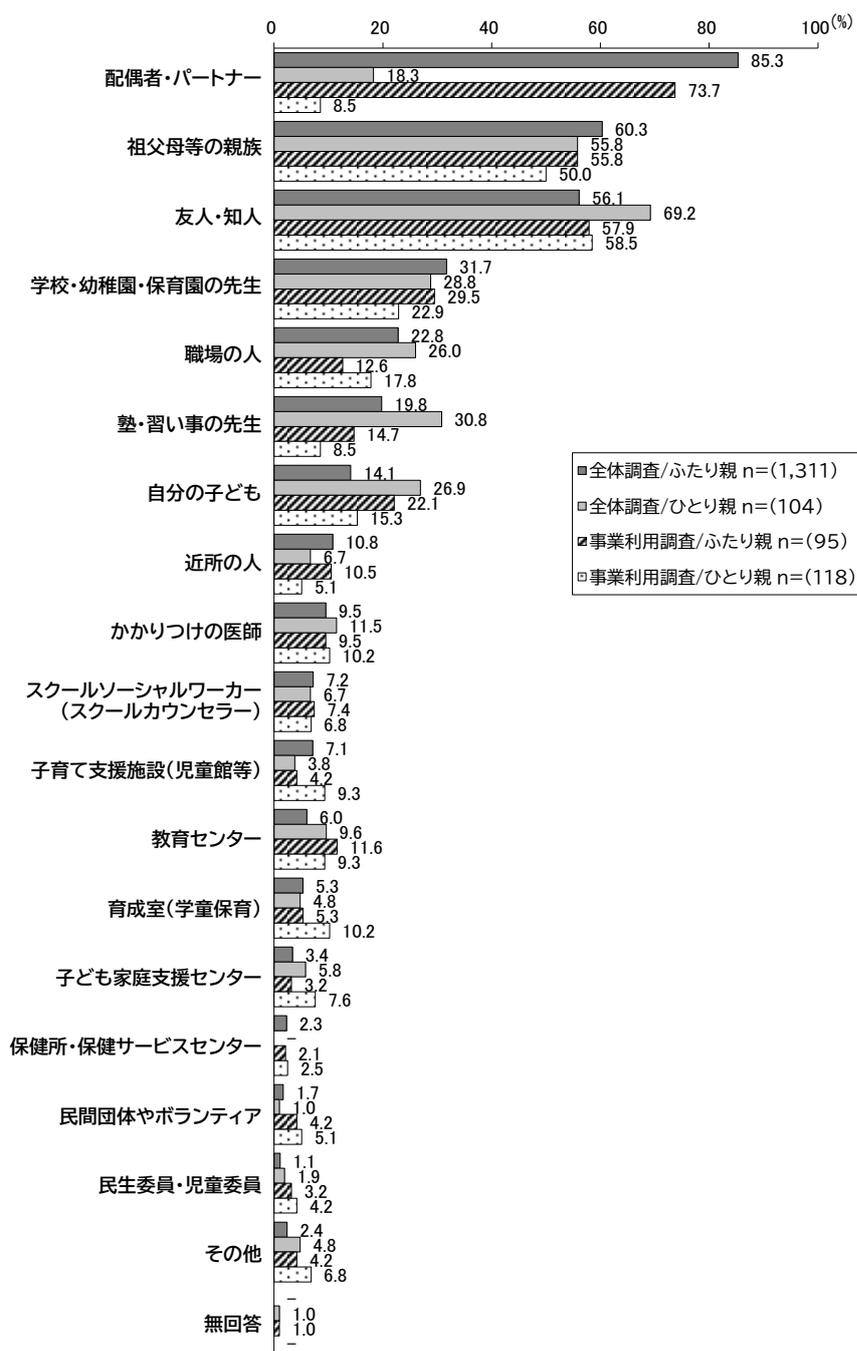
## (9) 子育てについて相談できる人（相談したい人）

【問】（前問で、「1.」または「2.」とお答えの方におうかがいします。）

気軽に相談できる人（相談したい人）は、どなたですか。あてはまる答えの番号すべてに○をつけてください。

子育てについて相談できる人（相談したい人）を尋ねたところ、全体調査、事業利用者調査ともにふたり親では「配偶者・パートナー」が最も多くなっている。全体調査、事業利用者調査ともにひとり親では「友人・知人」が最も多くなっている。

<図表 子育てについて相談できる人（相談したい人）（全体調査・事業利用者調査比較）>



## 第3章 調査結果の詳細（子ども調査）



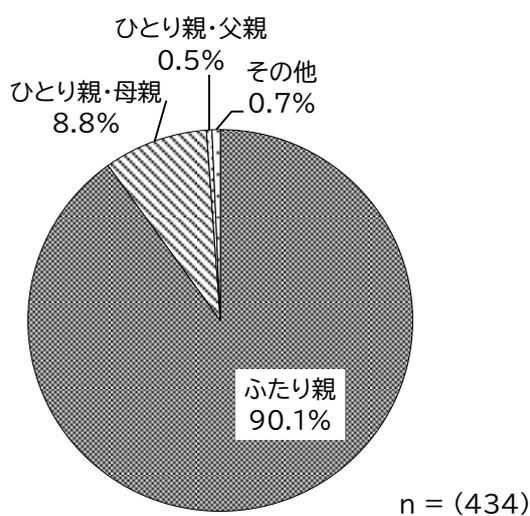
## (1) 世帯タイプ

【問】 あなたの家族はどれにあてはまりますか。あてはまる答えの番号1つに○を付けてください。

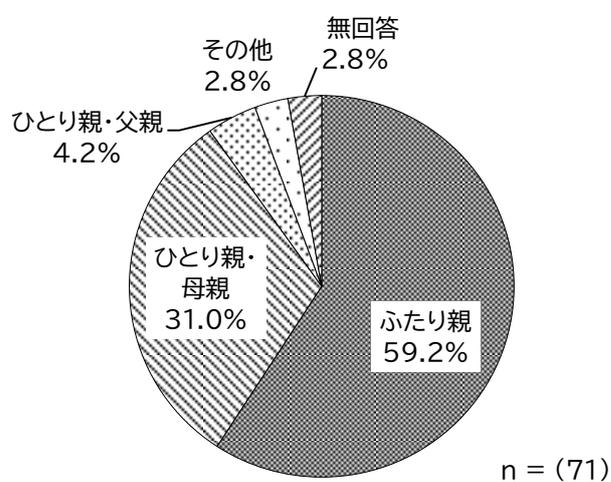
家族構成については、全体調査では「ふたり親」が90.1%と最も多くなっており、「ひとり親・母親」(8.8%)と「ひとり親・父親」(0.5%)をあわせた『ひとり親』は9.3%となっている。事業利用者調査は「ふたり親」は59.2%と最も多くなっており、「ひとり親・母親」が31.0%と続き、「ひとり親・父親」(4.2%)をあわせた『ひとり親』は35.2%となっている。

<図表 世帯タイプ (全体調査・事業利用者調査比較) >

全体調査



事業利用者調査

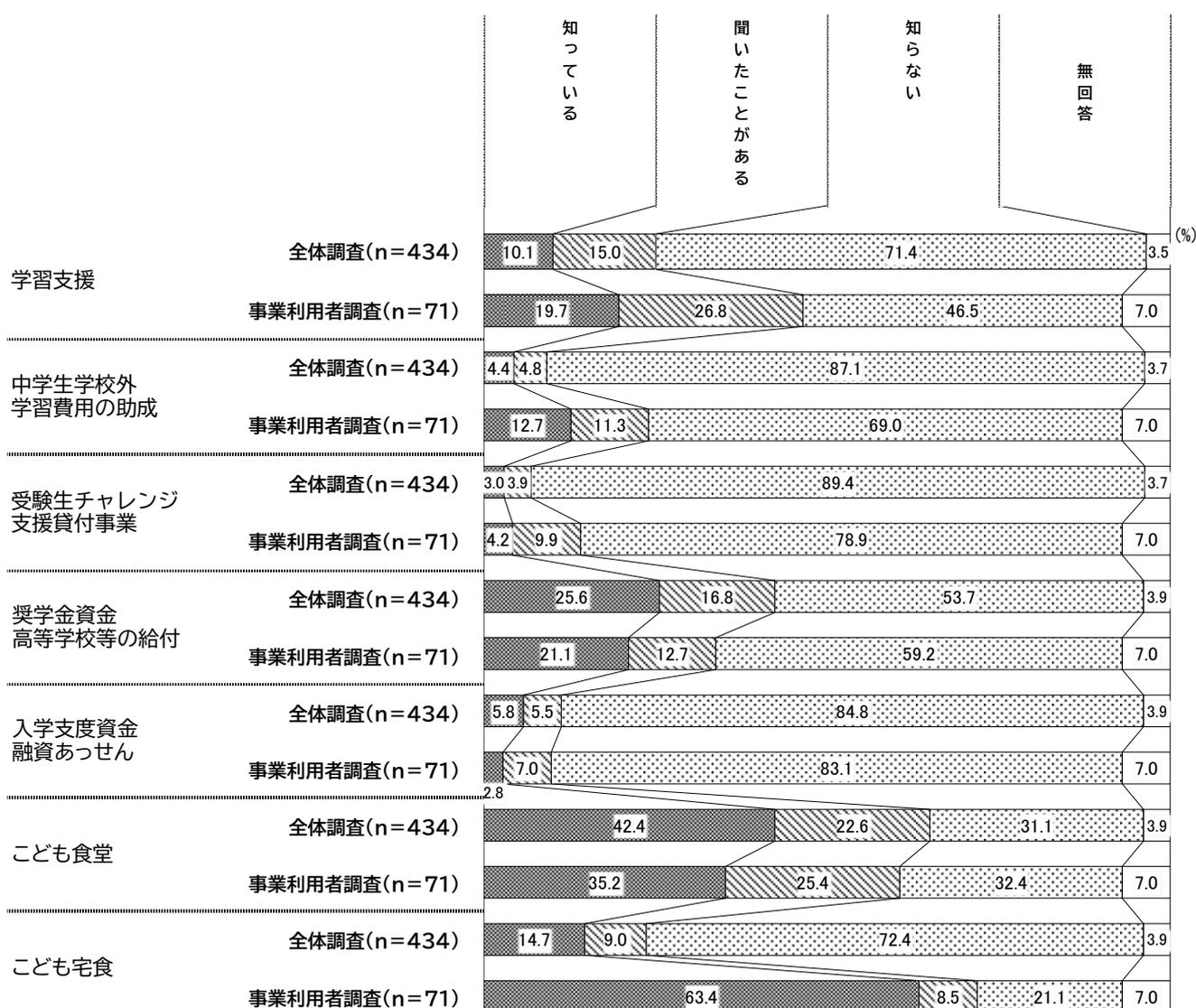


## (2) 区実施事業の認知状況

【問】 文京区で行っている次の取組について、おたずねします。それぞれ、あてはまるものに○を付けてください。

区実施事業の利用状況を尋ねたところ、「知っている」は、全体調査では「こども食堂」が42.4%と最も多く、次いで「奨学金資金高等学校等の給付」が25.6%となっている。事業利用者調査は「こども宅食」が63.4%と最も多く、「こども食堂」が35.2%、「奨学金資金高等学校等の給付」が21.1%と続いている。

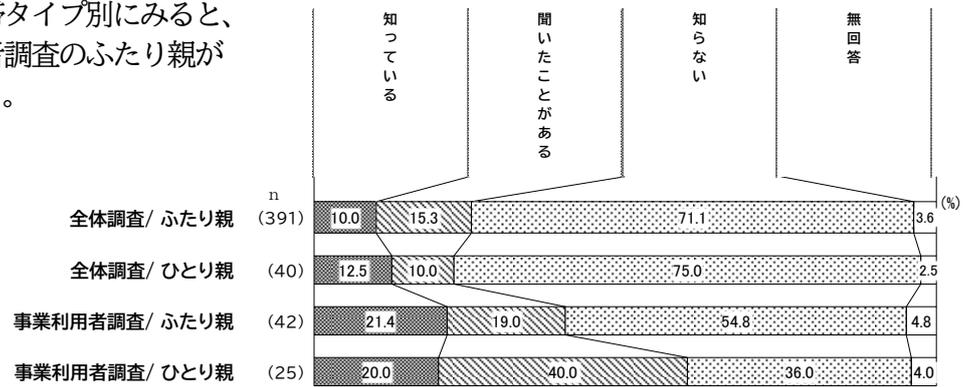
<図表 区実施事業の認知状況 (全体調査・事業利用者調査比較) >



## 【1】学習支援 認知状況

学習支援の認知状況を世帯タイプ別にみると、「知っている」は事業利用者調査のふたり親が21.4%と最も多くなっている。

<図表 学習支援の認知状況（世帯タイプ別）>

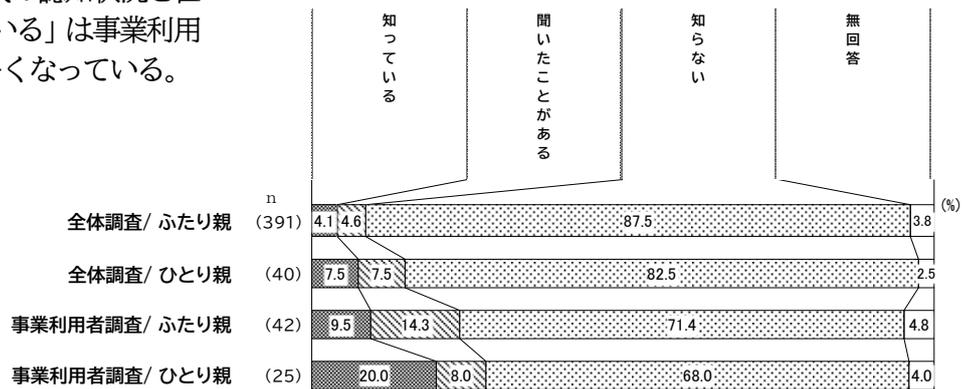


※事業利用者調査/ひとり親 (n=25)はサンプル数が30未満のため参考値として表示している

## 【2】中学生学校外学習費用の助成 認知状況

中学生学校外学習費用の助成の認知状況を世帯タイプ別にみると、「知っている」は事業利用者調査のふたり親が9.5%と多くなっている。

<図表 中学生学校外学習費用の助成 認知状況（世帯タイプ別）>



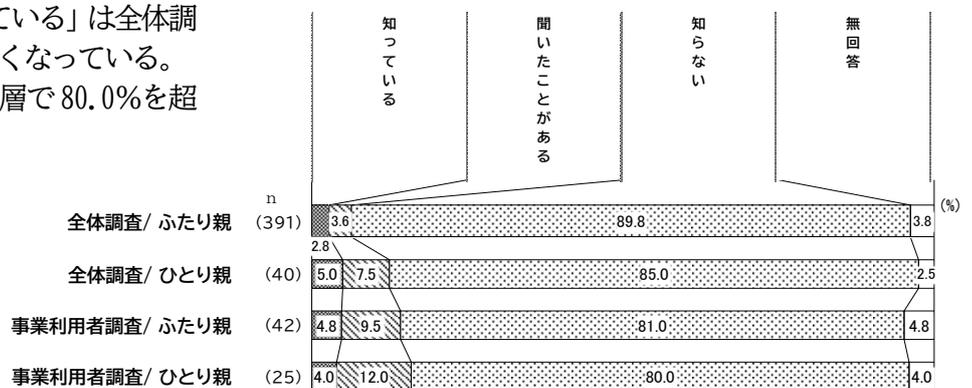
※事業利用者調査/ひとり親 (n=25)はサンプル数が30未満のため参考値として表示している

## 【3】受験生チャレンジ支援貸付事業 認知状況

受験生チャレンジ支援貸付事業の認知状況を世帯タイプ別にみると、「知っている」は全体調査のひとり親が5.0%と最も多くなっている。

一方、「知らない」はすべての層で80.0%を超えている。

<図表 受験生チャレンジ支援貸付事業 認知状況（世帯タイプ別）>

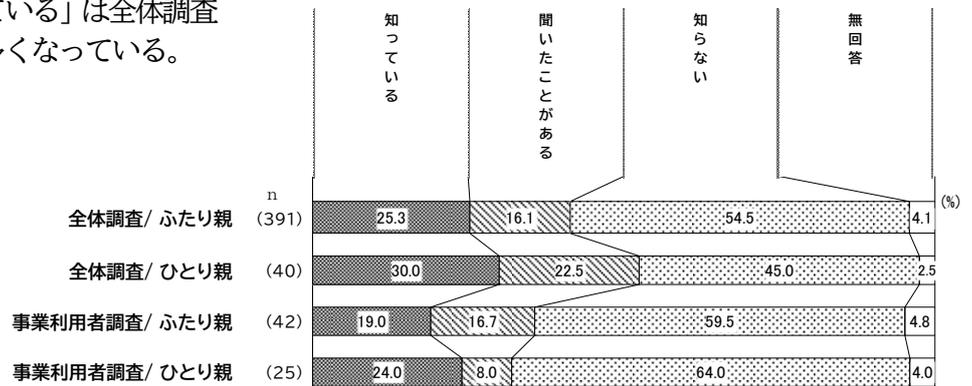


※事業利用者調査/ひとり親 (n=25)はサンプル数が30未満のため参考値として表示している

#### 【4】奨学金資金高等学校等の給付 認知状況

奨学金資金高等学校等の給付の認知状況を世帯タイプ別にみると、「知っている」は全体調査のひとり親が30.0%と最も多くなっている。

<図表 奨学金資金高等学校等の給付 認知状況 (世帯タイプ別) >



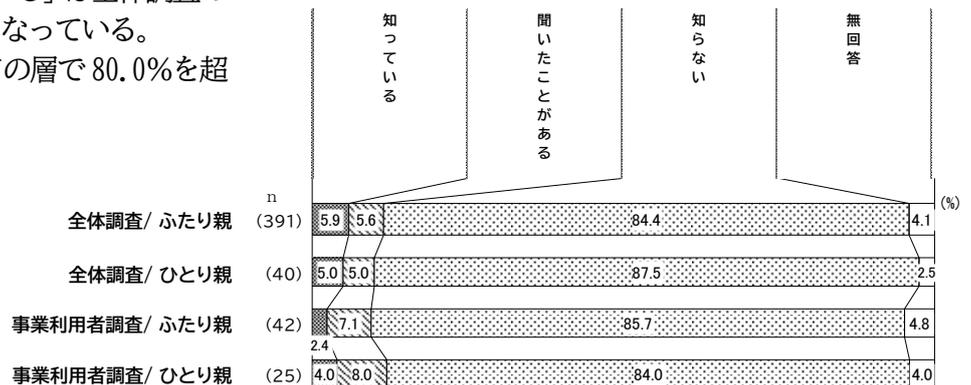
※事業利用者調査/ひとり親 (n=25)はサンプル数が30未満のため参考値として表示している

#### 【5】入学支度資金融資あっせん 認知状況

入学支度資金融資あっせんの認知状況を世帯タイプ別にみると、「知っている」は全体調査のふたり親が5.9%と最も多くなっている。

一方、「知らない」はすべての層で80.0%を超えている。

<図表 入学支度資金融資あっせん 認知状況 (世帯タイプ別) >

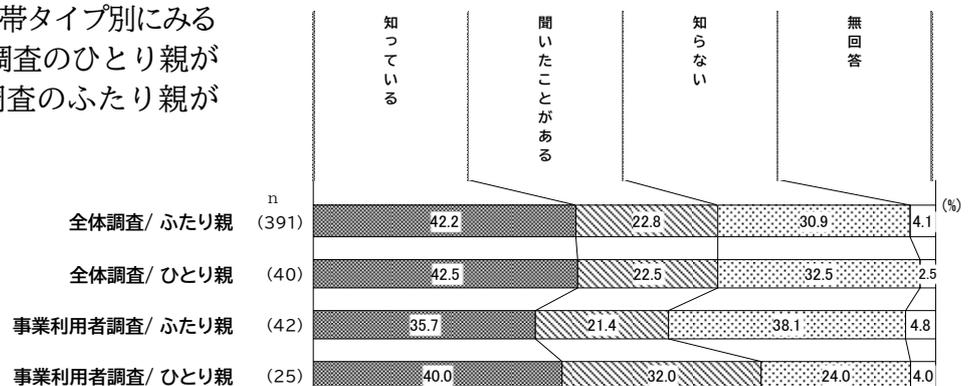


※事業利用者調査/ひとり親 (n=25)はサンプル数が30未満のため参考値として表示している

#### 【6】こども食堂 認知状況

こども食堂の認知状況を世帯タイプ別にみると、「知っている」は全体調査のひとり親が42.5%と最も多く、全体調査のふたり親が42.2%と続いている。

<図表 こども食堂 認知状況 (世帯タイプ別) >

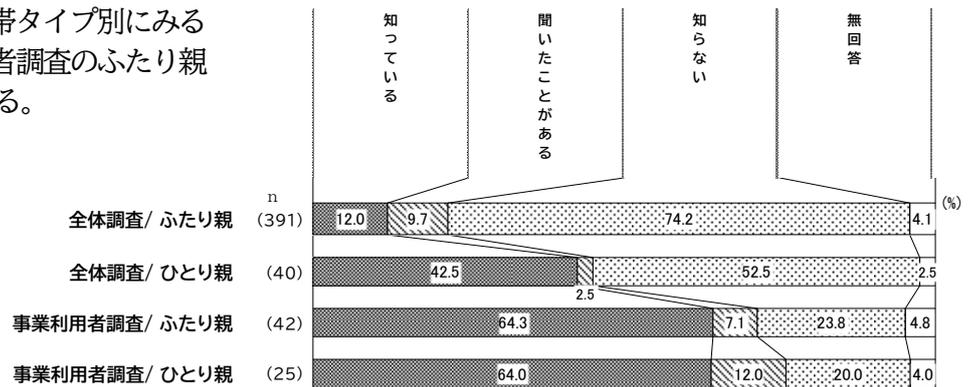


※事業利用者調査/ひとり親 (n=25)はサンプル数が30未満のため参考値として表示している

## 【7】こども宅食 認知状況

こども宅食の認知状況を世帯タイプ別にみると、「知っている」は事業利用者調査のふたり親が64.3%と最も多くなっている。

<図表 こども宅食 認知状況 (世帯タイプ別) >



※事業利用者調査/ひとり親 (n=25)はサンプル数が30未満のため参考値として表示している

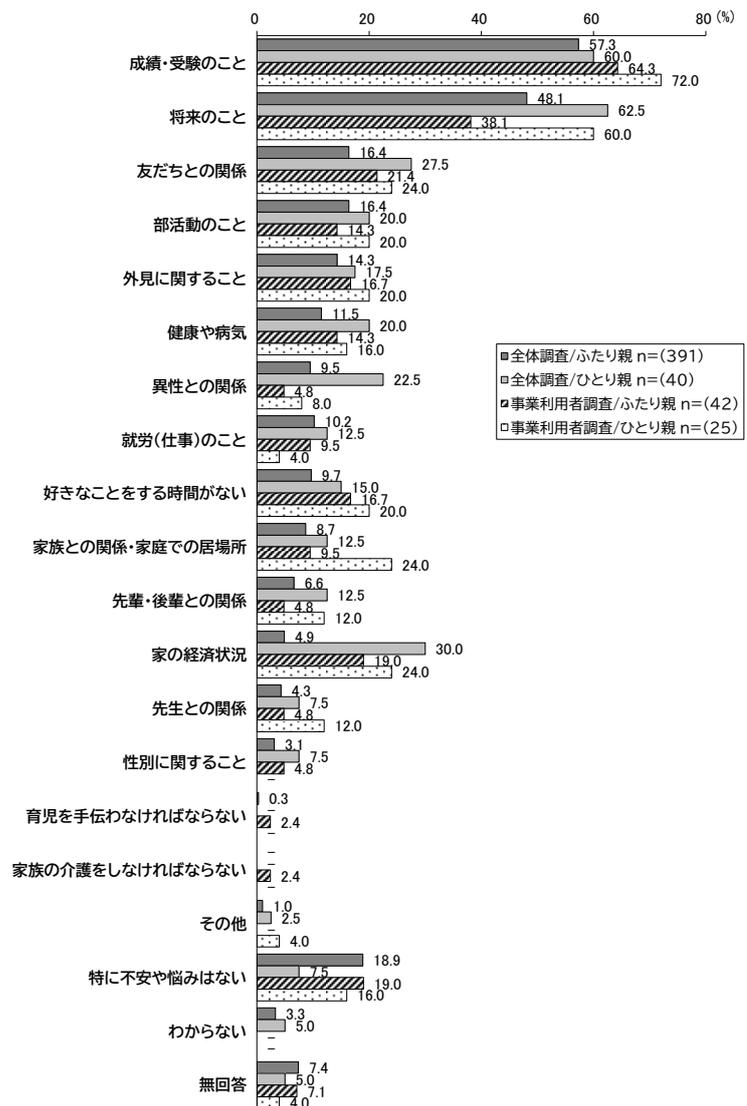
## (3) 不安や悩みの有無

【問】あなたは今、不安や悩みはありますか。あてはまる答えの番号すべてに○を付けてください。

不安や悩みの有無を尋ねたところ、全体調査のひとり親以外のすべての層で「成績・受験のこと」が最も多くなっている。全体調査のひとり親では「将来のこと」が最も多くなっている。

※事業利用者調査/ひとり親 (n=25)はサンプル数が30未満のため参考値として表示している

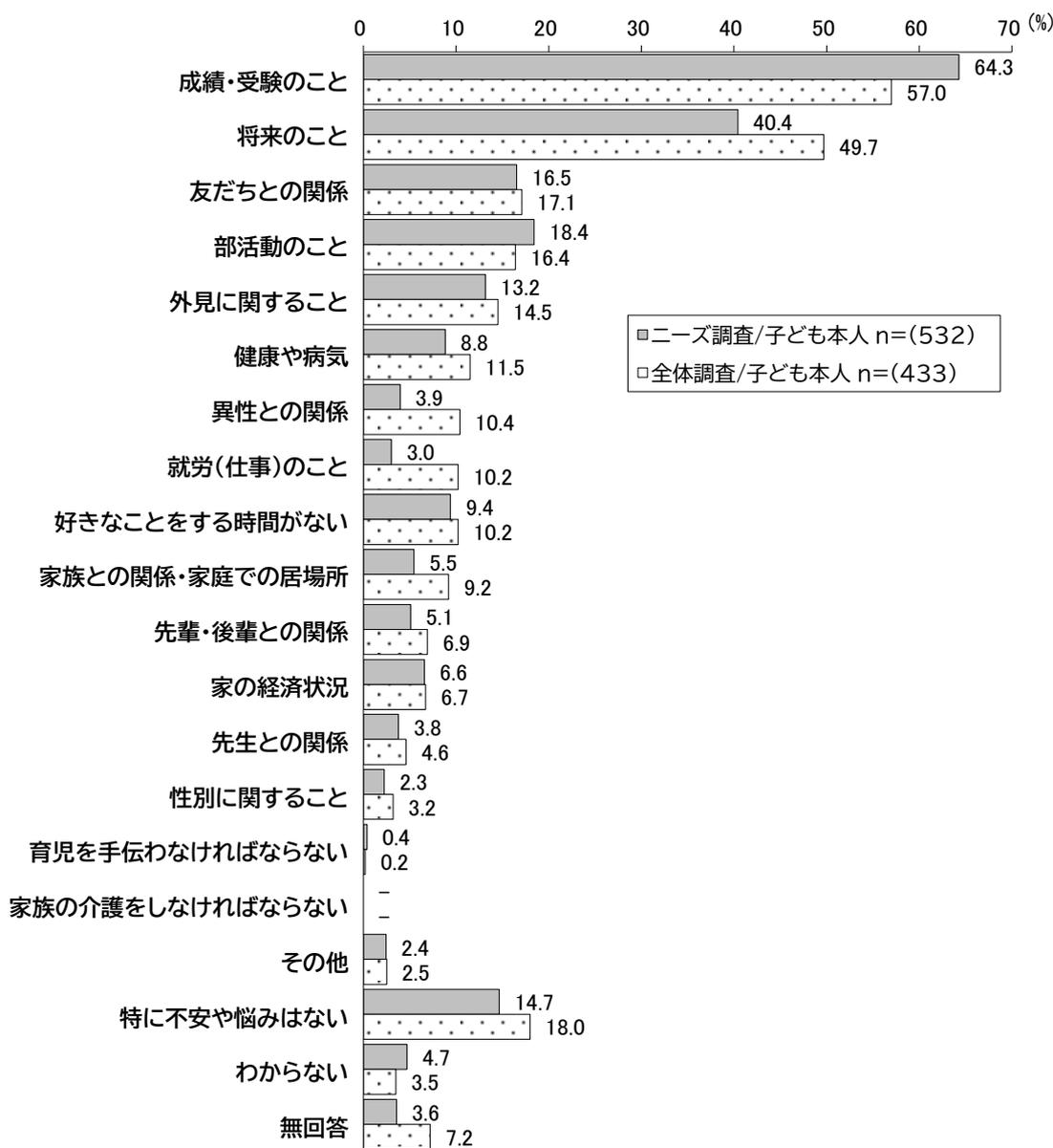
<図表 不安や悩みの有無 (全体調査・事業利用者調査比較) >



不安や悩みの有無について平成30年度実施のニーズ調査と比較したところ、全体調査の方がH30ニーズ調査よりも「将来のこと」は9.3ポイント増加しており、「就労（仕事）のこと」は7.2ポイント増、「異性との関係」は6.5ポイント増と続いている。

反対に、「成績・受験のこと」は7.3ポイント減少している。

<図表 不安や悩みの有無（H30 ニーズ調査・全体調査比較）>

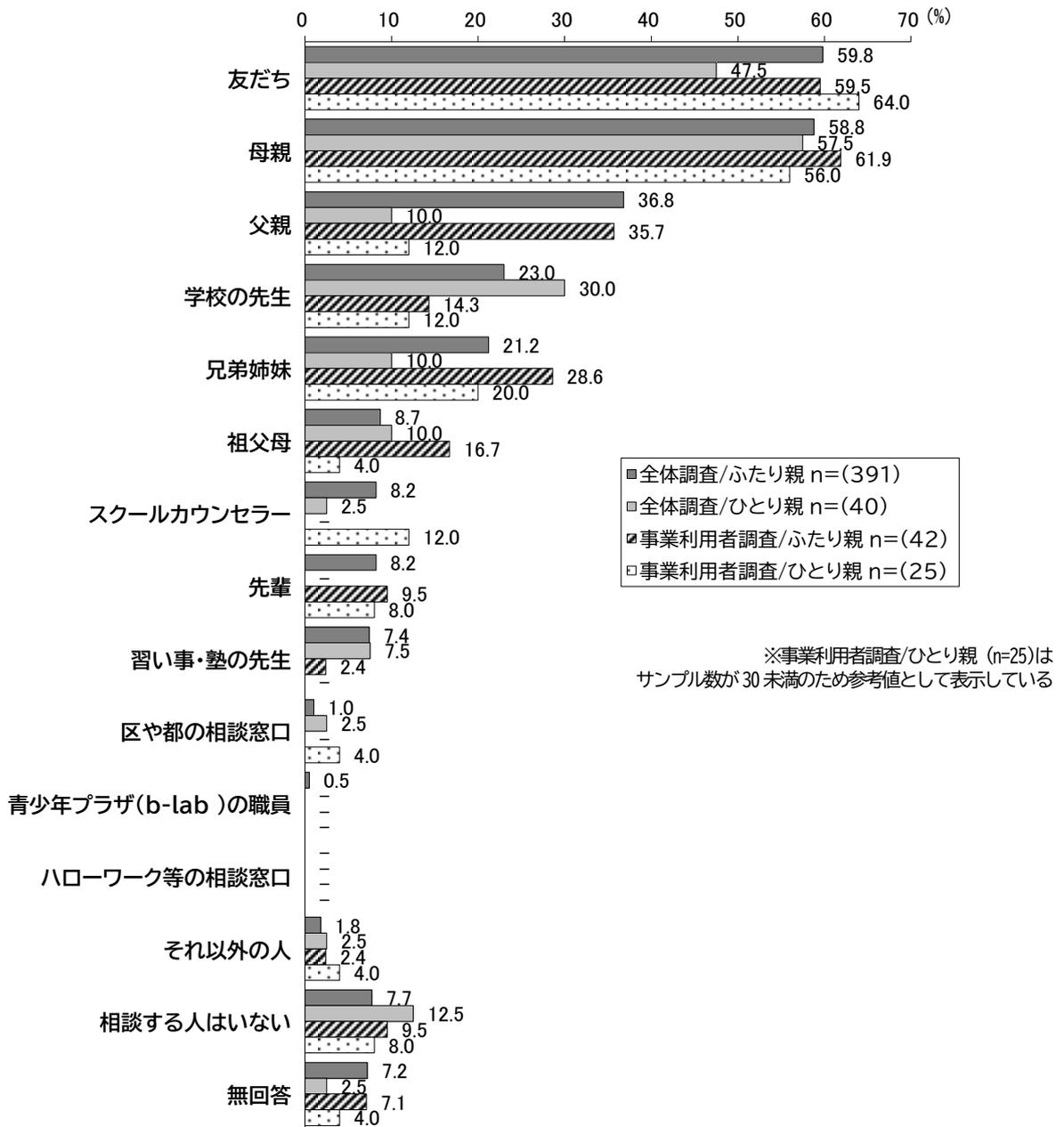


## (4) 悩みごとや心配ごとの相談先

【問】あなたが悩みごとや心配ごとを相談するとしたら、誰に相談しますか。あてはまる答えの番号すべてに○を付けてください。

悩みごとや心配ごとの相談先を尋ねたところ、全体調査のふたり親では「友だち」が最も多くなっている。全体調査のひとり親と事業利用者のふたり親では「母親」が最も多くなっている。

<図表 悩みごとや心配ごとの相談先（全体調査・事業利用者調査比較）>

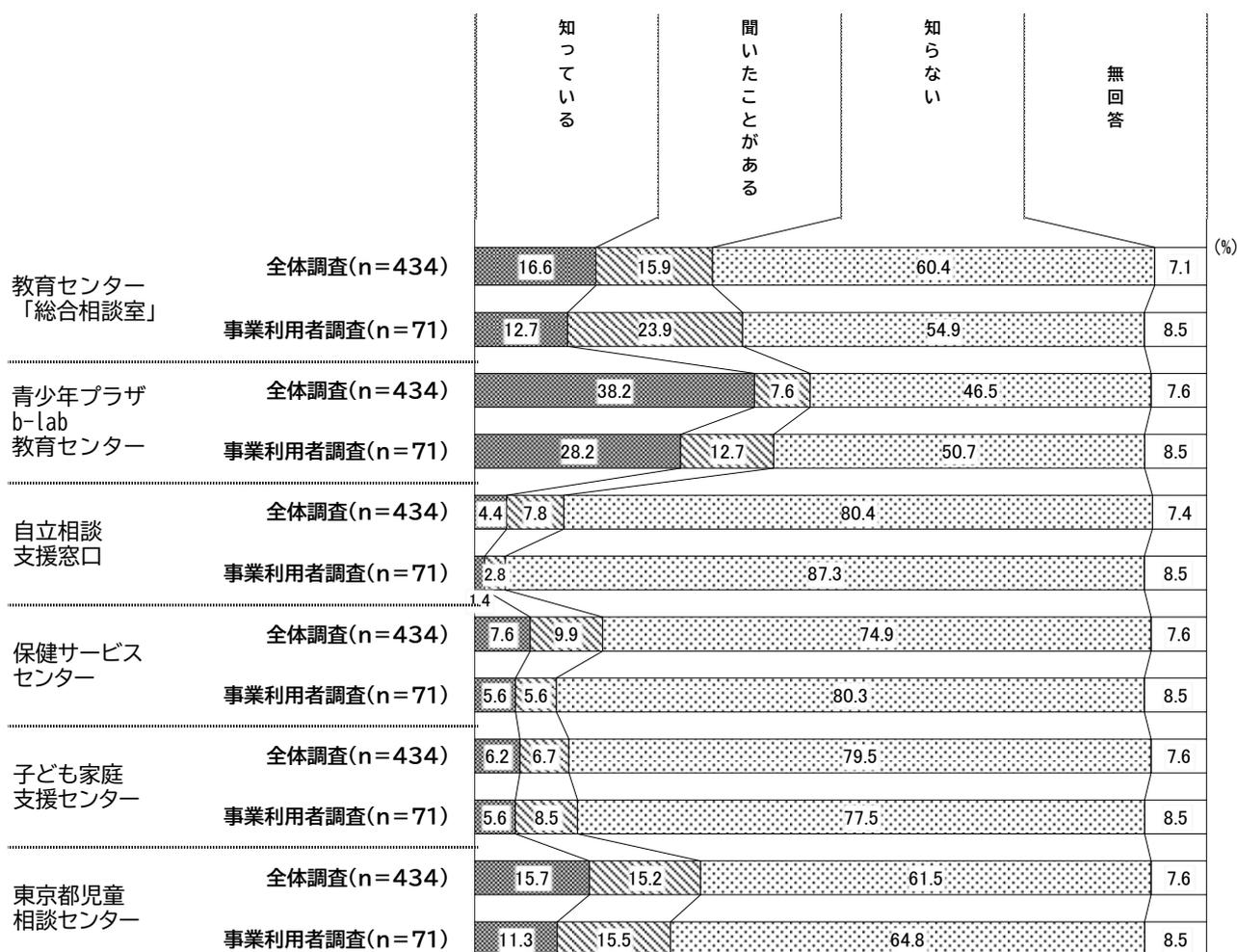


## (5) 相談窓口について

【問】困ったときの相談窓口で、知っているもの、利用したいかどうか等を教えてください。それぞれあてはまるものに○を付けてください。

相談窓口の認知状況を尋ねたところ、「知っている」は、全体調査、事業利用者調査ともに「青少年プラザb-lab 教育センター」が最も多く、全体調査が38.2%、事業利用者調査が28.2%となっている。次いで「教育センター「総合相談室」」が全体調査16.6%、事業利用者調査12.7%、「東京都児童相談センター」が全体調査15.7%、事業利用者調査11.3%と続いている。

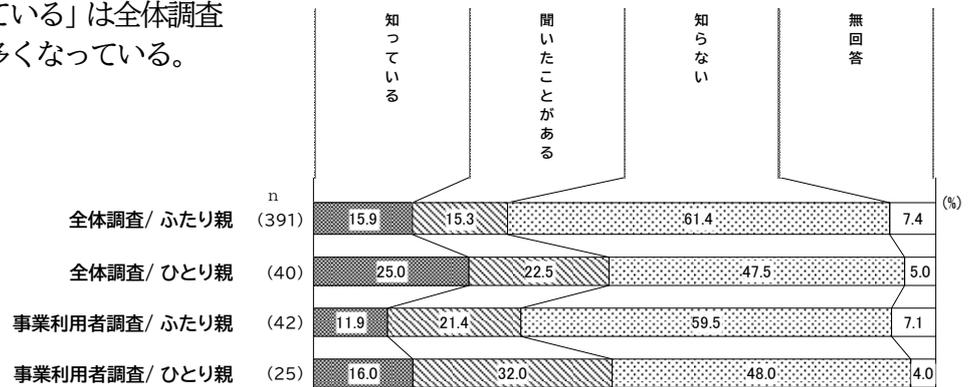
<図表 相談窓口の認知状況（全体調査・事業利用者調査比較）>



## 【1】教育センター「総合相談室」 認知状況

教育センター「総合相談室」の認知状況を世帯タイプ別にみると、「知っている」は全体調査のひとり親が25.0%と最も多くなっている。

<図表 教育センター「総合相談室」の認知状況（世帯タイプ別）>

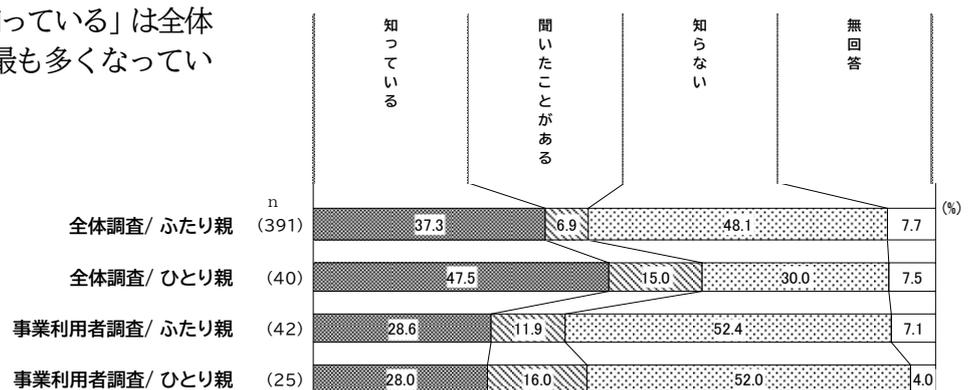


※事業利用者調査/ひとり親 (n=25)はサンプル数が30未満のため参考値として表示している

## 【2】青少年プラザ b-lab 教育センター 認知状況

青少年プラザb-lab 教育センターの認知状況を世帯タイプ別にみると、「知っている」は全体調査のひとり親が47.5%と最も多くなっている。

<図表 青少年プラザb-lab 教育センター 認知状況（世帯タイプ別）>



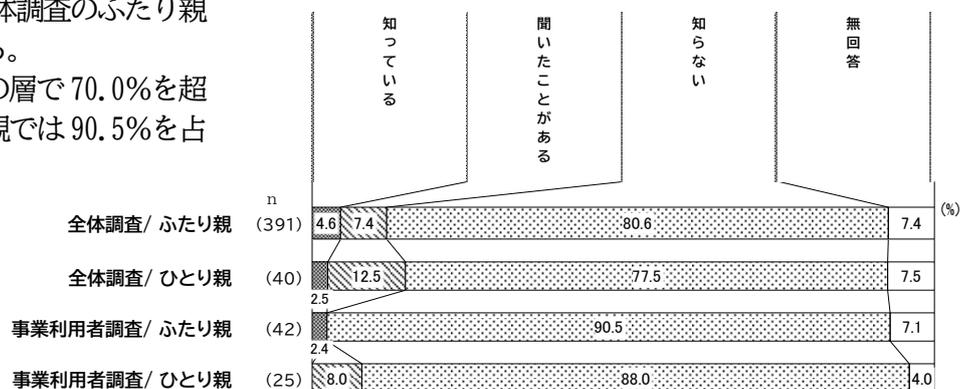
※事業利用者調査/ひとり親 (n=25)はサンプル数が30未満のため参考値として表示している

## 【3】自立相談支援窓口 認知状況

自立相談支援窓口の認知状況を世帯タイプ別にみると、「知っている」は全体調査のふたり親が4.6%と最も多くなっている。

一方、「知らない」はすべての層で70.0%を超え、事業利用者調査のふたり親では90.5%を占めている。

<図表 自立相談支援窓口 認知状況（世帯タイプ別）>



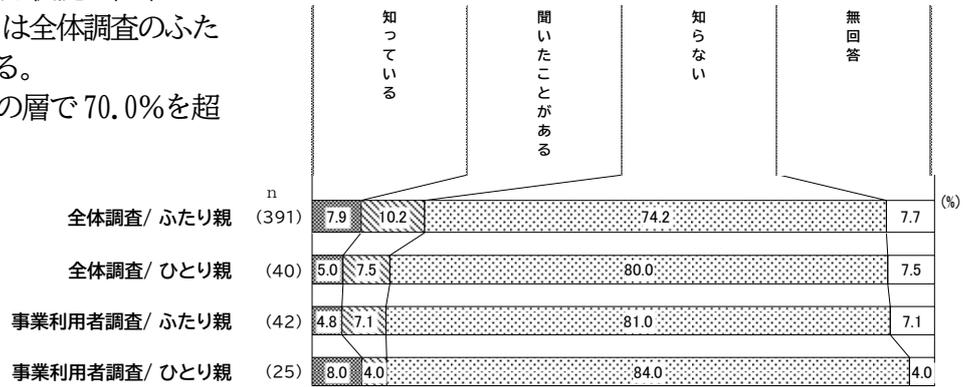
※事業利用者調査/ひとり親 (n=25)はサンプル数が30未満のため参考値として表示している

#### 【4】保健サービスセンター 認知状況

保健サービスセンターの認知状況を世帯タイプ別にみると、「知っている」は全体調査のふたり親が7.9%と多くなっている。

一方、「知らない」はすべての層で70.0%を超えている。

<図表 保健サービスセンター 認知状況（世帯タイプ別）>

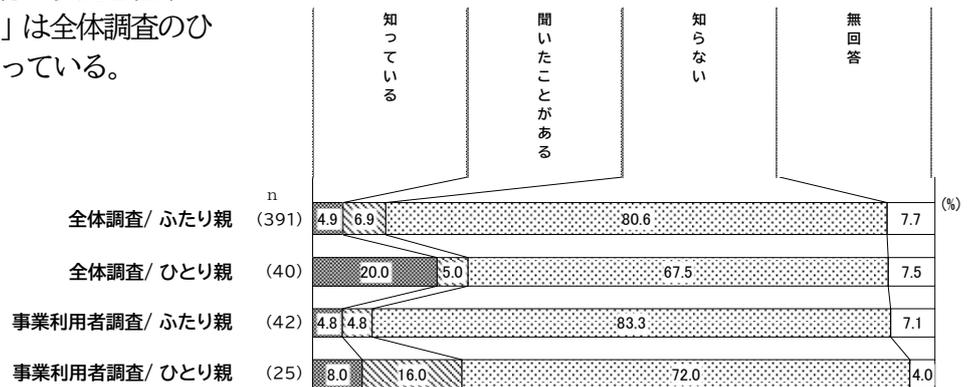


※事業利用者調査/ひとり親 (n=25)はサンプル数が30未満のため参考値として表示している

#### 【5】子ども家庭支援センター 認知状況

子ども家庭支援センターの認知状況を世帯タイプ別にみると、「知っている」は全体調査のひとり親が20.0%と最も多くなっている。

<図表 子ども家庭支援センター 認知状況（世帯タイプ別）>

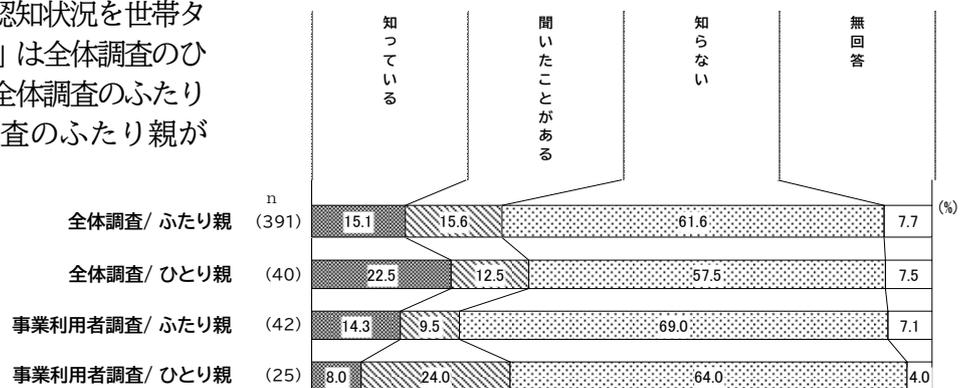


※事業利用者調査/ひとり親 (n=25)はサンプル数が30未満のため参考値として表示している

#### 【6】東京都児童相談センター 認知状況

東京都児童相談センターの認知状況を世帯タイプ別にみると、「知っている」は全体調査のひとり親が22.5%と最も多く、全体調査のふたり親が15.1%、事業利用者調査のふたり親が14.3%と続いている。

<図表 東京都児童相談センター 認知状況（世帯タイプ別）>



※事業利用者調査/ひとり親 (n=25)はサンプル数が30未満のため参考値として表示している

## 第4章 資料（自由記載）



## 1. 自由記載

「文京区 子どもの生活状況調査」でいただいた自由意見について、取りまとめのうえ、各分類の代表意見を抜粋し、掲載しております。

### 文京区へのご意見・ご要望（保護者調査）

571名から延べ677件の記述回答がありました。その内容分類別の件数と下記のとおりです。

#### 子育て支援施策に対する意見……………83件

##### ご意見の内容(抜粋)

- とても手厚くたくさんの制度を設けていただいていると感じています。
- 出産前から、子ども用品セットをいただきましたし、産後の保健師さんの訪問、ベビーシッター費用補助、子育て広場、児童館、区保育園の一時預かりなど、利用させていただきました。
- 子育てメールは、子どもが小さいうち毎日励まされ、ひとりじゃないという気持ちになりました。
- Bーぐるバスも料金が安く、子どもは無料なので、短距離でも頻繁に乗っています。コロナ禍が明けたら、楽しい行事などもどんどん企画していただけると嬉しいです。
- 現在、育成手当、児童扶養手当を受給しています。水道代軽減や都営運賃免除、宅食などもあり、本当に有難く、感謝しております。育成手当、児童扶養手当で子どもにおもちゃや絵本、お洋服を買わせていただいています。
- ひとり親は、経済的にも精神的にも日頃から負担が大きいので、手当の対象除外となってサポートはなくなったとしても、宅食や水道代軽減や都営運賃免除だけでも、継続的に利用させていただくことができたら嬉しいです。
- 文京区役所の窓口で対応してくださる方々が、優しい方が多く、窓口へ行くと面倒な顔もせず、いつも笑顔で迎えてくださいます。「こういうサポートがあります。あなたなら利用条件に当てはまり、利用できますよ。」などと、こちらから聞かなくても教えてくださいます。時には一緒に考えてくださったりして、いつも助けていただいています。
- 聞かないと教えてくれないということが、文京区役所の方々は全くありません。いつも快く対応してくださり、安心して文京区で暮らしていきたいポイントの一つになっています。
- 育成室や保育園(両方共に区営の施設)はとてもお世話になり、助けられてきました。今はもう利用していませんが、文京区の子育て支援として、文京区の職員の姿勢はとても誇れるものだと思います。
- 需要の拡大に伴い、施設の在り方に変化が生じてきている様ですが、是非、子育て支援の一環として、職員の人材の育成と施設の理念は大事にしていただきたいと思っています。

支援体制や支援事業のさらなる充実（子育て）……………26件

ご意見の内容(抜粋)
○保健所に子育てのことで相談したところ、ある程度は相談に乗ってくれましたが、発達障害などでなければ、別の担当だと言われました。相談できる組織は複数あると認識していますが、担当分野を明確にしてほしいです。
○本当に些細な疑問、例えば、「YouTube との距離の取り方」、「子どもが叩く」、「おむつ離れ」などを子育てに詳しい方に気軽に相談できる機会があればいいと思います。
○保健所に電話した際は、忙しそうで、気軽に相談することができませんでした。保育園の先生も同様です。
○コロナの影響で、里帰り出産から予定通りに都内に戻れず、子どもの健診を受けられないことがありました。このようなケースに対しても、補助を出したり、還付払いをしたり、里帰り先の自治体と連携を図ったりするなどして柔軟に対応していただくと助かります。
○文京区に区民税を納めているにも関わらず、コロナの影響で、出産前後の子育てに関する恩恵をあまり受けられていない印象が強いです。
○学童保育の利用は3年生までで、それ以降の放課後や長期休みの子どもの過ごし方に大変困っています。他の区では、6年生まで利用出来るところもあるようなので、文京区も検討していただきたいと思います。
○コロナ感染症拡大による学校の休校時、職場に行かなければいけませんでしたが、子どもの居場所がなく、学校に相談しましたが、もう少し柔軟な対応をしていただきたかったです。
○他の区では、親の職種によっては、6年生でも学校から学童保育の利用可能とアナウンスがあったところもあったと聞きます。どうぞ、ご検討ください。

支援体制や支援事業のさらなる充実（保育園）……………8件

ご意見の内容(抜粋)
○第一子を保育園に通わせている場合、第二子の出産に際して両親ともに育休を取っても保育園に通わせ続けられるようにしてほしいです。
○年の差のある姉弟を育てていますが、認可保育園に入ろうとする際に、兄弟加点が付かないことがおかしいです。小学3年生までの兄弟しか加点されず、そのことが認可保育園入園の足枷になっています。
○少子化の中、年の差があっても、もう1人もうけて育てているのだから、認可保育園入園の基準を見直してほしいです。
○上の子は来年小学4年生になるので、学習支援も利用させていただこうと思います。認可保育園に通う下の子の習い事までさせることが経済的に難しく、保育園で幼稚園のような教育要素がもう少しあると、その心配がなくなってありがたいです。

支援体制や支援事業のさらなる充実（教育） .....20件

ご意見の内容(抜粋)
<p>○今年度は2学期はじめの特別登校制度を取り入れてもらえなくて困りました。学童も利用していないため、仕事を休まざるを得ませんでした。子ども一人を家においておくわけにもいかないため、次回からは必ず、学童には通ってなくて、かつ就業のため自宅に親がいない家に関しては、特別登校ということで、学校に通わせられる仕組みをつくってください。</p> <p>○育成室事業に関して、引き続き文京区政の中で醸成し続けていただきたいと思います。当該事業は子どもにとっても親にとってもかけがえのないものであり、現行の体制を維持しつつ、現場の声を吸い上げて、必要に応じて改善していただきたいと思います。</p> <p>○自分自身も小学校のとき、学年の9割が中学受験をする学校でしたが、学校に教育を求めている雰囲気がありました。今の子どもにそうなってほしくはありません。</p>

施設整備の充実（子育て施設） .....9件

ご意見の内容(抜粋)
<p>○保育園等にも通わせていない場合、子どものことを一緒に考えてくれる人は家族しかおらず、不安を感じることはあるので、気軽に相談、雑談できる場がほしいです。</p> <p>○新型コロナウイルス感染症の影響で、子育てひろばが予約制になったり、図書館の読み聞かせがなくなったりで、赤ちゃんを育てているお母さんが気軽に行ける場所が少なくなりました。</p> <p>○新型コロナウイルス感染症対策も必要かと思うのですが、子育てひろばに自由に通える環境に戻してほしいです。</p> <p>○共働きで、子どもが病気の際に、保育が活用できない状況でした。病床保育の利用拡充や利用方法の共有をお願いしました。</p> <p>○自宅を閉め出されて帰れない子どもがいた時に、温かい食事ができ、泊まれる施設があれば良いと思いました。夜間でも気軽に。</p>

施設整備の充実（保育園・幼稚園） .....6件

ご意見の内容(抜粋)
<p>○保育園ばかりでなく、幼稚園を増設してほしいです。</p> <p>○月に48時間労働が保育園に子を預けられる基準かと思いますが、実際にはフルタイムで働く人しか入所できないのではないかと思います。パート勤務でも保育園に預けられるよう、園を増やすなど整えてほしいです。</p> <p>○子どもの一時預かりをお願いしたら、保育園入所を案内されました。我が家では、幼稚園を希望しており、保育園には入所させるつもりはありません。結局、入所には1ヶ月以上かかるので、働かない選択をしました。</p>

施設整備の充実（小学校・中学校） .....7件

ご意見の内容(抜粋)
<p>○子どもの数が非常に増加しており、小学校のキャパシティに対して非常に不安を持っています。</p> <p>○先生の人員等については、短期的に生徒が倍増した場合、その対応策を考えておられるのでしょうか。通常でも人口が二倍になる中で、公教育の対応は難しいと思うので、そのあたりの詳細な対応策等があれば情報発信をお願いします。</p> <p>○学校校舎の改修や、空調設備・トイレ・洗面台等の設備、備品等のメンテナンスや補充を積極的に行ってほしいです。</p> <p>○同じ区立学校なのに校舎の設備に差がありすぎます。定期的に各学校の設備を点検し、子ども達が平等に、通常ので環境で学校生活を送れるようにしてほしいです。</p> <p>○図書館をより大きくして、蔵書や子どもたちの読書、学習スペースを増やしてほしいです。</p> <p>○児童増加に伴い、学校教室等の教育設備やインフラが不足しています。</p>

施設整備の充実（図書館・スポーツ教育・学習スペース・習い事等） .....23件

ご意見の内容(抜粋)
<p>○ほかの自治体では建物やその周りの景色が一つの憩いの場として、子育てをしている人が家族揃ってのんびりできる場所としての図書館がたくさんある中で、残念ながら文京区の図書館は建物や設備もすべて古く、憩いの場として機能している場所が少ないように思います。</p> <p>○子どもの居場所を増やしてほしいです。塾や習い事に行っている子どもが多く、学校でも塾や受験の話題が多いようです。</p> <p>○郊外での学習やスポーツ、遊びの場を作してほしいです。</p> <p>○文京区教育センターに参加させていただいています。とても素晴らしい施設と先生達です。子どもパソコン教室や科学教室など、2歳、3歳差の兄弟が同時に参加できるようなプログラムがあるとありがたいです。</p> <p>○各種イベントなどには、親が一人でも参加できるようにしてほしいです。</p>

障害児に対する支援の充実.....8件

ご意見の内容(抜粋)
<p>○障害を持った子どもへの支援を手厚くしてほしいです。</p> <p>○通学支援や移動支援がなかったら、母親は退職するしかなかった状況でした。区全体で、本人と保護者をサポートする体制を構築してほしいです。</p> <p>○「学びの教室」も都からの方針で最大2年間となる可能性があると聞きました。支援が必要な人間に対して支援を切るということは納得しがたいです。ご検討をお願いします。</p> <p>○各種助成制度はあっても、何も手立てがなく、助けを求めて窓口に行ったところで、障害児には健常児のような門戸は開かれていません(特に学習系)。</p> <p>○一般の(障害のない)人とかかわろうとして各種イベントなどに申し込もうとしても入れず、障害児しかいないような隔離された場が使えるのでそちらに案内されてしまいます。</p> <p>○福祉サービスは働く母親には大変使い勝手が悪いので、デイサービスや移動支援は全てやめています。</p> <p>○地域で一般の人と関わって生きて行こうと、母親は消防団や町会の活動に積極的に関わっていても何の役にも立ちません。</p> <p>○本当に助けが必要な人には手が届いていない印象があります。</p> <p>○各種助成制度は一部の人にしか役立っていません。</p>

所得制限について.....65件

ご意見の内容(抜粋)
<p>○中間的な世帯収入層にも手当がほしいと考えます。一定の世帯収入はありますが、文京区で暮らすには生活費が高く、経済負担は大きいと理解しています。</p> <p>○助成金は低所得世帯に軸足を置いています、中間的な世帯収入層にも手厚い支援がないと、いつか文京区では暮らせなくなります。</p> <p>○ぜひ所得基準の撤廃か緩和を検討していただけないでしょうか。このままなら、他自治体にふるさと納税をしたほうが、経済的によほど助かります。</p> <p>○東京で生活していて、生活保護程度の収入でなければ、様々な制度が利用できないというのは現実的ではありません。</p> <p>○ひとり親で家賃負担がある場合には、所得制限を大幅にあげていただくことをご検討いただきたいです。</p>

経済的支援について.....69件

ご意見の内容(抜粋)
○電気代や家賃が払えないということがないよう貯金を切り崩して払っていますが厳しいです。区に相談すると、「いざとなれば生活保護があるから」と言われましたが、そうならないために自助努力をされていて、そのことに対する支援がほしいのです。
○ひとり親のみでなく、我が家のように収入は大きく減らなくても、在宅時間が増えたことで光熱費や食費がかなり増えて、オンライン授業が取り入れられたことでネット代もかかるようになりました。子どもが3人いることで支出の負担が大きいので、子どもが多い世帯への金銭的補償もしっかり考えてほしいです。
○感染予防のための消毒、マスク代もかかり、食事も飽きてしまうのでテイクアウトにしたりしていますが、金銭的に厳しいと子どもにも余裕をもって接することが出来ず、怒ることも増えてしまっています。補償をしっかりしてもらい、子どもと安全に安心してゆとりを持って気をつけた生活が出来る体制を取ってほしいです。
○我が家は数年前に住宅ローンも終わっているのですがなんとかやっていますが、子どもたちの教育費が重くのしかかっている状態です。
○塾代は、中学生一年生から少しでも援助していただけると助かります。
○給食無償化などをやっていただきたいです。

公園や遊び場等の整備.....45件

ご意見の内容(抜粋)
○区内すべての公園のトイレをきれいにし、おむつ替え台と、着替えボードを完備してほしいです。
○今年できた音羽にある首都高の高架下のパークロードの公園は、雨の日でも遊べてとても重宝しているので、そういう公園を増やしてほしいです。パークロードの公園のトイレは和式しかないなので、洋式トイレにしてほしいです。
○我が家には小学校低学年と未就学児がいますが、自転車の練習やボール遊びをしたくても、なかなか出来る場所がありません。
○広く安全に遊べる場所として、学校の校庭開放等を積極的に実施していただくことは難しいでしょうか。まわりを見ていると、ボール遊びをしている子も少なく、また自転車の練習場所探しに苦労している親御さんが多いように感じています。
○お年寄りが過ごしやすい施設の整備も大事かと思いますが、これから育つ子どもたちが思い切り遊べる環境を整えてあげてほしいです。
○運動場でボールを出すと見廻りのお年寄りに怒鳴られるので、小学校高学年でも鬼ごっこしかできません。ゲームをしていれば怒られないそうです。健康的ではなく、モヤモヤします。
○子ども時代に近所で楽しい思い出がないと、将来家庭を持ったときに、文京区には住まず転出するかもしれません。
○野球に関しては優先的に運動場練習ができるようですが、小中学生がフットサルやバスケットコートも屋外設置してください。競技によって待遇に差があるように感じます。その協会はいずれも文京区にあるのに、と思います。

**支援体制の周知の充実**.....34件

ご意見の内容(抜粋)
<p>○色々なサービスはあるはずなのですが綿密に調べて、役所側の用語や考え方に合わせてアクセスしないと辿り着けない難しさがあると感じます。本当に困っている人にはぜひアウトリーチをお願いします。</p> <p>○教育センターを利用していますが、担当の方はそれぞれ親切で善意でやったださるものの、制度やあり方として、「公共のサービスはここまで」という壁を感じる人が多いです。</p> <p>○公平さに拘るあまり、公共サービスはここまでという線引きが強く、本当の困りごとに深入りしてくれないように思います。下手すると、「ちゃんとやっていますよ、私たちはやりましたからね」と線を引かれるようなメッセージを感じる時もあります。</p> <p>○制度が多岐にわたり、複雑な印象があり、どれだけの方が自身の家庭に該当する支援を受けられているか疑問が残ります(該当するのに、制度が理解できなくて利用できていない家庭が多いものと推察します)。</p> <p>○区だけの問題ではないと考えていますが、可能な限り、子育てに関わる制度を簡素化し、利用の実効性を高めていただくと良いと思います。</p> <p>○子育て環境は充実していると思いますが、子育てに関する様々な支援制度はPR不足もあり、周知出来ていないと思います。</p> <p>○あくまでも受益者負担とは言え、子育てに関する様々な制度(障害の有無、知的発達に関する支援制度も含めて)は、もっとPRした方が良いと思います。</p>

**区の事業を知るきっかけになった**.....9件

ご意見の内容(抜粋)
<p>○助成金などについて、今回のアンケートで初めて知ったので、そうした施策の存在について、認知度向上の取り組みを行っていただけるとありがたいです。</p> <p>○今回のアンケートで知らなかった支援事業の存在を知ることができてよかったです。</p> <p>○子育てについての支援の中で、当アンケートで初めて知るものもありました。この先の不安や心配に備えられるよう、子育ての段階に応じた支援内容をわかりやすく可視化してほしいと思いました。</p>

**子ども宅食・子ども食堂について**.....9件

ご意見の内容(抜粋)
<p>○いろんな地域に子ども食堂が近くにあったらいいと思います。</p> <p>○子ども食堂が複数あって助かっています。</p> <p>○支援事業があることを知らないことがあるのですが、子ども宅食を始めてからは、子ども宅食事務局が関連の支援事業を案内してくれるので助かっています。</p>

オンラインやICTについて.....28件

ご意見の内容(抜粋)
○自治体によってはオンラインを活用し、学校・家庭・子ども間のコミュニケーション・教育手法を積極的に開発しています。様々なバックグラウンドを持つ家庭があり、本調査に見られるような配慮が必要ですが、コロナ禍におけるオンラインでの教育手法の実践・トライアンドエラーでとにかく全力で推進していかないと、学力が低下して困るのは子ども達です。
○行政・学校がコロナ禍におけるオンラインでの教育手法を取らなければならない状況下で、懸命にその対策に取り組んでいることは皆わかっているのですが、クレームを恐れず子ども達皆のために大局的観点でとにかく素早く動いてほしいです。
○学校に馴染めない子どもの支援(オンライン授業やオンライン学習の拡充等といった欠席日数削減に向けた取り組みや配慮)や、その子どもと保護者の心のケアをする専門員の配置などを拡充していただきたいです。
○スクールカウンセラーは学校の校内にあり、話しにくいので、守秘義務が明確に守られているような独立の相談室の設置を望みます。
○ICTを活用した授業を増やしてほしいです。ICTを活用し、紙の配布を減らせば経費も抑えることができるのではないかと思います。
○教科書は、電子化できているものを検定で採用してはいかがでしょうか。
○電子版と書籍版の両方を活用し、書籍版は学校で管理してはいかがでしょうか。
○持ち帰りは配布されたICT用機材のみとし、できる限り通学時の荷物を軽減してほしいです。教科書とICT用機材をランドセルに入れ、その他教材を両手一杯に持って通学させるのは、安全性への配慮が足りないと考えます。
○校長などマネジメントを担える人材の育成や早期からの登用、ICT委員やカウンセラーの複数校勤務、民間からの人材登用など、先進事例への柔軟な対応を要望したいです。

地域との交流.....9件

ご意見の内容(抜粋)
○近所でももう少し上の年齢のお子さまを育てる方とお話したいです。
○今は保育園に通っていますが、その先の小学生の育成室や習い事、通う小学校の様子などを気軽に聞いてみたいです。
○母親はコミュニティを作れる機会がありますが、父親同士のコミュニティがなく、悩みや愚痴も気軽に相談できるパパ友を作るのは難しいと感じます。
○ぜひ料理教室以外でも子連れで集まれる機会作りをお願いします。
○夫は古い封建的思想があり、全く繊細な話ができません。子育ての雑談が電話でもチャットでもいいので、気軽にできる場があるとありがたいです。

コロナウイルス感染症対策について……………25件

ご意見の内容(抜粋)
<p>○コロナ禍の人的な交流支援の取り組みを、継続的にお願いしたいです。</p> <p>○換気や空間除菌など、衛生面の取り組みを元に、乳幼児向けのイベントの開催基準を設けて、開示の上で実施をお願いいたします。</p> <p>○コロナの生活では、親族が遠方だと、ひとり親の負担感は大きいです。コロナにり患した時の、ひとり親向けの施策があると安心できます。</p> <p>○コロナワクチン接種はあくまでも任意なので、学校では接種希望を聞いたり、接種していない子が不利益を被ることがあってはならないとされていますが、文京区が行っているワクチン接種者に対する区内商店での優遇措置キャンペーンは、明らかに施策として矛盾しています。</p>

コロナ禍の教育内容について……………12件

ご意見の内容(抜粋)
<p>○オリンピックの観戦中止など、新型コロナウイルス感染症を理由とする「後ろ向き」な対応がやや気になっています。</p> <p>○子どもにとって、「今」は一度きりです。もちろんコロナに感染して致命的な状況にならないことも大事かもしれませんが、通常通りの対応にどんどん戻していてもよいのではないのでしょうか。</p> <p>○これから先、コロナワクチン接種の有無によって、各種イベント等への参加機会を奪われるなどといったことがないように切望します。</p> <p>○コロナ渦では仕方ないが、行事の中止が多すぎます。運動会、パラリンピック観戦、修学旅行など。感染対策をすればできることはさせてあげたいです。</p> <p>○近隣の学校(私立・国立)は運動会を実施していて、なぜ文京区立はできないのか、子どもの不満がたまります。この時期だから仕方ありませんが、この時期しかできないこともあるのだから、出来る限りやらせてあげたいです。</p> <p>○デジタル化とステイホームによって、周囲に対する関心や、自発的な交流が希薄になっていると思います。</p>

使用料等について……………2件

ご意見の内容(抜粋)
<p>○保育園の料金や学費など、もっと安くなると助かります。</p> <p>○児童手当の支給と、他の区と比較して保育園に入園しやすいこと以外に、どのような子育て支援をされているのかわかりません。</p> <p>○他地域の友人と話していて、収入は変わらないのに、文京区の保育料は高いです。</p>

今後の生活に対する不安等.....7件

ご意見の内容(抜粋)
<p>○金銭的に苦しく、子育て生活をしていけるか不安です。新型コロナウイルス感染症もまだ収束しないので、これから経済的にどうなるのか、政府や国や各自治体になんとかお願いしたいです。</p> <p>○家賃や住宅ローンが高いので、貯金ができないし、そろばん塾程度ならいいけれど、高い受験塾などには行かせられません。今後の子どもの教育費に不安があります。</p> <p>○子どもには伸び伸びと自信を持って生活してほしいと思っています。家賃が高いため引っ越しを検討していますが、今引っ越すと学校も転校させねばならず、家賃の支払いがとても苦しいです。</p>

新たな制度や事業の提案.....30件

ご意見の内容(抜粋)
<p>○第二子以降の育児休職期間中、夫婦で育児休職を取得した場合であっても継続的に保育園に第一子を通わせられるように制度変更していただきたいです。</p> <p>○二人で休職取得すると保育園を休園しなければならない状況では、男性の育児休職取得、新生児育児の経験が深まらず、共同して育児を行う際の意識の差異が大きくなる問題を抱え続けることとなります。</p> <p>○認可保育園について、文京区に限らない話かと思いますが、私立でよい噂のある園が少ないです。公設民営でよいので、区立園化していただきたいです。</p> <p>○幼稚園について、預かり延長を最低でも保育園と同じ18時15分までに延ばしていただきたいです。</p> <p>○大半の園が駅からの遠い場所のために、出勤日に間に合いません。新設や建て替えの場合は、駅から近い立地をご検討いただきたいです。</p> <p>○収入の多寡に関係なく、子どもの才能に応じた学習や技能習得支援を通じて、文京区から日本の未来を担うような子ども・若者が多く育つような支援制度を整え、文教地区としての文京区の評判をさらに高められる支援策を導入してほしいです。</p>

その他の区の事業について.....19件

ご意見の内容(抜粋)
<p>○自転車が歩道を走るため、子どもと歩いてとてもこわいです。何度もぶつかりそうになりました。車道に自転車用通路もあるのになぜなのでしょう。対策をとってほしいです。</p> <p>○心身障害者・見紙おむつ支給について、昨年度までの実費請求が今年度から指定業者からの購入に変わったため、おむつの単価が上がり、以前のように助成上限では必要なおむつがまかなえなくなりました。</p> <p>○交通ルールを遵守するよう学校できちんと教育してほしいです。自転車走行帯を逆走したり、赤信号で歩行者が横断歩道を横断している際に、信号を無視して横から突っ込んで来ます。</p>

区役所の対応について.....3件

ご意見の内容(抜粋)
○子どもに関する申請書類が細分化され過ぎていて、書類を何枚も書く必要があったり、いくつも窓口で訪問する必要があったりと手間もかかるしわかりづらいです。
○子育て中の母親は、ただでさえ子どもの病気等で会社を休むことも多く、窓口で申請書類を出すために有給や半休を取得するのは難しいので、コロナ禍を過ぎても郵送受付を続けてほしいです。
○お昼休憩時間を使って、役所窓口で申請書を提出する際、オフィスが消灯で真っ暗になっており申請書を出しづらく、担当者に休憩中に対応してもらうのに気が引けました。交代制にしているのかもしれませんが、それならばせめて電灯はつけておいてほしいです。
○役所内で横断的な連携をしっかりとってもらい、ひとり親の手続きが一度で済むようになりませんか。そうすれば知らない手続きも自動エントリーしてもらう事もでき助かります。
○取り組みはあるように見えますが役所の方は事務的作業で聞くことも出来ません。聞いても「わからない」と応えるだけで対応はしてくれません。

本調査に対する意見.....56件

ご意見の内容(抜粋)
○このアンケートの意図がわかりません。0歳児の我が家と中学生の親に対して同じアンケートを取るのナンセンスだと思いますし、設問の仕方が悪く、正しく回答できていないものも複数ありました。
○取り組み自体はとても良いと思うので、ぜひ意味のあるものにしてもらえるよう細かな対応やIT化するなどががんばってほしいです。
○回答ありきの質問になっていて意味がないように感じます。回答を元に、統計のしやすいアンケート作成になっているので、生のデータが得られないでしょう。アンケート作成時にバイアスを招いてしまっています。
○子どもの生活状況を保護者の回答を元に調査をするという趣旨かと思いますが、ウェブ上のみのアンケートは収集方法が排他的(年代の高い親御さん、生活困窮者の方のウェブアクセスの難しさへの考慮が見られない)かと思います。
○本当に困っている親御さん、お子さんのいる家庭の声が受け取れているか疑問を感じさせるアンケートでした。
○文京区は比較的年収の高い家庭が多い区かと思いますが、中には埋もれてしまって、声が出せなくなってしまっているお子さん、親御さんもいらっしゃると思います。そうした少数の意見を吸い上げることも出来るよう行政にはお願いいたします。
○今回のアンケートの設問設定は下手であり、納めた税金がしっかり使われていないのではないかと感じます。一所懸命子育てしても報われない区だという認識です。

ご意見の内容(抜粋)
<p>○子どもを持つ若い世代の流入は活気や税収の点では悪いことではないと思いますが、文京区の価値を保ってきた以前からの住人からすると、必要以上の地価、家賃の上昇を招いたことで、子どもにかけられる金額は減っています。</p> <p>○遠足で東京ドームシティを開放してもらえたことに感謝しています。</p> <p>○ハード面だけではなく、ソフト面の教育予算を増やすことを希望したいです。小中高等学校の機能はパンクしており、一校で全てを賄うのは難しいです。</p> <p>○自粛している家庭の子どもほど、学校で自粛していない家庭の子どもの話を聞いて(夏休みの旅行や外食、遊園地など)、羨ましく感じており、問題にはならないものの、親として対応に苦慮することが増えました。自粛生活が長期化する中、行政としてそうした側面への教育や制度などを検討いただきたいと思います。</p> <p>○今は随分と保育園も増え、入りやすくなっている気がして今のお母さんたちを羨ましく思っています。このように様々な取り組みをされているのを感じますが、もっと早く制度を整えてほしかったです。</p> <p>○商店や中小企業への支援も結構ですが、他の区のように子育てに関する支援を充実させてほしいです。</p>

## 文京区へのご意見・ご要望（子ども本人）

43名から延べ47件の記述回答がありました。その内容分類別の件数と下記のとおりです。

### 子育て支援施策に対する意見……………4件

#### ご意見の内容(抜粋)

- 文京区のせいではありませんが、八ヶ岳に行きたかったです。教育環境の充実さは学生から見ても嬉しいです。
- 自分は生まれも育ちも文京区ですが、今まで何かに困るといったことはなかったです。それはきっと区の職員の皆さんが上手くやってくれているからなのだと思います。
- 最近では新型コロナウイルス感染症のことで随分と苦労しているとは思いますが、がんばってください。
- 悩みはありますが、相談しても状況は変わらないので、私には必要ないと思いました。金銭の支援はとてありがたいです。

### 施設整備の充実（図書館・スポーツ教育・学習スペース・習い事等）……………3件

#### ご意見の内容(抜粋)

- 図書館で勉強するとスタッフに嫌な顔をされます。「ここはだめ」と言われます。静かで落ち着いた小6から高校生まで使える自習室をあちこちに作ってください。
- ビーラボ(b-lab)のような物をいっぱい作ってほしいです。
- 勉強が得意ではない人の学校をつくってほしいです。

### 経済的支援について……………3件

#### ご意見の内容(抜粋)

- 私立の学校に通っている人にも区立学校に通っている人と同じように、英検の費用を公費で負担してほしいです。
- 千代田区のように医療費を高校生まで助成してください。
- 前半の質問で「利用してみたいですか」と言われても、親の所得制限で使えないので答えようがないです。
- 医療費が中学生まで無料なのはありがたかったです。大学卒業までは、お金が掛かるので、それまで医療費が無料になったら本当にありがたいです。

公園や遊び場等の整備.....4件

ご意見の内容(抜粋)
<p>○僕は中学校でバスケ部に入っていて、週末に時々小石川運動場などのバスケットコートを使っているのですが、コートが少ないがために混雑している時が多いです。少しでいいので増やしてほしいです。</p> <p>○住みやすい区だと思いますが、本やCD、DVDを扱うお店がたくさんできてほしいです。</p> <p>○安全な公園ができてほしいです。公園が少ない気がしました。</p> <p>○個人で運動(バスケ、サッカーなどの大型スポーツ)のできる場所がありません。コロナ禍で少しはできていた場所も制限されていて、更にはないです。(小石川運動場、江戸川橋体育館など)</p>

支援体制の周知の充実.....5件

ご意見の内容(抜粋)
<p>○私立の学校に通っていると、区のことをあまりわからないし、耳にしたり、目にしたりする機会がありません。</p> <p>○もっと区民に告知してほしいです。</p> <p>○学校が世田谷区にあるので世田谷区の見聞きするけど、文京区の情報も学校経由では入ってこないから知らないことが多いのかもしれない。</p>

区の事業を知るきっかけになった.....7件

ご意見の内容(抜粋)
<p>○知らないこともとても多かったです。文京区は色々なことをしてくれているということがわかりました。</p> <p>○文京区がこんなにたくさんの取り組みをしていたなんて、知りませんでした。私も必要な時に利用してみたいです。</p> <p>○あまり相談窓口について意識したことがなかったため、知らないものが多かったです。ですが、そのようなものが自分の暮らしている区にたくさんあると知り、安心出来ると思いました。</p>

子ども宅食・子ども食堂について ..... 1件

ご意見の内容(抜粋)
<p>○以前、子ども宅食を利用していましたが、必要のないものが多く、やめてしまいました。</p>

新たな制度や事業の提案..... 1件

ご意見の内容(抜粋)
○文京区内で、家庭教師をやりたい人と家庭教師に教えてもらいたい人を募集し、双方のネットワークを作る取り組みを提案させていただきます。文京区は、大学も多く、立地を生かして出来ることだと思います。

その他の区の事業について..... 2件

ご意見の内容(抜粋)
○Bーぐるバスの時刻表やホームページをもっとわかりやすくしてほしいです。

本調査に対する意見..... 8件

ご意見の内容(抜粋)
○アンケート調査を正確に行うために、「利用していた」という項目を増やした方がよいと思いました。「利用していた」という項目があれば、自分も結構それにあてはまります。「利用していた」を選んだ人には、そのあとの質問で利用したいかどうか聞いてみてもいいかもしれません。
○知らない人に相談したくないです。このアンケートは、自分の考えに合う選択肢がなくて答えづらくて困りました。

その他..... 9件

ご意見の内容(抜粋)
○相談窓口はどれほど信頼できるのかわかりません。相談に勇気がいるようでは絶対に相談できないと思います。
○文京区は学校が多いだけで、決して子どもには優しいまちではないです。
○相談は母親や友人にしているので大丈夫です。



## 第5章 資料（調査票）



## 1. 使用した調査票

本調査で使用した調査票は、区のホームページ上に公表いたします。

なお、本調査の全設問項目の一覧表は、第1章 調査の概要（5ページ）に掲載しています。

区ホームページURL：

<https://www.city.bunkyo.lg.jp/kyoiku/kosodate/kekaku/keikaku/jyoukyoutyousa.html>

区ホームページQRコード：



---

文京区子どもの生活状況調査  
報告書

令和4年3月発行

発行：文京区 子ども家庭部 子育て支援課  
文京区春日1丁目16番21号  
電話 03-3812-7111 (代表)

調査：株式会社 サーベイリサーチセンター  
東京都荒川区西日暮里2丁目40番10号  
電話 03-3802-6711 (代表)

印刷物番号：F0121017

---

## 文京区地域福祉推進協議会委員名簿

任期:委嘱の日～令和6年3月31日

番号	区分	氏名	団体名等
1	学識経験者	高橋 紘士	一般社団法人高齢者住宅協会顧問
2		遠藤 利彦	東京大学大学院教授
3		平岡 公一	東京通信大学
4		高山 直樹	東洋大学教授
5		神馬 征峰	東京大学大学院教授
6	団体推薦	弓 幸史	小石川医師会
7		山道 博	文京区医師会
8		佐藤 文彦	小石川歯科医師会
9		三羽 敏夫	文京区歯科医師会
10		岩楯 新司	文京区薬剤師会
11		諸留 和夫	文京区町会連合会
12		坂田 賢司	文京区社会福祉協議会
13		柴崎 清恵	文京区民生委員・児童委員協議会(副会長)
14		木村 始	文京区高齢者クラブ連合会
15		大橋 久	文京区青少年健全育成会
16		大内 悦子	文京区女性団体連絡会
17		佐藤 良文	文京区私立幼稚園連合会
18		高山 礼子	文京区話し合い員連絡協議会
19		宮長 定男	文京区介護サービス事業者連絡協議会
20		中嶋 春子	文京区民生委員・児童委員協議会(主任児童委員)
21		佐々木 妙子	文京区私立保育園(慈愛会保育園)
22		山口 恵子	文京区知的障害者(児)の明日を創る会
23		白土 正介	味わいクラブ
24		平井 芙美	アビーム
25		公募区民	鳩山 多加子
26	水谷 彰宏		(子ども・子育て会議)
27	小倉 保志		(地域包括ケア推進委員会)
28	鈴木 悦子		(地域包括ケア推進委員会)
29	西村 久子		(地域保健推進協議会)
30	小山 忍		(地域保健推進協議会)
31	武長 信亮		
32	篠木 一拓		
33	川上 智子		

## 令和4年度 地域福祉推進本部幹事会 名簿

	幹事会役職	氏名	役職
1	幹事長	竹越 淳	福祉部長
2	副幹事長	木幡 光伸	子ども家庭部長
3	〃	矢内 真理子	保健衛生部長
4	〃	鈴木 裕佳	地域包括ケア推進担当部長
5	幹事	新名 幸男	企画政策部企画課長(事務取扱 企画政策部参事)
6	〃	津田 智	総務部ダイバーシティ推進担当課長
7	〃	鈴木 大助	総務部防災課長
8	〃	福澤 正人	福祉部福祉政策課長
9	〃	進 憲司	福祉部高齢福祉課長
10	〃	宮部 義明	福祉部地域包括ケア推進担当課長
11	〃	橋本 淳一	福祉部障害福祉課長
12	〃	大戸 靖彦	福祉部生活福祉課長
13	〃	阿部 英幸	福祉部介護保険課長
14	〃	中島 一浩	福祉部国保年金課長
15	〃	中島 一浩	福祉部高齢者医療担当課長
16	〃	篠原 秀徳	子ども家庭部子育て支援課長
17	〃	中川 景司	子ども家庭部幼児保育課長
18	〃	永尾 真一	子ども家庭部子ども施設担当課長
19	〃	瀬尾 かおり	子ども家庭部子ども家庭支援センター所長
20	〃	佐藤 武大	子ども家庭部児童相談所準備担当課長
21	〃	熱田 直道	保健衛生部生活衛生課長
22	〃	渡部 雅弘	保健衛生部健康推進課長
23	〃	長嶺 路子	保健衛生部予防対策課長(事務取扱 保健衛生部参事)
24	〃	野苺家 貴之	保健衛生部新型コロナウイルス感染症担当課長
25	〃	大塚 仁雄	保健衛生部保健サービスセンター所長
26	〃	木村 健	教育推進部学務課長
27	〃	赤津 一也	教育推進部教育指導課長
28	〃	石川 浩司	教育推進部児童青少年課長
29	〃	木口 正和	教育推進部教育センター所長